

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

『秘伝千羽鶴折形』をよむ —翻字・解説作業を通して—

Reading through *Hiden Sembazuru Orikata*:
Memoranda on Transcription and Appreciation of it

中村智晴

Nakamura Tomoharu

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

カマドウマ

Camel Cricket

今井 幸太

Imai Kota

折り図 Diagrams

T-Rex 2015

T-Rex 2015

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

つまみおり Information

第5回折紙探偵団九州コンベンション参加申し込み受付開始
The Registration Open for the 5th Origami Tanteidan Kyushu Convention

通巻 150 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

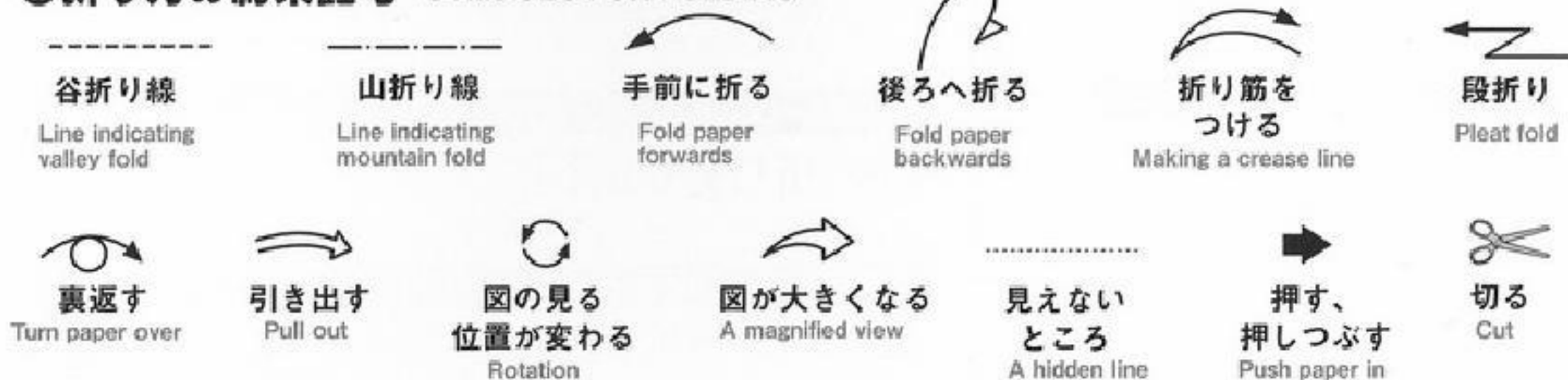
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



「T-Rex 2015」(P.26)

T-Rex 2015 (P.26)

作: 川畑文昭

by Kawahata Fumiaki

■多数のキバが生えている大迫力の頭部。下アゴを折り出すための構造が非常に合理的で、余裕をもって表情付けをすることが可能です。その一方で前足周辺の表現には、実際の長さより長い印象に演出する加工も盛り込まれています。さまざまな技法が違和感なく融合し、川畑氏ならではの開発力が存分に発揮された完成形です。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. **150**



T-Rex 2015: Kawahata Fumiaki

クローズアップ / Close-up

P.15 『秘伝千羽鶴折形』をよむ
 —翻字・解説作業を通して—

Reading through *Hiden Sembazuru*
Orikata: Memoranda on Transcription
 and Appreciation of it

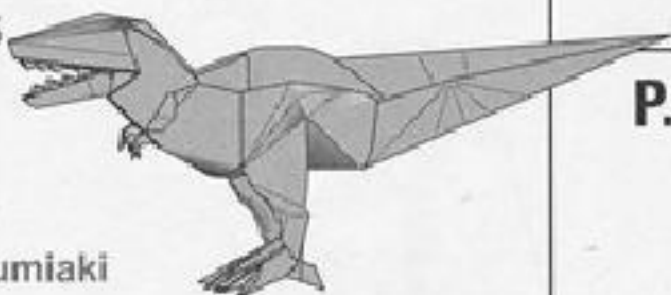
中村智晴
 Nakamura Tomoharu

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 T-Rex 2015

T-Rex 2015

川畑文昭
 Kawahata Fumiaki



P.37 展開図折りに挑戦!
 Crease Pattern Challenge!

カマドウマ

Camel Cricket

今井幸太
 Imai Kota

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー

Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
 Models Based on Diagrams and Crease
 Patterns of This Issue

解説・北條高史
 Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折紙散歩

Exploring into Modular Models

テトラテトラ、ティアドロップ飾り

Tetra-tetra, Teardrop Ornament

前川 淳
 Maekawa Jun

P.10 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

いす、コリー

Chair, Collie

やまぐち真
 Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.7 山口真氏にJOASより感謝状

JOAS Express Their Gratitude to Yamaguchi Makoto

日本折紙学会
 Japan Origami Academic Society

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

桑名「素雲鶴」取材レポート
 A Report on *Sounkaku*

堀口直人、中村智晴
 Horiguchi Naoto, Nakamura Tomoharu

コラム / Columns

P.36 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
 Fuse Tomoko

情報 / Information

P.38 日本折紙学会25期事業報告と26期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 25th Year and
 Prospects in the 26th Year

P.40 つまみおり Rabbit Ear

第5回折紙探偵団九州コンベンション
 参加申し込み受付開始

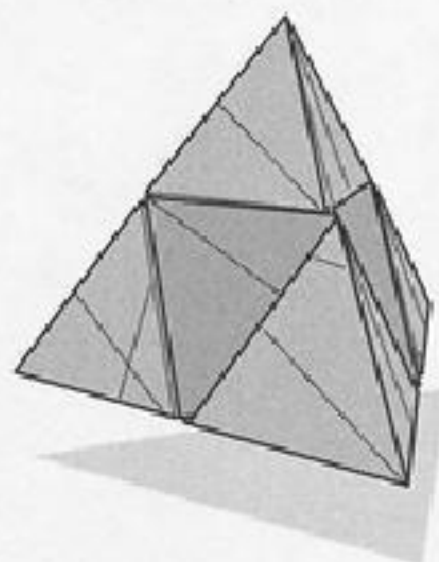
The Registration Open for the 5th Origami Tanteidan
 Kyushu Convention

ユニット折紙散歩

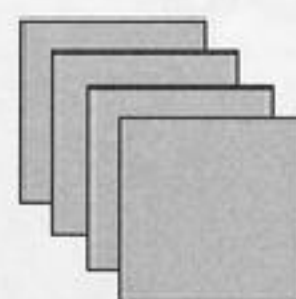
Exploring into Modular Models

前川淳 MAEKAWA Jun

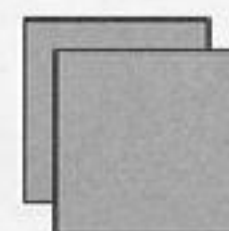
正四面体 (Tetrahedron) が
四個 (Tetra) 集まったかたち
なので、テトラテトラと名づけ
ました。建築で「オクテットラ
ス」と呼ばれる構造になってい
ます。



テトラテトラ Tetra-tetra

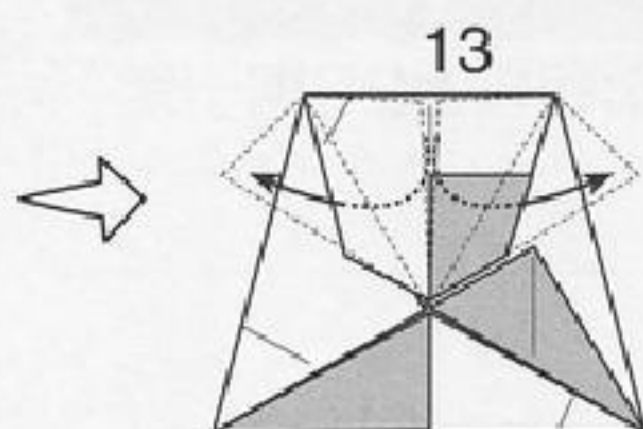
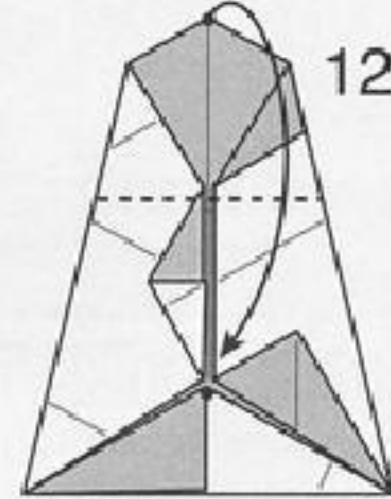
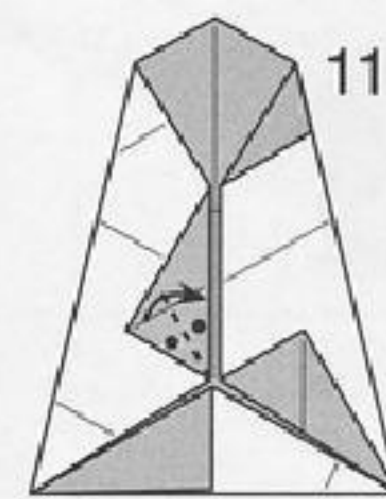
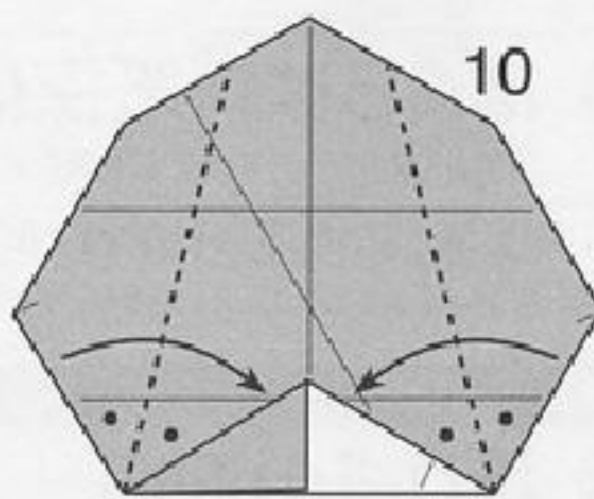
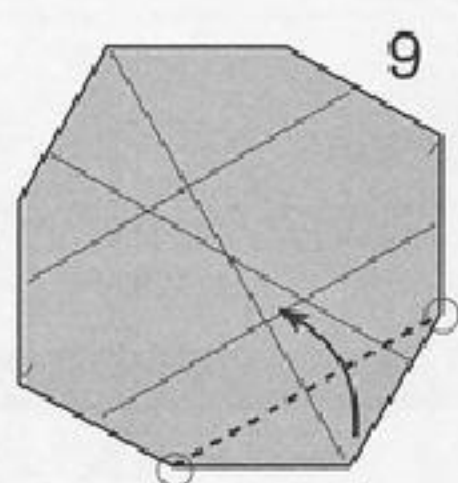
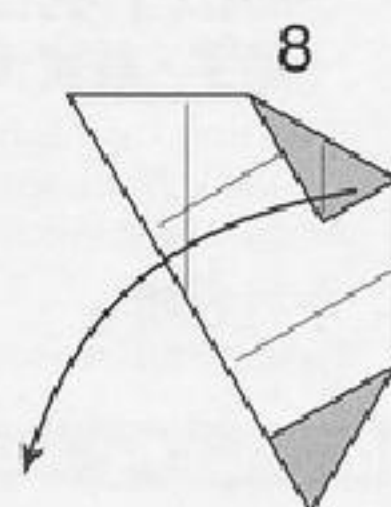
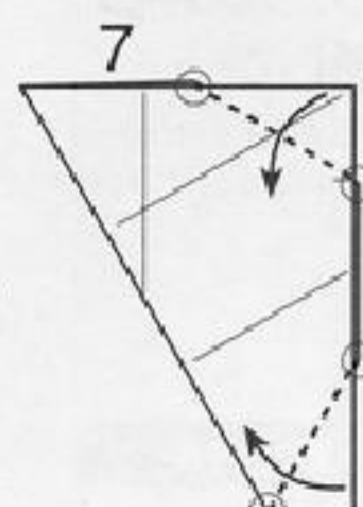
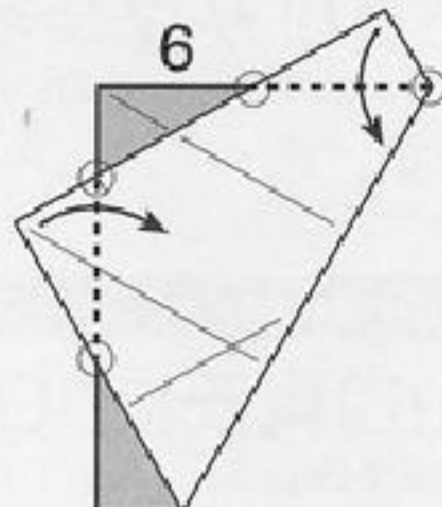
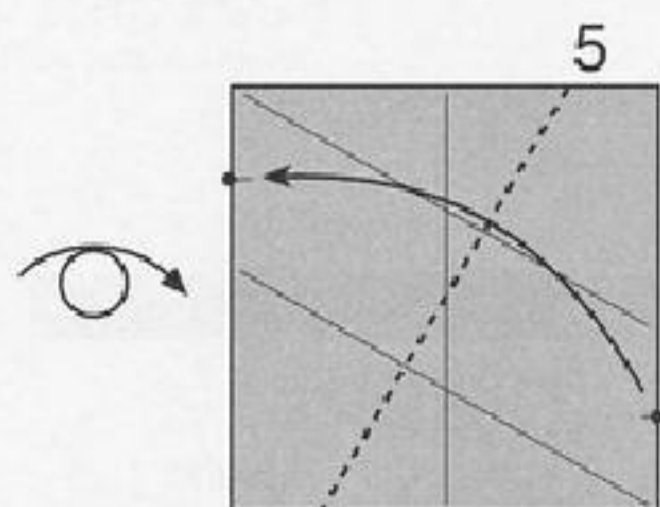
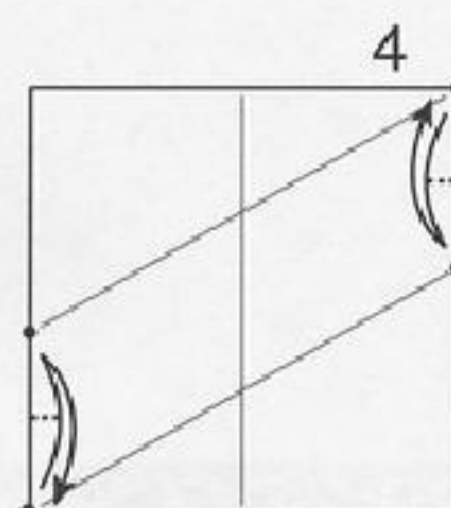
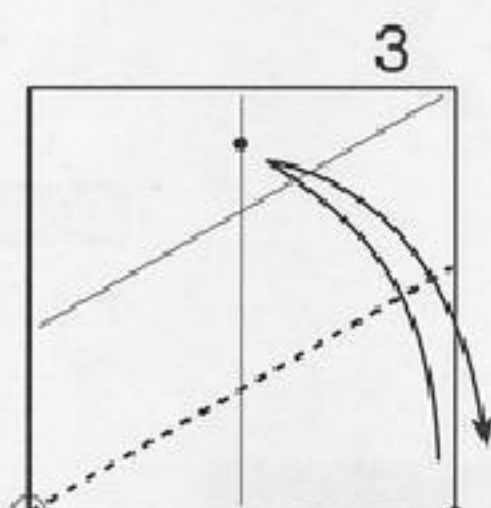
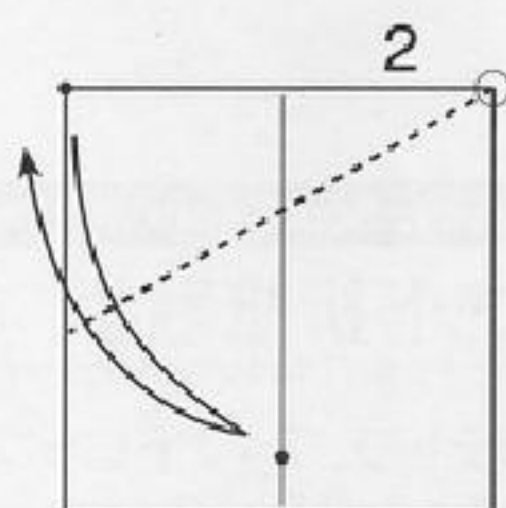
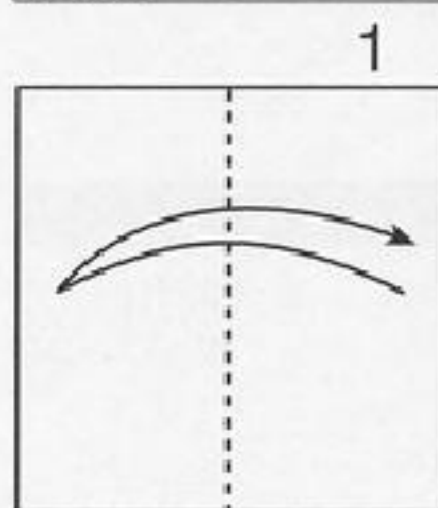


頂点モジュール

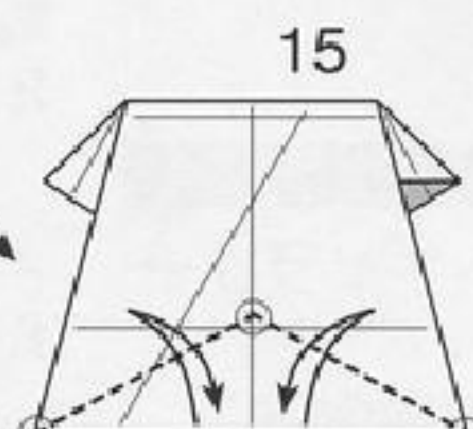
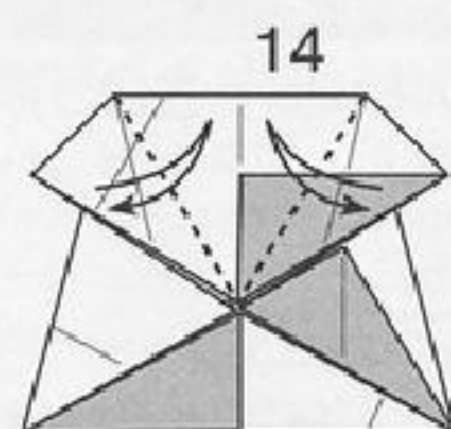


中心モジュール

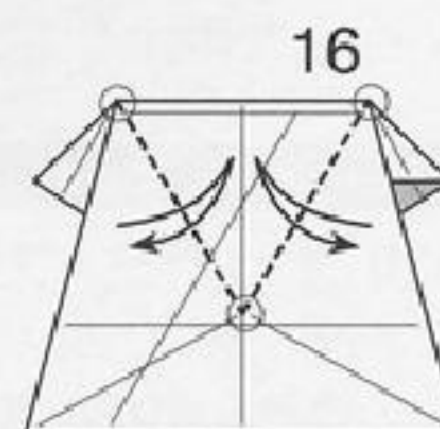
頂点モジュール

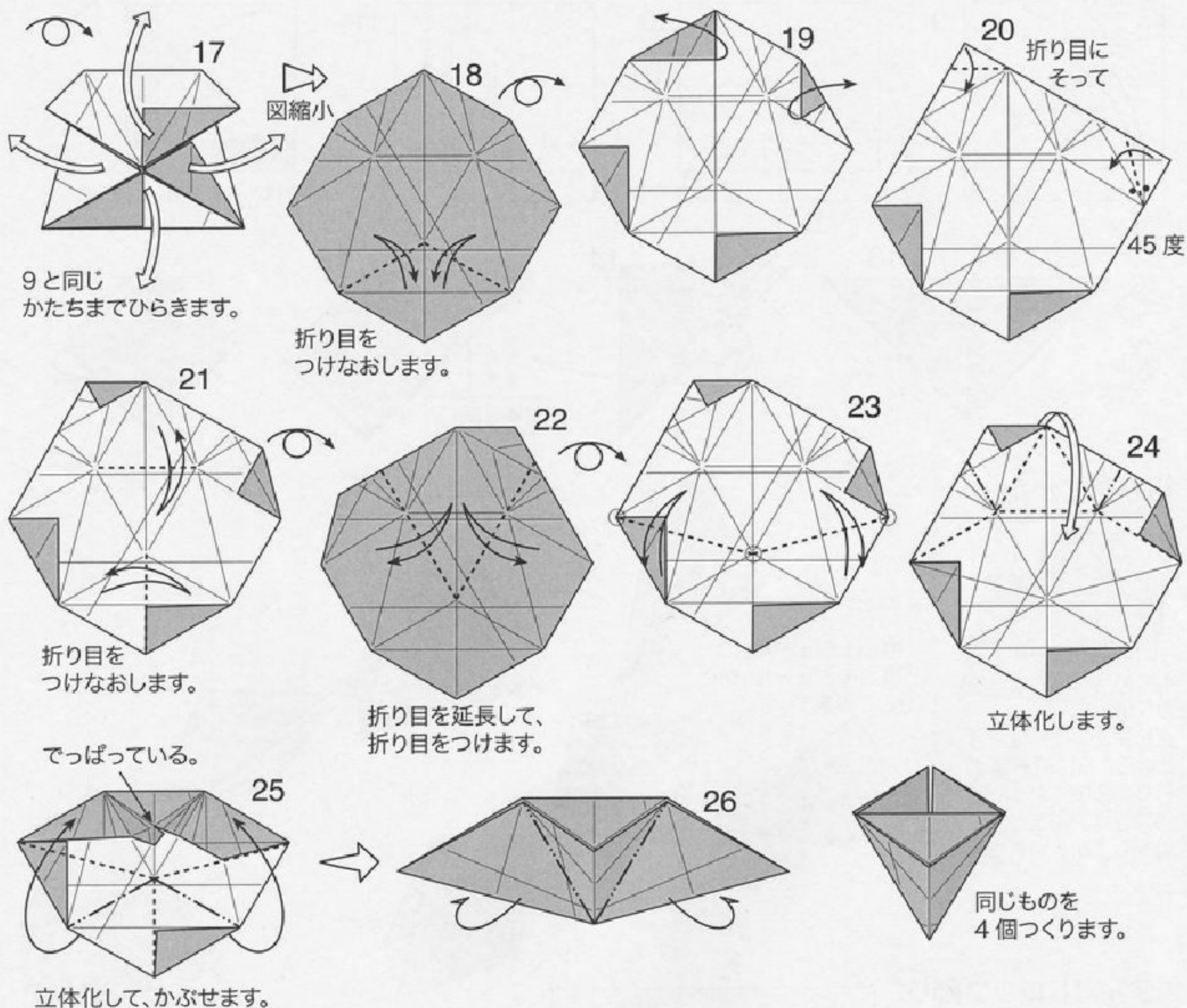


内側のひだをひきだし、
頂点をそろえます。

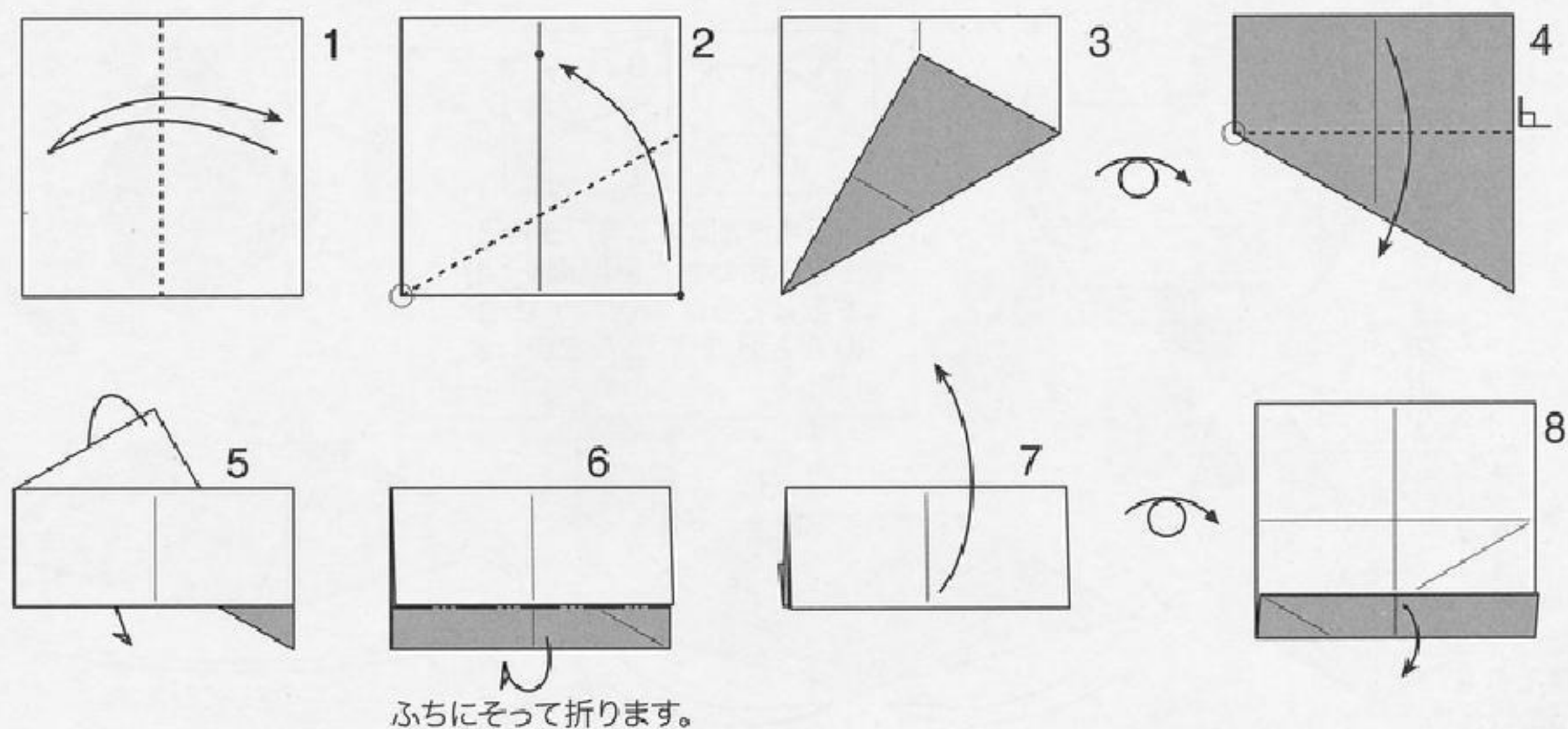


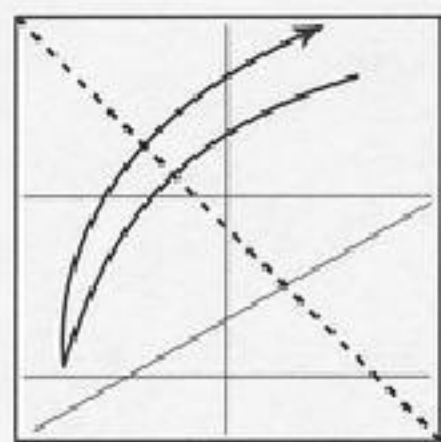
裏側の段にそって、
折り目をつけます。



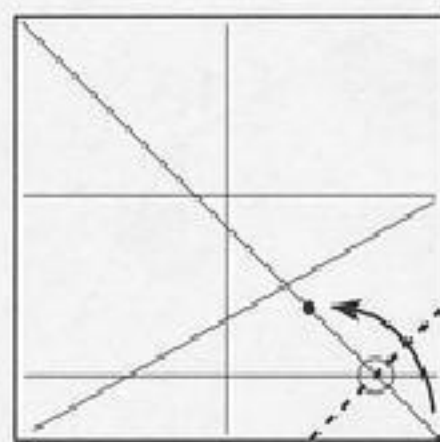


中心モジュール

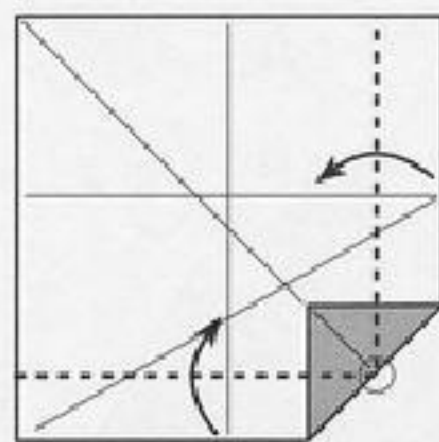




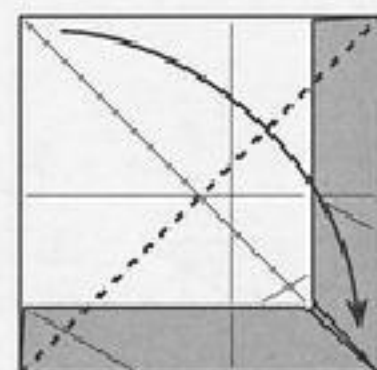
9



10

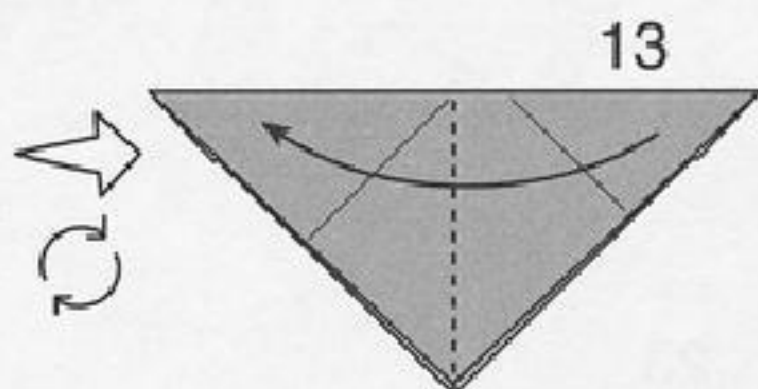


11

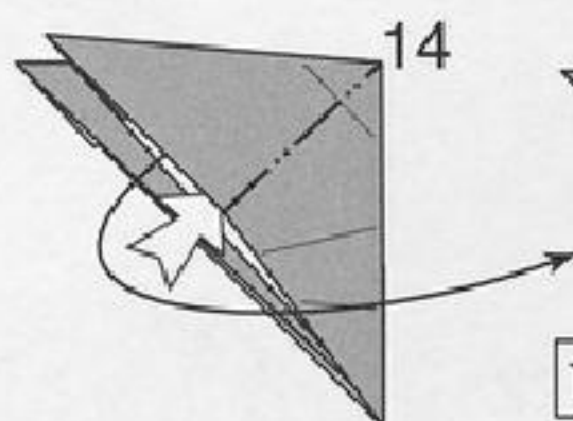


12

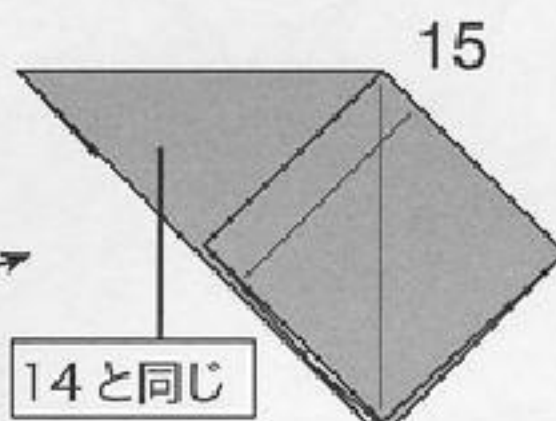
以降は「正方基本形」です。



13

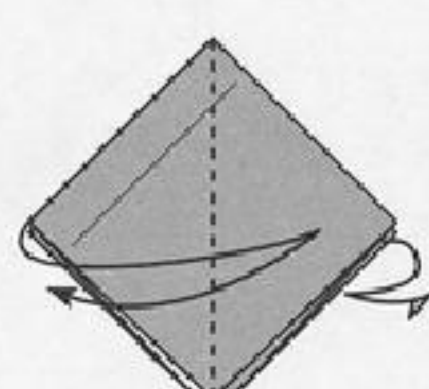


14



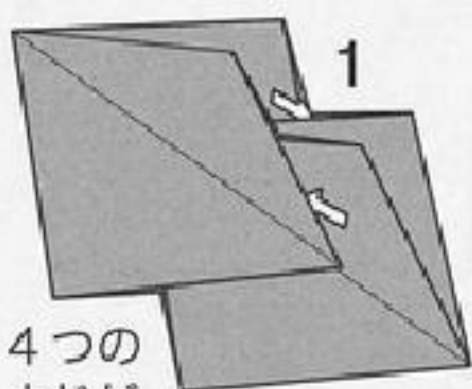
15

14と同じ



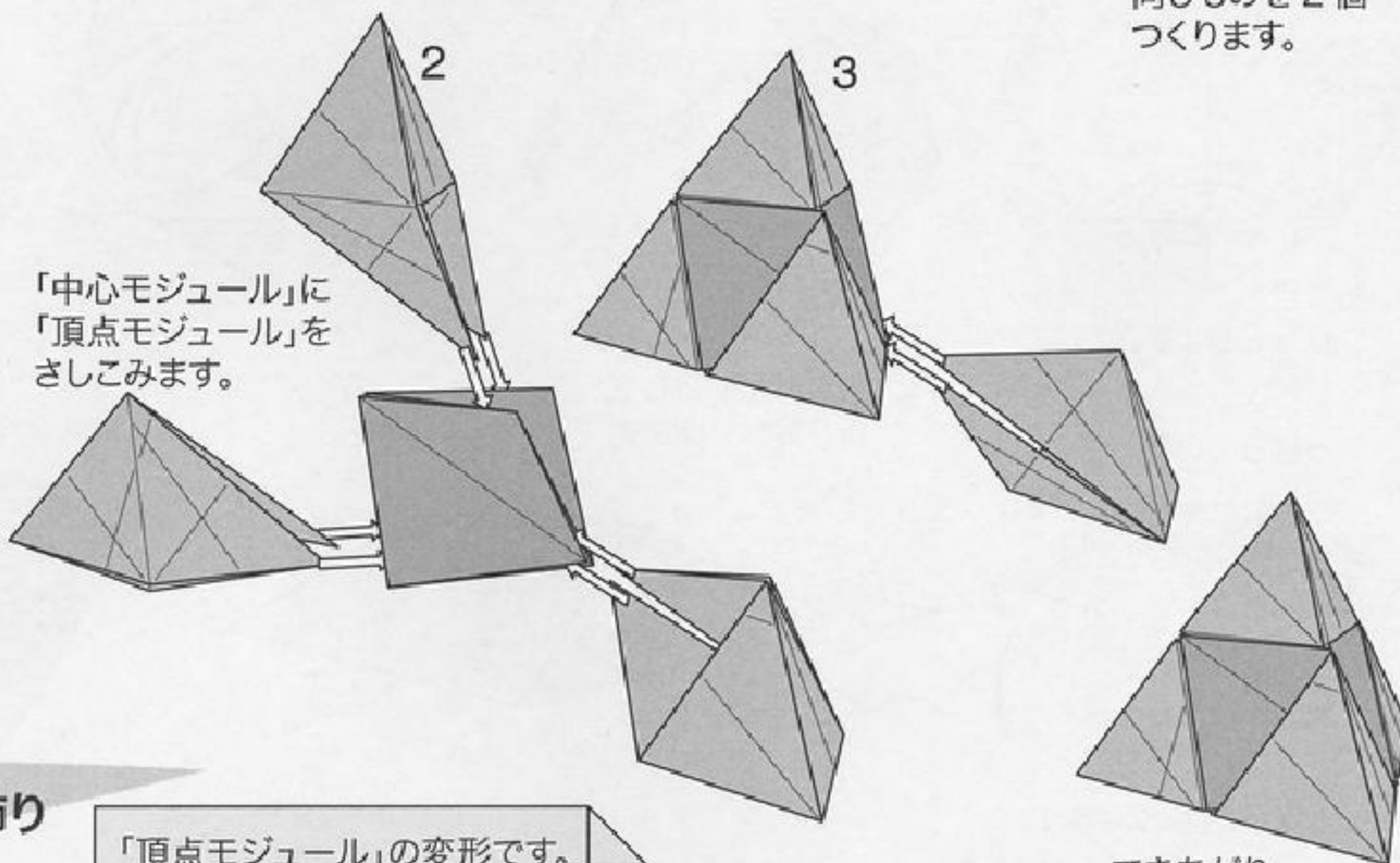
同じものを2個
つくります。

組み立てかた



1

4つの
カドが、
互いに上-下-上-下
となるように組みます。
(10-12でつくった
「マチ」は、構造上、
無視してかまいません)



2

3

「中心モジュール」に
「頂点モジュール」を
さしこみます。

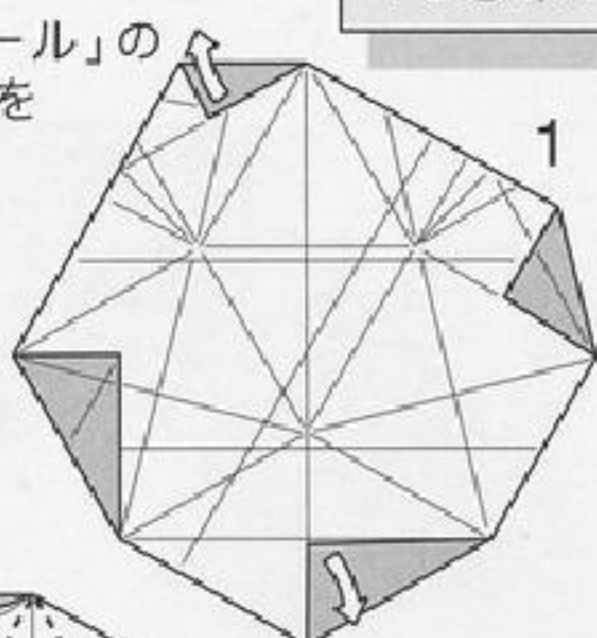
できあがり。

ティアドロップ飾り

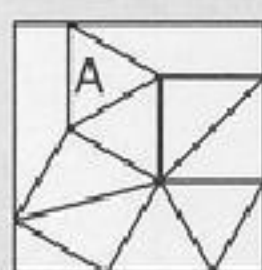
Teardrop Ornament

「頂点モジュール」の変形です。
ティアドロップは、涙のしずくと
いう意味です。

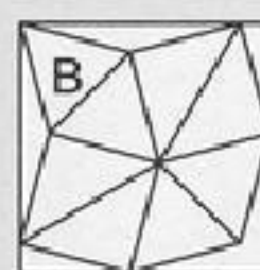
「頂点モジュール」の
24から、ひだを
かるく立体に
おこします。



1

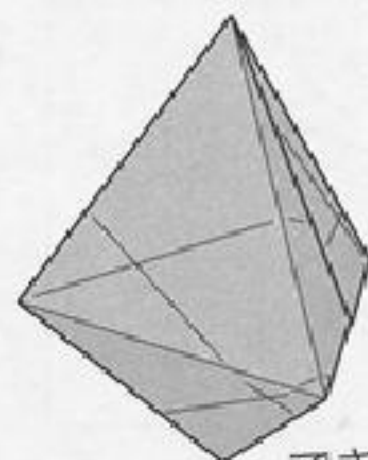


A

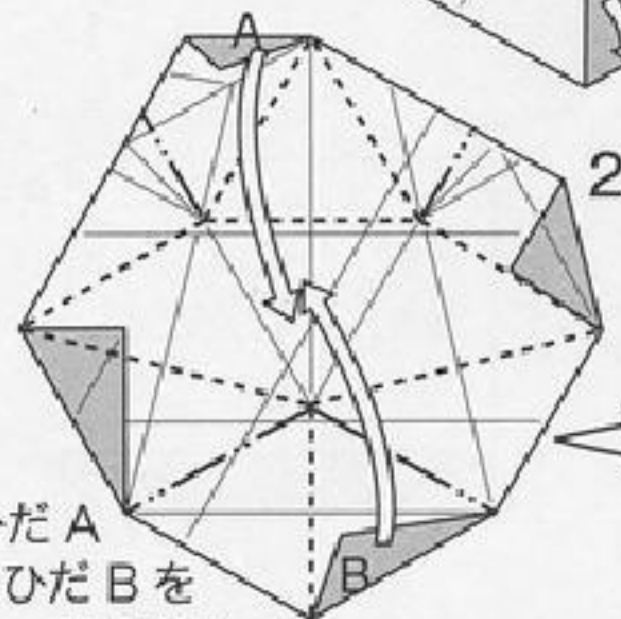


B

正三角形と直角二等辺三角形
を組み合わせた展開図を、正
方形にどうはめ込むかで、上
のAとBを考え、Aを使いま
した。

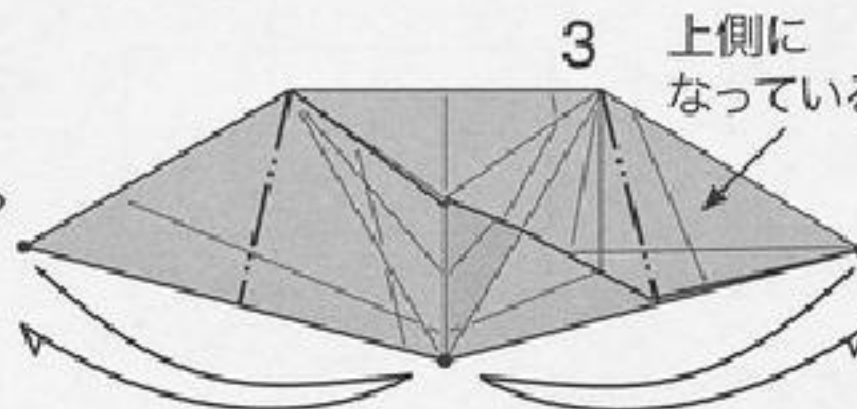


できあがり。



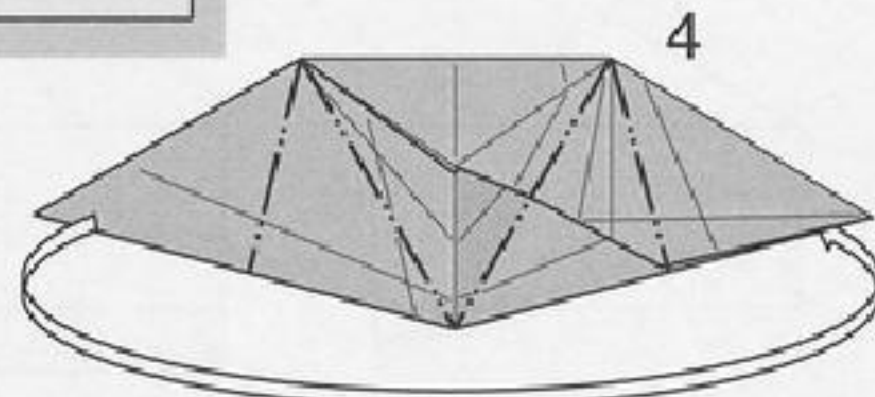
2

ひだA
とひだBを
ひっかけます。



3

上側に
なっている。



4

さしこみます。

山口真氏に JOAS より感謝状

JOAS Express Their Gratitude to Yamaguchi Makoto

日本折紙学会

Japan Origami Academic Society

<はじめに>

2014年は日本折紙学会(JOAS)が折紙探偵団として発足してから25年目の節目の年であった。夏には、3年越しの6OSME事業を成功させ、続く第20回記念折紙探偵団国際コンベンションも過去最大の参加数を得ることができた。Webミュージアムや若手創作作家研究会など新しい活動の芽も現れはじめ、今後も更に発展を続けられると決意を新たにす。そんなJOASを発足時から支え、強力に牽引してきたのはJOASの現顧問/事務局長である山口真氏。JOASは25年の節目に山口真氏への感謝状を贈呈するとともに、今号では山口氏の業績を特集しようと思う。

<折り紙との出会い>

山口氏は、1944年に東京都港区で生を受け墨田区の自動車硝子業を営む家の長男として育った。非常にシャイな少年だったという。大学卒業後1968年にヨーロッパに渡る。デンマークで苦楽を共にした友人とは今も交流が続いている。帰国後、写真専門学校を経てカメラマンを目指す過程で知り合った阿部恒氏の誘いで発足間もない日本折紙協会(NOA)の事務局で働くようになり、雑誌『おりがみ』の

編集等を担当しながら自らも折り紙創作を始めるようになる。今でも名作として有名なクリスマスツリー(P.9に写真)はこの頃の作品だ。後に折り紙作家として独立した立場でも積極的にNOAの雑誌の作品選定や世界展に協力し、やがてNOAの理事となる。

<折り紙作家として独立>

1979年にNOA事務局を退職すると、しばらく雑誌『ホビージャパン』の編集長となる。ミリタリーフィギュア専門誌の誌面作りを通じ、折り紙界を外の世界から眺めた経験は大きかったのではないと思う。その後独立し、折り紙作家としての活動は手探りでスタートしたが、1989年に東京都文京区に常設の折り紙ギャラリー、おりがみはうすを開設すると、当時の若い折り紙愛好家や創作作家を集めて交流の場を提供しながら、自著書も精力的に書きはじめる。おりがみはうすに集まる中心的な若手折り紙創作作家であった木村良寿氏、西川誠司氏、故・吉野一生氏らと折り紙愛好者グループ「折紙探偵団」を1990年に発足。これは1999年より現在のJOASへと発展し、山口氏自身も評議員となり現在は顧問/事務局長/『折紙探偵団マガジン』編集長を務めるに至っている。



▲折紙探偵団はここから始まった。左から西川誠司氏、故・吉野一生氏、木村良寿氏、後列山口真氏(初期のおりがみはうすで)



▲1994年、初めてNYコンベンションに参加した。海外から参加したメンバーの集合写真(懇親会で)。この時は川崎夫妻、布施夫妻、前川夫妻、山口夫妻で参加した



▲OrigamiUSAが山口氏に贈った感謝状

<ギャラリーおりがみはうす>

おりがみはうすは、常設の折り紙展示スペースとしては世界に先駆けたものであった。発想は、「なぜ、日本に常設の折り紙展示場が無いのだろう」と、いたってシンプルなものであったようだ。初期には「若手作家の折り紙恐竜展」や「男のひなまつり」、「高濱利恵展」、NOAの当時の理事長である佐野康博氏の「犬作品展」などの企画を展開し、折り紙の情報発信に努めた。現在も、エリック・ジョワゼル氏の作品群を自ら買い求め収集するなど、優れた折り紙芸術がいつでも無料で鑑賞できるスペースを提供している。

<国際交流>

1994年に山口氏は、OrigamiUSA(OUSA)のニューヨークコンベンションに初めて参加すると、ボランティアで運営されている姿に感銘し、翌年にはこれを折紙探偵団に取り入れ、第1回折紙探偵団コンベンションの開催を主導した。この年以降、OUSAのニューヨークコンベンションには21年間連続で出席している。このことに関して、2014年のOUSAの年次総会で表彰された。ニューヨークコンベンションでは海外の創作作家や各国折り紙団体運営者と積極的に交流し、また吉野一生基金の発案と合わせ、自ら率先して海外と国内の若手創作作家の交流を促す活動を推し進めた。吉野基金で



▲NYコンベンションでの懇親会の盛り上がり



▲OUSAへ贈った漢字で書かれたバナーは「コンベンション会場に何年も展示された」



▲パリで開かれたMFPP(フランス折紙協会)のコンベンションで



▲韓国折紙協会の折紙コンベンションで折り紙キャラバンのTシャツを着ての記念写真



▲アングレームで開かれたフランスのコンベンションでMFPPから寄付が贈られた

招待された海外作家の国内でのケアも精力的に引き受けた。また、神谷哲史氏はじめ若手愛好家数名をOUSAのオフィスに約5年にわたりボランティアスタッフとして送り出している。OUSAは、山口氏のこのようなきめ細やかな交流活動に感謝して2004年には感謝状と共に終身会員の栄誉を与えている。OUSAがこの栄誉を与えているのは世界でデビッド・ブリル氏と山口氏の2人だけだ。このようなJOASを通じた活動だけでなく米国以外の海外コンベンションにも積極的に参加し、また国際交流基金によっても15ヶ国以上で折り紙の普及活動を進めてきている。

2005年、OUSAからアメリカの最初の折り紙グループの設立者のリリアン・オッペンハイマー氏の誕生日である10月24日を“World Origami Day 世界折り紙の日”としたいとの相談があった際、それに対して日本にはNOAが発案した11月11日を“おりがみの日”としてきた歴史があり、10/24～11/11をorigami daysにすることを提案した。この提案は受け入れられ、2009年から“WOD(World Origami Days)”としてこの期間中の折り紙イベントや個人的な活動を世界中から収集し発信する活動をOUSA、JOASと

ともに推進している。このように日本のプレゼンスを海外に示す交渉も長い国際交流活動に裏打ちされた信用の賜物と言えるだろう。

2008年には、折り紙の著作権研究の重要性を指摘し、私財を提供して海外の折り紙作家10名を日本に招き、国際的な折り紙著作権研究を実質的にスタートさせた。山口氏が著作権問題に課題を強く感じたのは、この少し前に起こった韓国での山口氏の著作に対する著作権侵害事案に端を発していると思われるが、これをきっかけにして得た韓国折紙協会との深い交流は、現在の夏のコンベンションの日韓コラボレーションへとつながっている。

＜資料収集／若手育成＞

折り紙の歴史を検証するためには、資料の収集・整理が欠かせない。山口氏は、個人が収集した折り紙資料が散逸することに対しても危機感を持ち、岡村昌夫氏とともに九州まで出向き「児玉資料」の保存に努めた。JOAS図書館開設の発想は山口氏のこうした情熱に負うところが大きく、山口氏が作家活動中に集めた多くの折り紙書籍資料はJOAS図書館へ寄贈いただいている。最近では、Webミュージアの発案や若手作家を勇気づけ研究会の立ち上げを支援するなどそ



▲Origami is for anyone, anywhere, any time! オリガミの伝道師といわれたOrigamiUSA前身フレンズの故・マイケル・シャル氏来日時



▲OrigamiUSAに表彰される山口氏

感謝状

山口真殿

あなたは折紙探偵団新聞を創刊し折紙探偵団マガジンの編集・発行に尽力され、本学会の設立・運営において中心的役割を担ってこられました。その間、多くの活動を通じて多数の国内外の折紙作家を育て、国際的なネットワークを作り上げるなど、折紙の普及に大きく貢献されました。ここに感謝状を贈呈し感謝の意を表します。

平成27年2月14日

日本折紙学会

評議員代表 津田良夫

の情熱と発想は衰えない。

＜作家／出版活動＞

山口氏の処女出版物は1980年の『楽しい折り紙集』(東京ジャーナル)であるが、おりがみはうすを開設した1989年以降に多くの著作を発表するようになる。以来、現在に至るまで25年間で100冊を超える著書を世に出している(主な著作は記事末尾)。前述の多方面の活動を行う中での年4冊の驚異のペースは、いち早くコンピュータ折り図に取り組んだことや折り紙出版では他に例を見ないプロダクション方式の成果でもあるが、高いクオリティを維持しつづける企画力・アイデア力を評するべきだろう。

また、出版活動として特筆すべきなのは『季刊をる』(1993年～1996年、双樹舎)の企画・アドバイザー・折り図制作を務めたことだろう。『季刊をる』は折り紙を大人の趣味として高度に表現した雑誌であり、国内にとどまらず海外の愛好家からも注目された。日



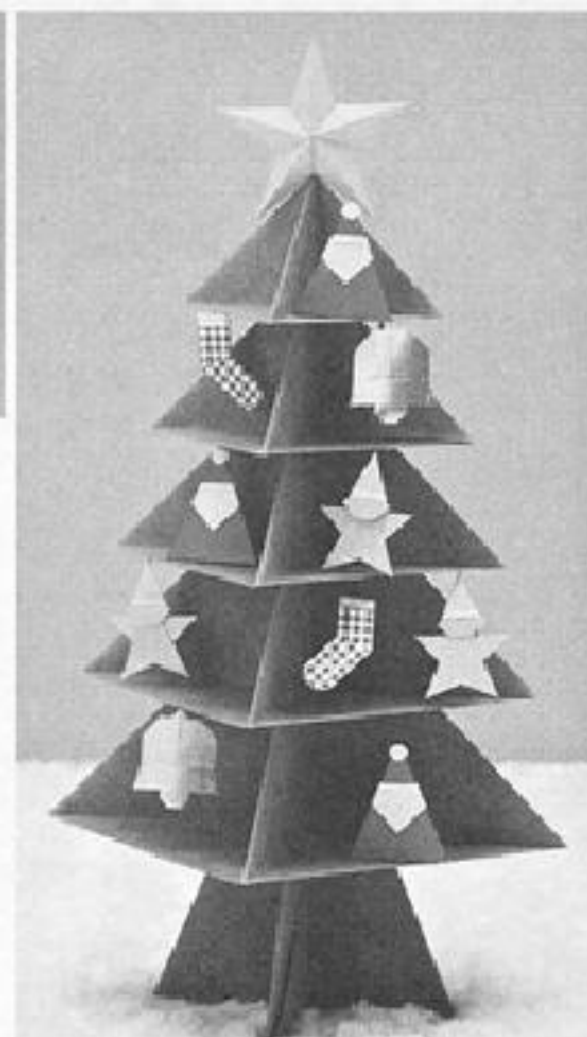
▲国際交流基金で派遣されたペルーでは折紙協会のユニフォームであるベストを贈られて記念写真



▲折紙紙キャラバンでは東日本大震災の被災地に3年、5回に渡って小学校、避難所を回った



山口氏お気に入りの伝承化された作品。シャツ、クリスマスツリー、連獅子



本の代表的折紙作家である吉澤章氏、河合豊彰氏、笠原邦彦氏や、佐野康博氏をはじめとする当時のNOAの理事、折紙探偵団の若手作家、多くの海外作家などが数多く紹介されており、この『季刊をる』の世界観はアドバイザーである山口氏の人脈や、折紙紙界を表現する上で欠かせない事柄・人物に対する山口氏のバランス感覚が大きく反映されている。

さらに、おりがみはうす自身が出版者となって展開している「ガレッジブックシリーズ」は、商業的には成立しにくい折り工程の長い作品を中心にその多くが創作者の作品集の体裁で編集されており、装丁は黒をベースにクールに仕上げられている。現在まで12シリーズを上梓しており、このような作品集刊行は創作折紙の地位向上や作家の育成に大きく貢献している。この形式の折り紙本は海外の折り紙愛好家、作家にも大きな影響を与え、フランスのニコラス・テリー氏はこれを模して折り紙作家作品集をシリーズ刊行するに至っている。

また、本誌『折紙探偵団マガジン』の発行も、このような本作りのプロフェッショナルとしての山口氏の能力に負うところ甚大である。

＜おわりに＞

今回、山口氏の業績をまとめてみたが、その多種、膨大さにあらためて驚かされる。誌面の都合で割愛した業績も多々ある。これらの活動はいずれも高い視点から将来の折り紙界のあり方を見据えた活動であり、その恩恵は、JOASやNOAにとどまらず多くの折り紙愛好家にとっても心強いものであるにちがいないと思う。あらためて感謝の気持ちを表すとともに、今後とも

ますますのご活躍を願いたい。

(文責 JOAS評議員 西川誠司)

この特集を読んでいただければ、山口さんが私たちに対してどれほど貢献されてきたかをよくわかっていただけたと思います。しかし形として残る業績以上に、私が尊敬しまた感謝したいと思うのは、様々な活動を支えてきた折り紙に対する熱い想いであり、それを持ち続けてこられたことです。さらに、若い折り紙仲間におりがみはうすという場所を提供し、そこに集う機会を作り刺激を与え続けてこられたことにも心から感謝いたします。

(JOAS評議員代表 津田良夫)

何の思いも考えも無く入った世界であつたが、私はつくづく運のいい人間だと今更ながらに思う。それは常に良い人との出会いがあつたからだ。残念なこともあつたが、それ以上に良い思い出を残すことができた。それは今もつづいている。私にはこれからやらなければならないことが幾つかある。残念だが元気なうちにできるか分からない。でも、心配はしていない。若手が育っているから。内容はまだ言えない(笑)。成功すれば折り紙界の認知も

大きく変わるのではないかと同時に日本が初めにやらなければとも思う案件だ。

私はこの世界に入ってから創作を始めた頃から、伝承化されるような作品が幾つか創り出せたらと思いながら創ってきた。しかし、そうはできるものではない。数ある作品の中で自分で言えるのは2つ3つだろう。とりあえずツリーだね、あと連獅子、易しいものではシャツかな。作品が沢山ありすぎて全ては覚えていない。だから講習などでも自分の本を見ながら教えたりと。恥ずかしいね。

(山口 真)

＜山口真 著書＞

▶いかだ社
壁面おり紙スペシャルBOOK
(2003)他2冊
▶池田書店
英語訳つきおりがみ(2001)
▶全国社
みんなでたのしめる おりがみ はな・やさい ほか(1994)他2冊
▶KKベストセラーズ
折り紙の四季(1999)他1冊
▶講談社
おりがみあそびの本(1993)
▶講談社インターナショナル
英語で折り紙(1996)
"Origami for Parties"(1987)
▶主婦と生活社
人気折り紙(1995)
たのしい折り紙ワールド(2000)他7冊
▶主婦の友社
KUSUDAMA BALL ORIGAMI
(1990)
▶小学館

ウルトラマンとかいじゅうたち
(1999)他1冊
▶西東社
おりがみ事典(1990)
決定版 おりがみ大百科(2015)他13冊
▶世界文化社
楽しい共同製作12ヵ月 おりがみでの壁面構成(1986)他3冊
▶双樹舎
フラワーズ・ウィズ・オリガミ(1997)
▶ソシム
神谷流 創作折り紙に挑戦!
(2010)
かわいいうちの折り紙オーナメント(2013)
▶東京ジャーナル
楽しい折り紙集(1980)他2冊
▶(財)東京動物園協会
おりがみどうぶつえん(1985)
おりがみずいぞくえん(1993)
▶トーヨー
トーヨー おりがみボックス1

(1990)他13冊
▶同文書院
すてきでカンタン おりがみ事典
(1997)
▶ナツメ社
日本のおりがみ百科(1988)
暮らしを楽しむ実用折り紙
(2003)
日本を伝える!英語で折り紙
(2005)
四季のたのしいおりがみ事典
(2006)他11冊
▶日本フローラルアート
折り紙講座I 基礎編(1984)
折り紙講座II 実用編(1984)
▶日本文芸社
よい子の折り紙ブック(1982)
▶PHP
かわいい花の折り紙(2006)
箸袋で折る箸置き(2008)他6冊
▶ポプラ社
四季のおりがみ百科(2003)他2冊
▶ゆしまの小林

折り紙を(1983)
▶ランダムハウス講談社
英語で教える折り紙コミュニケーション(2008)
▶鶴山文化社
折り紙ドールハウス(韓国語版)
(2014)他4冊
▶Jong le Nara
おりがみ事典(韓国語版)
(1998)他7冊
▶おりがみはうす(編・著)
ディラメサウルス全身骨格折図&正体折図(1993)
空想おりがみ(1995)
折り紙図鑑 昆虫1(1999)
折り紙図鑑 昆虫2(2003)
西川誠司作品集(2003)
神谷哲史作品集(2005)
エリック・ジョワゼール折り紙のマジシャン〜(2010)
小松英夫作品集(2012)
神谷哲史作品集2(2012)他3冊

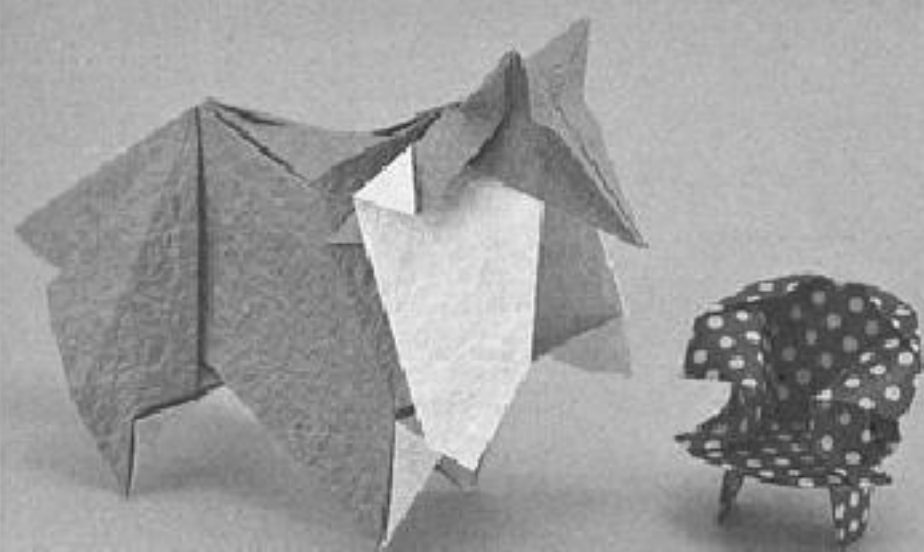
以上、122冊 現在執筆中

第71回 **いす、コリー**

Chair, Collie

いす:松井英里香・作、コリー:大内康治・作

今回で紹介するのは、折紙探偵団東京友の会の定例会で発表された、20代のお二人の作品です。コンプレックス作品だけでなく、こういったセンスの良い中級レベルの作品が若手から生まれるのも、今後を楽しみにさせていただきます。

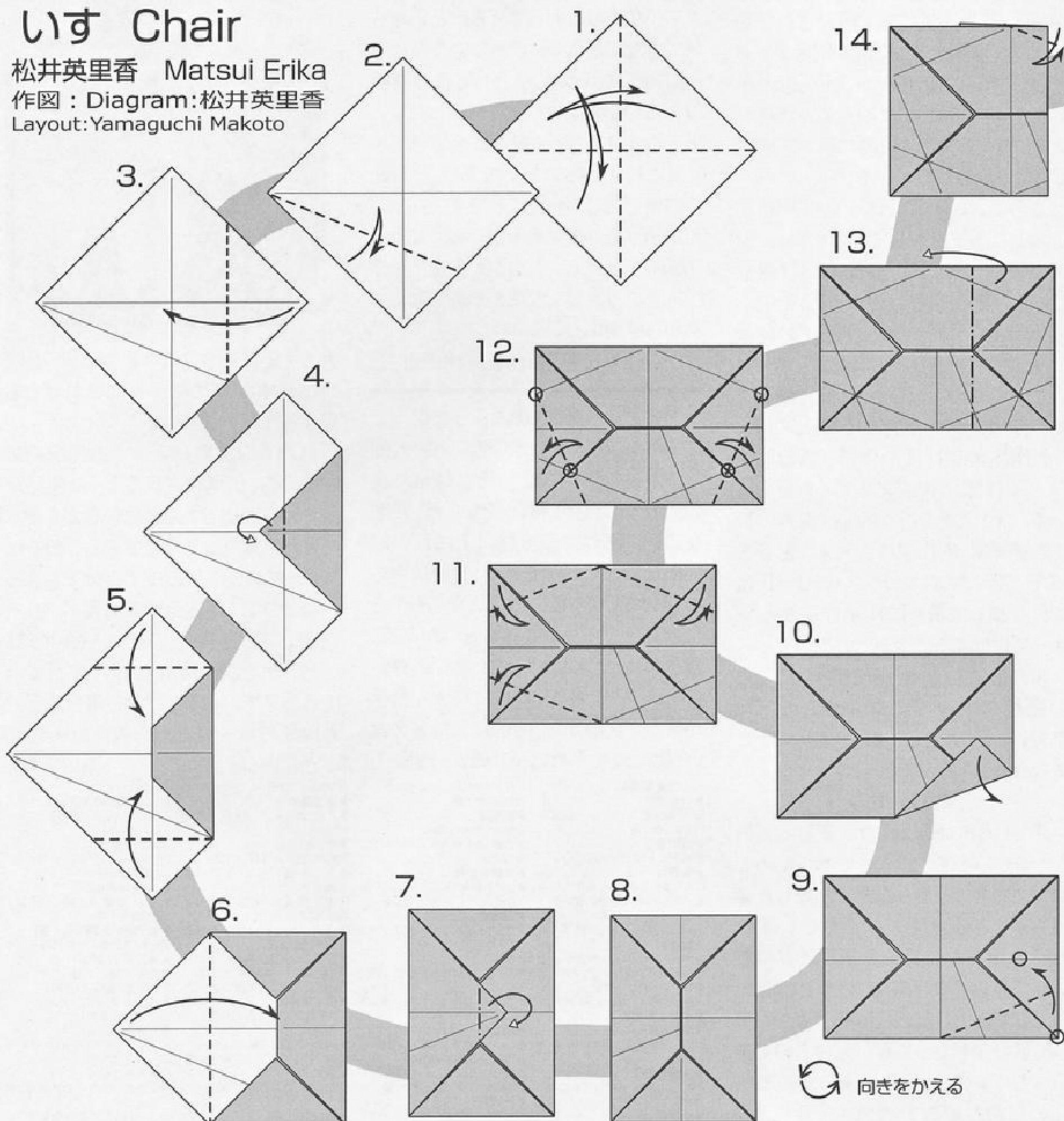


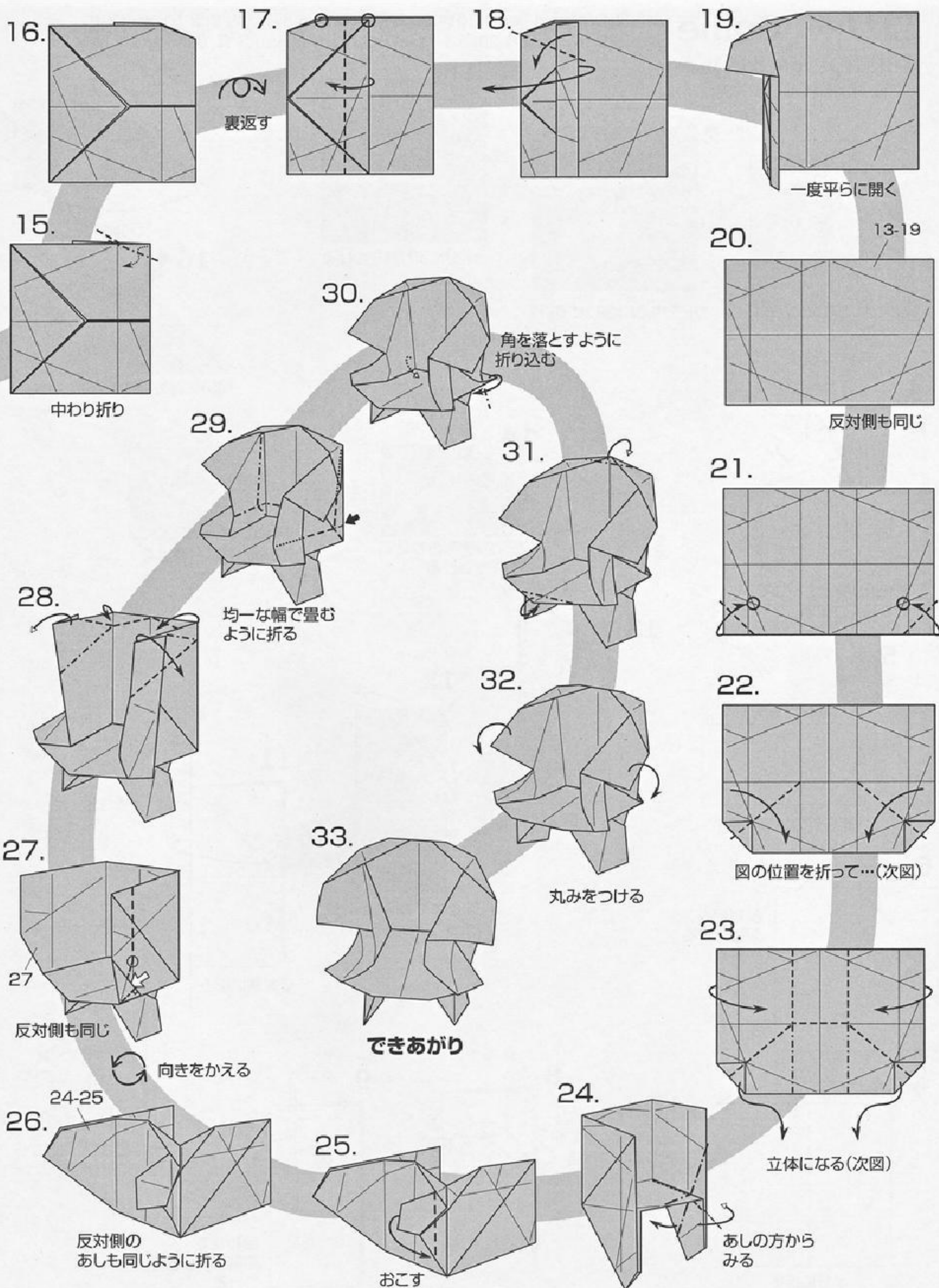
いす Chair

松井英里香 Matsui Erika

作図: Diagram:松井英里香

Layout: Yamaguchi Makoto

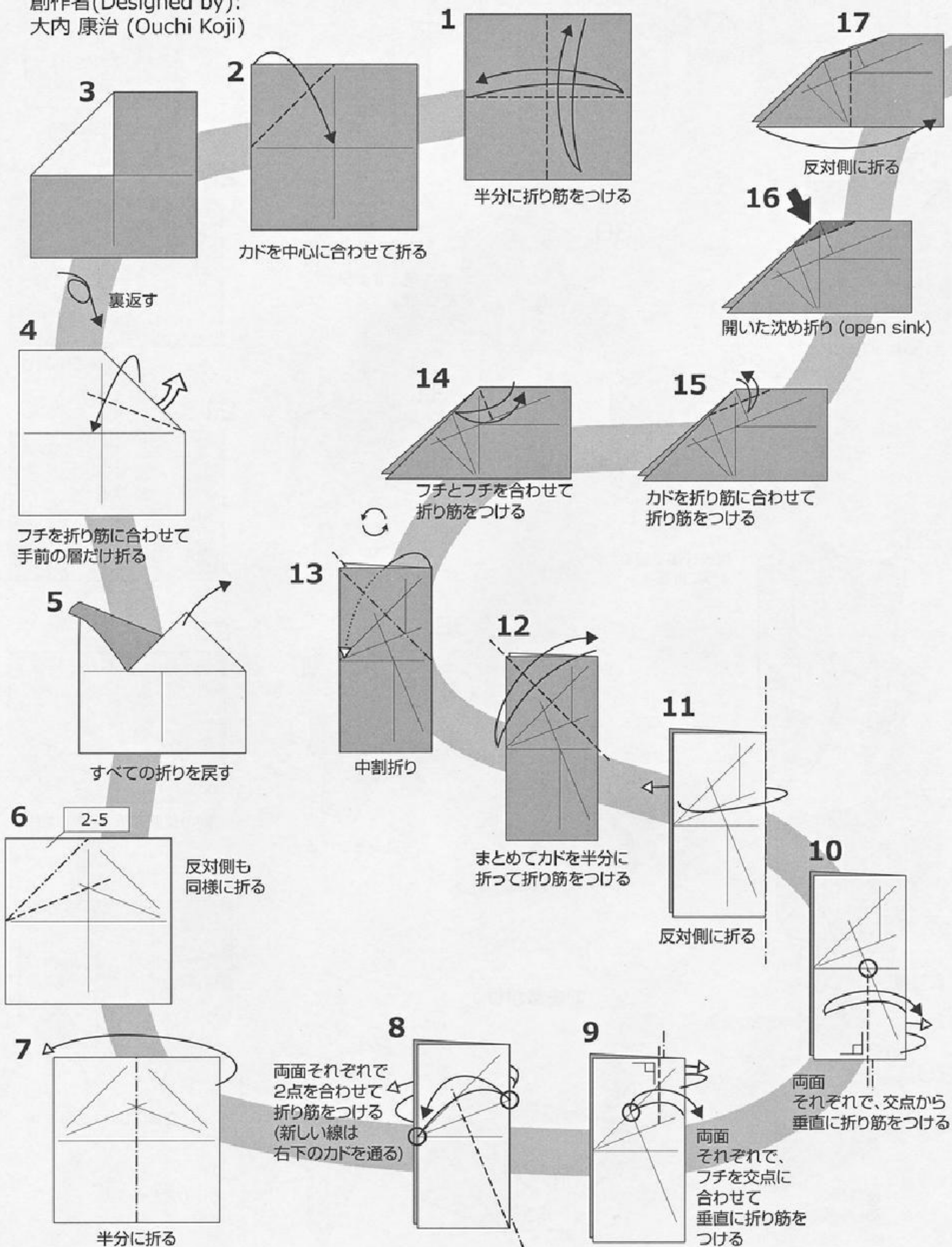


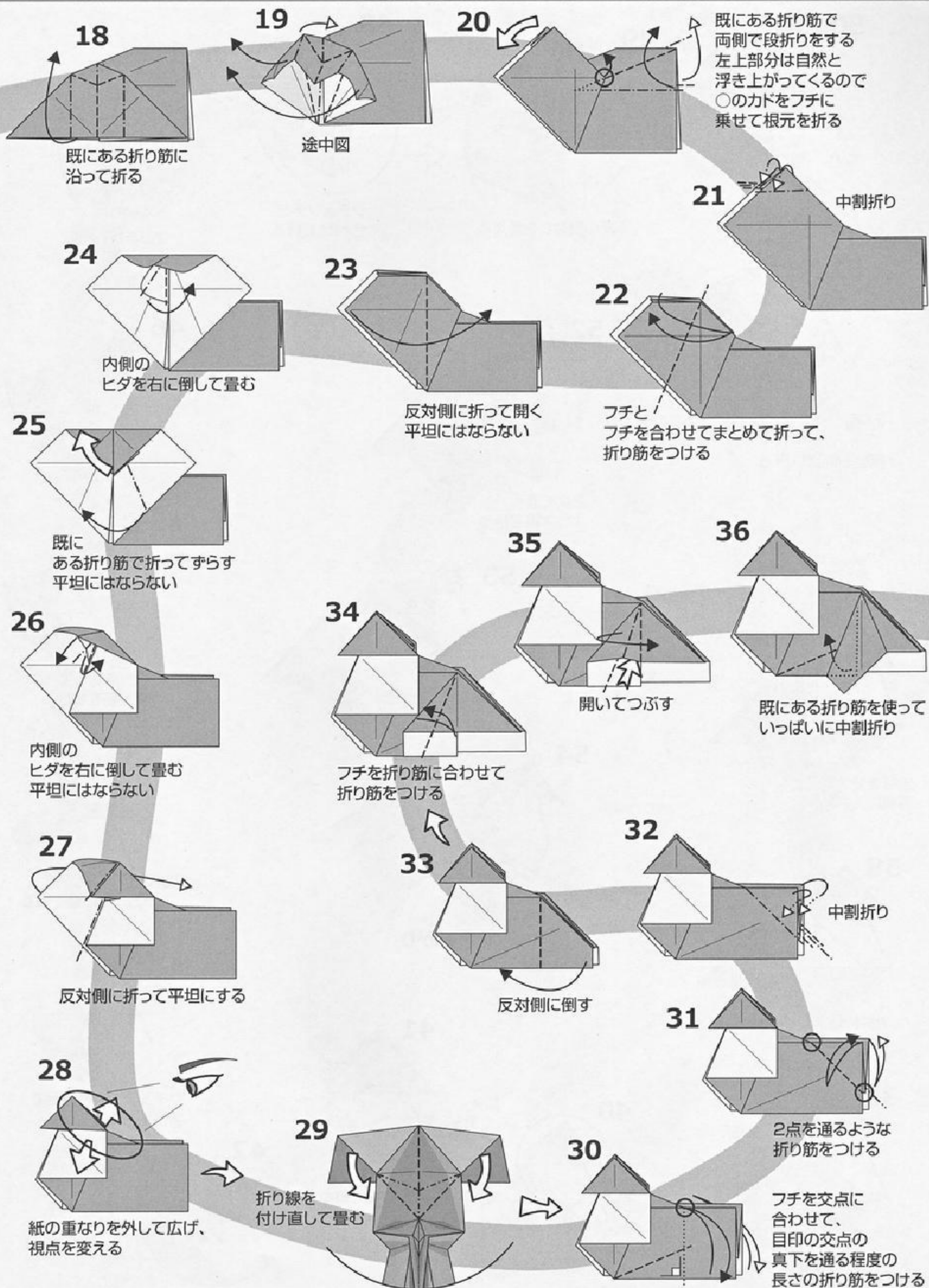


コリー Collie

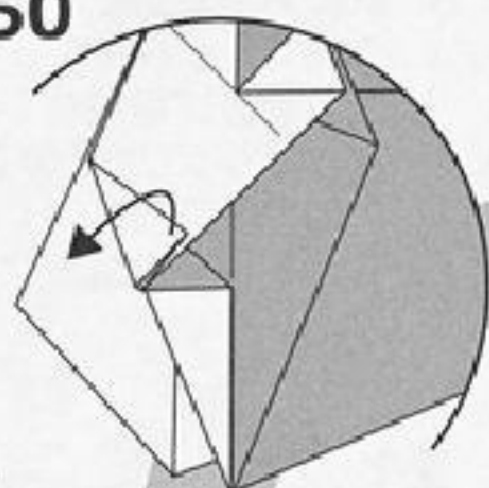
創作日(Designed Date):2014.8 作図者(Drawn by):大内 康治 (Ouchi Koji)
 作図日(Drawn Date):2015.1 レイアウト(Layout):山口 真 (Yamaguchi Makoto)

創作者(Designed by):
 大内 康治 (Ouchi Koji)



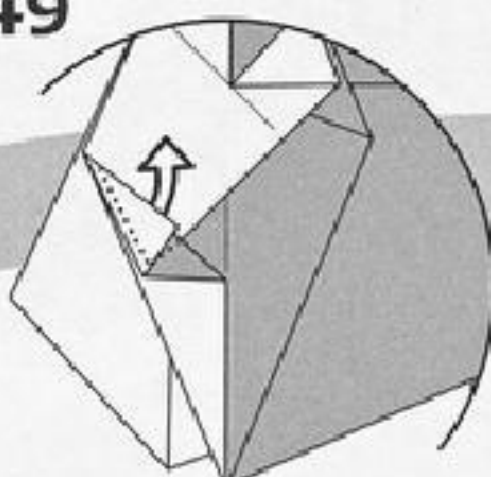


50



反対側に倒す

49

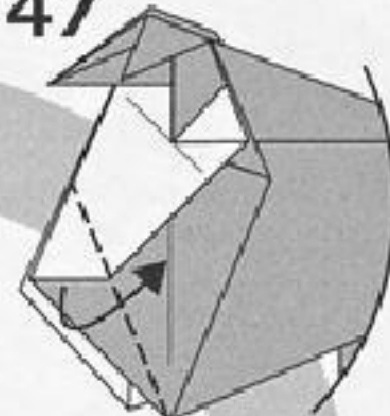


紙の重なりを変える

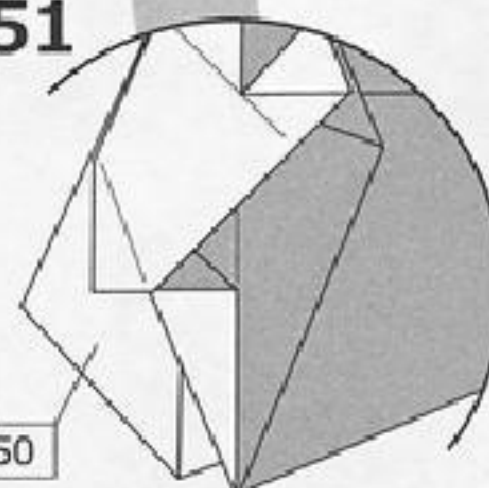
48

フチとフチを
合わせて折る

47

フチを折り筋に
合わせて折る

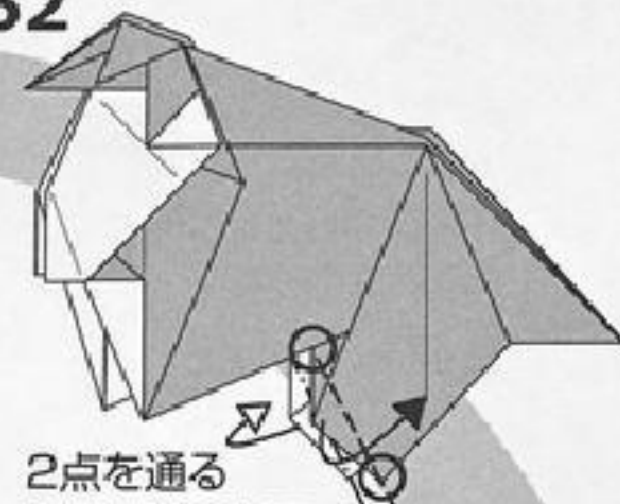
51



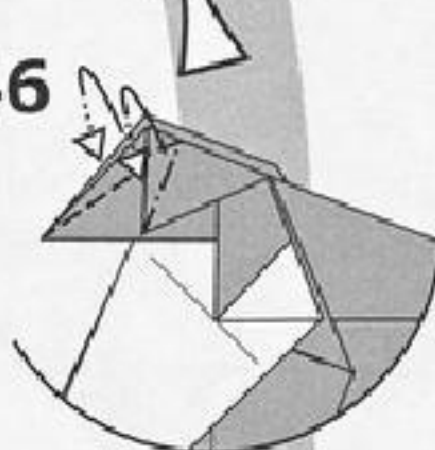
47-50

裏側も同様に折る

52

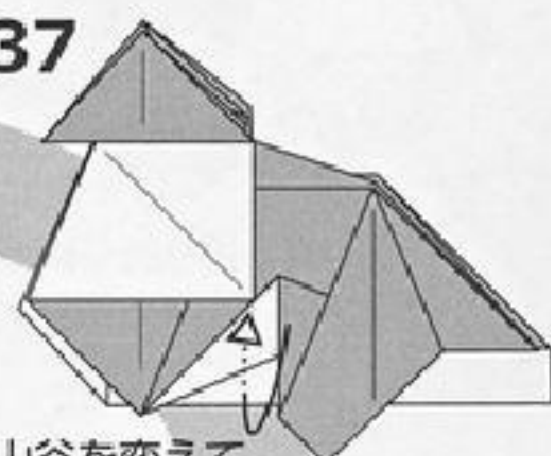
2点を通る
ような線で折る

46

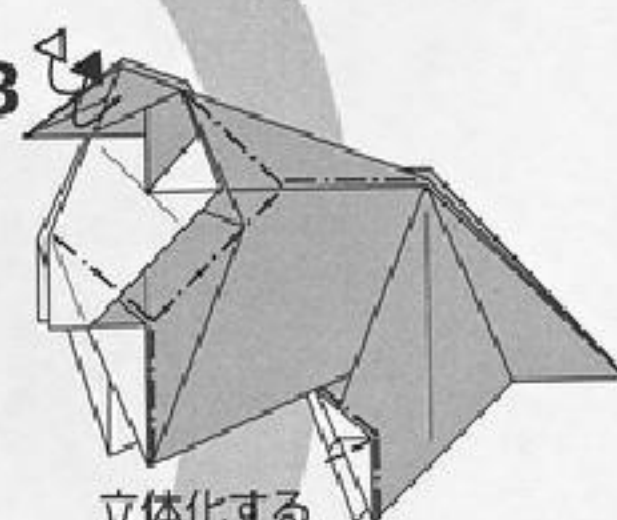


中割折り

37

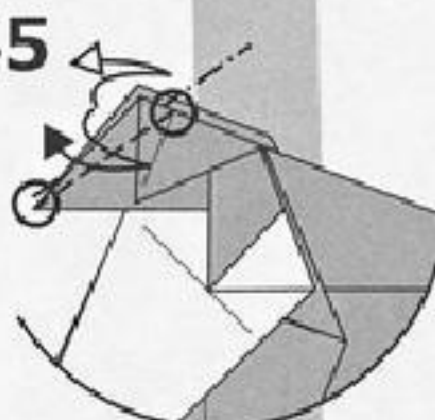
山谷を変えて
裏側に入れる

53

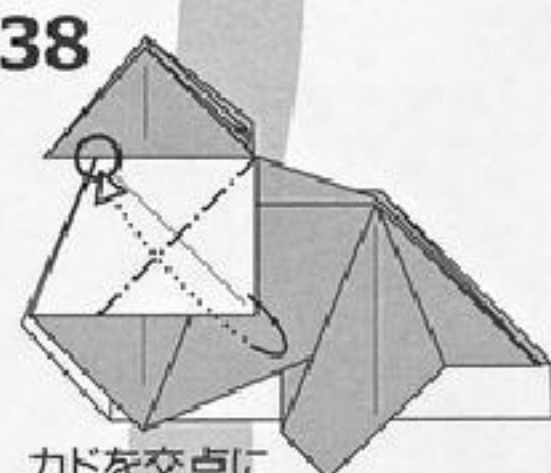


立体化する

45

2点を通るような
折り筋をつける

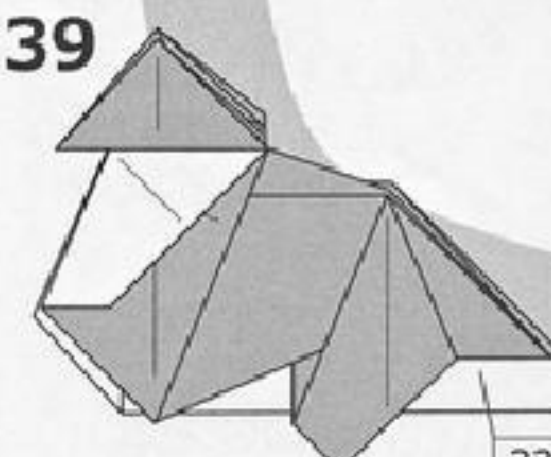
38

カドを交点に
合わせて折る

44

カドを
折り筋に合わせて折る

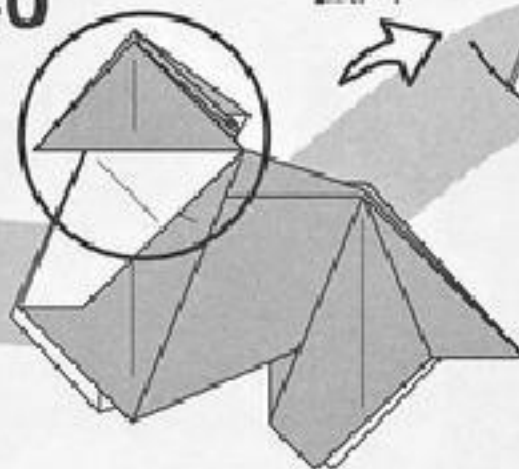
39



裏側も同様に折る

33-38

40

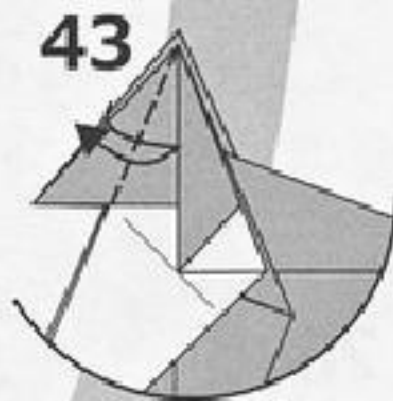


拡大

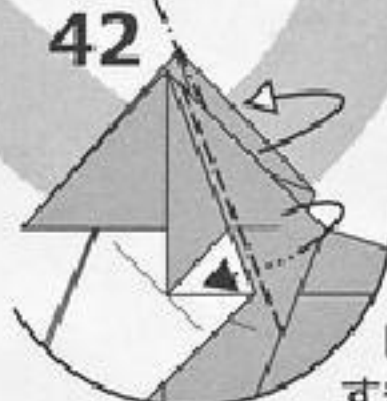
41

フチを折り筋に
合わせて折る

43

フチとフチを合わせて
折り筋をつける

42

ヒダを
すき間に入れる

できあがり

『秘伝千羽鶴折形』をよむ

—翻字・解説作業を通して—

Reading through *Hidden Sembazuru Oriката*:
Memoranda on Transcription and Appreciation of it

中村智晴

Nakamura Tomoharu

はじめに

昨夏6OSMEより公開が始まった「折紙アートミュージアム」では、特別展示『秘伝千羽鶴折形』の再現が行われています。この展示では、作品そのものの再現を試みていると同時に、原本に書かれてあるテキストについての再現がなされています。折紙探偵団東京友の会の若手を中心に行われた作業のうち、私はテキスト関係の作業を担当しました。本稿では、具体的にどのような作業を行ったのか、現在どのような作業を行っているのかについて、ご紹介したいと思います。

『秘伝千羽鶴折形』とは

『秘伝千羽鶴折形』は49種類(挿絵のみの作品も含めると51種)の連鶴作品がまとめられた、江戸時代の折紙関連書籍の1つです。正確には『秘伝千羽鶴折形 完』という名で、寛政9年(1797年)に刊行されました。

各作品にはそれぞれ銘が付けられており、またその銘にちなんで狂歌が添えられています。

連鶴作品を考案したのは、伊勢国桑名の長円寺の住職、義道という人物です。作品銘を最初に考案したのも義道です。一方、これらの作品群を編集して世に送り出したのは、作家・出版人の秋里籬島という人物です。彼は作品を編集したり、作品銘を親しみやすくアレンジしたりすると同時に、文章や狂歌を添え、読み物としても読めるように『秘伝千羽鶴折形』をまとめていきました。

こうした経緯を意識しつつ、作品の形と作品銘との関係、作品銘と狂

歌との関係のそれぞれに意識を配りながら考察する必要がありました。

今回の作業ではまず、作品銘と狂歌の関係についての解説をする方向で、現在調査を進めております。

「翻字・翻刻」「校異整定」「解釈」

『秘伝千羽鶴折形 完』の原本のページをめくると、表情豊かな作品の傍らに、何やら文章らしきものが添えられています。「何が書かれてあるのだろう」という気持ちが芽生えるのは至って自然です。私が行ったのは、この「何が書かれてあるのか」を明らかにする作業でした。

「何が書かれてあるのか」。この問いは、「何の文字が書かれてあるのか」「何という内容が書かれてあるのか」の2つに分けられます。これらを明らかにするには、普通「翻字・翻刻」「校異整定」「解釈」の3つの段階を踏みます。

「翻字・翻刻」と「校異整定」は、主に「何の文字が書かれてあるのか」を明らかにする作業です。翻字は、原典に書かれてある古い文字を、現行の文字体系に書き換える作業を指します。しかし、特に文学作品などの古い書物は、書き写し(写本)によって後世に伝えられてきたものが多く、誤写があったり、写本の系統ごとに文字が異なる部分が現れたりします。あるいは印刷本でも、版木や活字の改変・変更などの影響を受け、異なった本が現れることがあります。より実証的かつ正確に文字を書き起こすためには、そうした諸本の違い(校異)を比較・整理する必要があります。これが校異整定です。

翻字と校異整定が一通り済むと、

次はテキストの解釈の作業に入ります。今回の場合は、古典文法や能・狂言・歌舞伎の知識、和歌・俳諧の修辞法などを踏まえながら、狂歌や文章の意味を読み取っていかねばなりません。試験であれば正解が用意されますが、実際の現場にそのようなものではありません。そこで、先達が積み上げてきた先行研究を整理しながら考察していくことになります。今回の作業でも、既刊の諸解説書の多くを参照いたしました。特に、『秘伝千羽鶴折形：復刻と解説』(1991 日本折紙協会編)における岡村昌夫氏の解説は、質量ともに最も充実しており、先行研究の中でも極めて重要な位置を占めるもので、今回の作業では最も参考にした研究であります。

以下の段では、「翻字」と「解釈」のそれぞれに重点を置いて説明をしていきたいと思います。

『秘伝千羽鶴折形』の「翻字」

翻字で重要なのは、原本にどのようなタイプの文字が書かれてあるのか把握することです。図1は、序文にあたる「千羽鶴折形序(せんばつるおりかたのはしがき)」です。このように、『千羽鶴折形』では、くずし字で「変体仮名」が書かれてあります。まずはそれを現行の仮名に書き換える作業を行いました。「変体仮名」とは、現行の仮名体系で使われなくなった仮名のことで、例えば割箸の袋に「おてもと」らしきくずし字を見たことのある方は多いと思います。現代に残る変体仮名の一例です。出版文化が発達し、識字率も上昇していた江戸時代の人々にとって、この「変体仮名」のくずし字が日常的に慣れ親しまれてい

『秘伝千羽鶴折形』をよむ

—翻字・解説作業を通して—

Reading through Hiden Sembazuru Orikata:
Memoranda on Transcription and Appreciation of it

中村智晴

Nakamura Tomoharu

ました。そして、都市部を中心に広く一般大衆へ向けて書かれた『秘伝千羽鶴折形』も、やはり変体仮名のくずし字で書かれているのです。

図2に示したのは、変体仮名の例です。それぞれ、現代では[き][た][や]と書きます。さらに別種の変体仮名を使う場合もあります。原本を読み解くためには、まずこれらの変体仮名を覚えて現代の仮名と対応させる必要があります。これにはいささか練習が必要なのですが、経験を積むと次第にコツが掴めるようになっていきます。例えば図2の下に示した通り、先に挙げた仮名には、「起」「多」「屋」のように、全てに元となった漢字があります。これを字母というのですが、この字母を意識するのも1つのコツです。

すべての文字が読み終わると、こんどは翻字を検証する作業に入ります。先に述べた校異整理もこの検証作業の1つと言えます。

作業を進めると、悩ましい問題がいくつか現れるものです。その例を

見てみましょう。

前述の「千羽鶴折形序」には、図3のような文字が見えます。1文字目は[そ]、2文字目は[か]であると推測されます(図4では[折形]の振り仮名としてこの[か]が用いられています)。問題は、ここを[そか]と読んで意味が通じるかという点です。この文は、鶴に関するめでたい章句を綴っている部分で、前後には「詩経」から[鶴九つの阜に啼ノ声天に聞ゆ](つるここのつのおかになく こえあめにきこゆ)と引用されています。もし図3が[そか]だとすると、[鶴九つの阜に啼 そか声天に聞ゆ]となり、このままでは[そか]の意味がわかりません。解決の糸口はないでしょうか。

ここで改めて問題の部分を読みますと、果たして本当に[そ][か]なのか迷いが生じてきます。2文字目を[の]として、[その]と見た書籍もあります。あるいは[とか]と書かれているのでは、という気も起こります。

[その]説については、同じ本の中で[の]と書かれている部分と比較して検討します。図5では[聖の代]の部分

や[折形序](おりかたのはしかき)の振り仮名に[の]が現れています。このほか同書の至る所に[の]が登場しますが、いずれも図3の2文字目とは異なり、左の部分がきちんと輪になっています。そのため、[その]と読むのは待つ必要があるようです。[とか]説についても同様に検討できます。また、前後の部分が一続きの詩句であるのに、それを「~とか...と」と2つに分けて列挙するのも不自然です。[とか]と読むのも待つ必要があるようです。

では一体どうすれば良いのでしょうか。岡村氏によれば、濁点を補って[そが]と解釈すると良いのではとのこと。[そが]つまり「其が」。この[が]が[鬼が島]の[が]のように、所有を表す[が]だとすれば、意味としては「その」であり、表記は[そか]となり、整合性があります。古い書物の多くがそうですが、『秘伝千羽鶴折形』でも濁点を補うべき箇所があります。盲点でした。

こうした紆余曲折をいくつか経て、原本のテキストを現代の活字に起こしていきました。こうして得られた結果は、冒頭でも述べた通り、折紙アートミュージアム特別展示「『秘伝千羽鶴折形』の再現」にて公開されております。

『秘伝千羽鶴折形』テキストの解釈

ここからは、目下作業中の、テキストの解釈作業についての説明です。本稿では49の狂歌について全て解説できる紙幅がありませんので、『千羽鶴折形』の狂歌を鑑賞する際に押さえておくべきポイントを4つ取り上げます。

1つ目は、様々な恋模様が描かれている、という点です。筆者は冒頭で、狂歌にはそれぞれ「恋のことば」を含

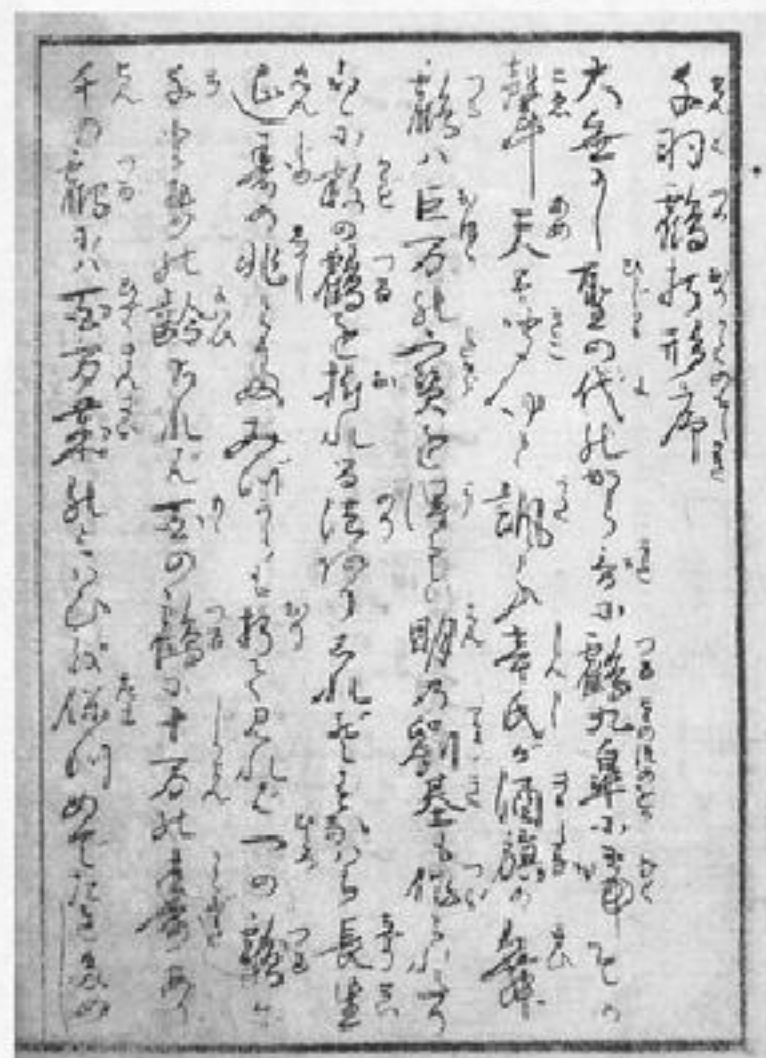


図1「千羽鶴折形序」



き
(起)



た
(多)



や
(屋)

図2



図3

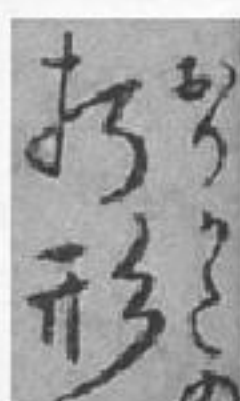


図4

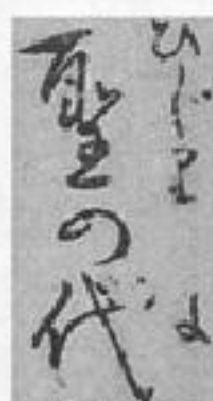


図5

○中村智晴(なかむら・ともはる)＝1993年長崎県生まれ。東京大学教養学部にて日本文化を研究中。若手で折紙と聞くと理数系の話題が多くなりがちですが、史的分野の面白さにも目を向けていきたいと思っております。



ませていると記しています。そのため、例えば

初恋は嬉しきものと思はるる

おもたかだかとよみ揚ぐる文(澤瀉)
といった純粹で初々しい“恋”を描いた狂歌もあれば、

楊貴妃は芙蓉の花に似たるとて

抱てねたれば露にぬれつゝ(芙蓉)
といった艶っぽい“色恋”を描いた狂歌も配列されています。言葉の意味を知り、情景を想像しながら読み進めると、多種多様な恋の姿を垣間見ることができるでしょう。

2つ目は、様々な修辞法が使われている、という点です。主な修辞法としては、掛詞、本歌取り、などがあります。「修辞法」というと仰々しく感じますが、大衆向けに書かれた狂歌ですから、ピンとくると面白い、遊び心のレトリックが散りばめられています。例えば、

朝顔や釣瓶とられてもらひ水

ついでに千代と目でしらす暮(薺)
という狂歌でいうなら、上の句「朝顔や釣瓶とられてもらひ水」の部分は、加賀千代女の有名な発句からの引用です。下の句の「ついでに千代と」は、加賀千代女の「千代と」と「ちょっと」の掛詞になっています。「夕暮れにふらりと水を貰いに来た女が、ついでにちょっと目配せして、何を知らせているのやら」これもまた少し“色”を感じさせる狂歌です。

3つ目のポイントは、遊里について描かれている歌が多く見られる、という点です。遊里や色町といえは江戸の吉原が有名ですが、その他にも京の嶋原、大坂の瓢箪町などがあります。

いなづまや昨日は東今日は西

祇園朱雀の色にうかれて(稲妻)

という狂歌も、京の東側に花街である祇園があり、京の西側の朱雀通りに色町である嶋原があると知っていれば、意味が分かります。すなわちこの歌では、花街や遊里へあちこち通う男の姿を稲妻に喩えているということです。予備知識として吉原・嶋原・瓢箪町の名を知っておくだけでも、狂歌を読むうえでヒントになるかもしれません。なお、「いなづまや昨日は東今日は西」の部分は、これまた有名な宝井其角の句の引用です。

最後に、4つ目のポイントは、前後のつながりを見付けることです。例えば、「比翼」という作品の直後には「相生」という作品が続きます。これらの銘はいずれも、夫婦や男女がいつまでも仲睦まじくいることを表す言葉ですが、「比翼」は中国古典『長恨歌』の一節を基にした表現である一方、「相生」は「高砂、住吉の松も相生のやうに覚え」と能にもあるように、日本的な情緒を持った表現です。この2作品は、共通する内容を持ちながらも、一方では中国由来の表現、一方では日本的な表現を配置することで、対称を成しています。

他にも、「花菱」の次には「早乙女」という作品があります。それぞれの狂歌を見てみると、

花菱や桔梗や桐の紋つくし
化粧道具を送る嫁入荷

その次に、

花嫁も娘も出て早乙女や
おいど並べて田植する也

となります。恋が成就した花嫁も、婚家で田植へ繰り出しているという、時間の流れが窺えます。また、「花菱」の狂歌では、華やかながらどこか寂しげな嫁入りの場面が描かれますが、

「早乙女」の狂歌では、牧歌的ながらどこか楽しげな田植の場面になっているのが対照的だと読むこともできるでしょう。

このように、前後、あるいは更に複数の狂歌において、伏線が隠されていることがあります。そこにピンと気付く面白さも鑑賞のポイントの1つです。

最後に

本稿執筆時点では、主に解釈・解説について目下作業中の段階です。校異整理に関してもまだ不十分なところがあり、作業が必要です。こうした検証が一定の水準に達し次第、折紙アートミュージアムの方へアップロードする予定です。その際には、みなさま何卒よろしくお願い申し上げます。

前述しました通り、ここまでの作業は、多数の先行研究を参考として成り立っております。これまでの成果を積み遺してくださった先達のみなさまへ尊敬の念を表しますと同時に、真摯に調査を進める思いを新たにします。次第です。またとりわけ、岡村昌夫氏には、直接のご指導を賜っております。末筆ではありますが、ここに深く感謝申し上げます。

参考文献

- 日本折紙協会(1991)『秘伝千羽鶴折形：復刻と解説』
- 大塚由良美(2010)『桑名の千羽鶴：一枚の紙から数羽の鶴を折る『千羽鶴折形』より』桑名の千羽鶴を広める会
- 岡村昌夫(2006)『つなぎ折鶴の世界：秘伝千羽鶴折形』本の泉社
- 笠原邦彦(1976)『新版・千羽鶴折形』すばる書房
- 笠原邦彦(1976)『おりがみ：江戸の古典千羽鶴折形』すばる書房
- 富田瑞穂(2008)『一枚の紙で折る京連鶴』PHP研究所

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

第16回 桑名『素雲鶴』取材レポート

A Report on Sounkaku

1月10日、かつてない大発見の知らせが届いた。「素雲鶴(そうんかく)」が見つかったというのである。「素雲鶴」とは、『秘伝千羽鶴折形』(以下『秘伝』)の掲載作の考案者である義道(号は魯縞庵)が、自作の連鶴の作り方を記録した史料であり、これまで名前のみ知られていた。このニュースを受け、著者両名と編集部で「素雲鶴」が展示されている桑名市博物館の「新春企画展 初春の夢」を見学し、発見の経緯と史料の詳細について関係者から取材を行ってきた。

新史料は、昨年11月に桑名市の長円寺で見つかった。長円寺の住職さんによると、伊勢湾台風で水没した書類をまとめていたカビだらけの段ボール箱が、以前から押し入れの奥に放置されていたという。今回、処分しようと業者を呼んだところ、江戸時代の年号が書かれた本が見つかり、もしやと思い博物館へ持っていったそうだ。

博物館側も知らせを聞いた時は半信半疑であったそうだから、いかに予想外の発見であったかが分かる。

見つかったのは『魯縞庵新撰 素雲鶴』(以下『新撰』)と表紙に書かれた23ページの本と、「折鶴三十品老百老羽」と記された縦28cm、横39cmの美濃紙1枚である。美濃紙は4つ折りの状態で、『新撰』の裏表紙に挟まっていた。

そのうち展示されていたのは、『新撰』の12~13ページと美濃紙の現物、そして『新撰』7ページ(4丁表)のモノクロコピーである。史料は撮影不可だったため、取材時のメモを元に美濃紙の概形を描き起こしてみた(図1)。もちろん完全な再現ではないので、参考程度に見てもらいたい。この史料には30作の切り方図が掲載されており、それぞれに作品銘と鶴の数を記したと思しき数字が併記されていた。その末尾には、作品を詰める

のに使ったと思われる箱の寸法の他、「寛政癸丑年春二月校定之 勢北桑名海岸 魯縞庵主露紅記之」という直筆の署名と「魯縞」の印があった。この記述に沿えば、史料が書かれたのは寛政5年(1793)であり、『秘伝』初版(寛政9年)を4年さかのぼる。また「美

★トリビア★
『新撰』には、158種の連鶴が掲載されている

濃紙三枚」という記述も見られた。

一方『新撰』に関しては、同館の歴史専門官である大塚由良美さんによ

このコーナーでは、折り紙に関するちょっとした疑問を探究し、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

堀口直人

Horiguchi Naoto

中村智晴

Nakamura Tomoharu

ると、裏表紙に「文政元年戊寅九月写之」と判読不明の封緘(ふうかん)があったという。文中にはそのほか寛政6年、文化7年、文化15年、文政3年、文政6年と書かれていたそうで、収録作は(1)寛政6年以前(2)寛政6年から折り始めたもの(3)文化年間の作品(4)文政年間に大きく分けられるという。ここから、『新撰』がまとめられたのが文政元年で、以後順次書き加えていったのだろうと大塚さんは推定している。彼女はまた、書かれた時期や、『新撰』の「写之」という記述から、今回発見された美濃紙の史料は、『新撰』の元となった『素雲鶴』の一部ではないかとも推測している。

作品は記載された時期ごとに何種類何羽の形でまとめられており、収録作は合計で158種類1874羽になる

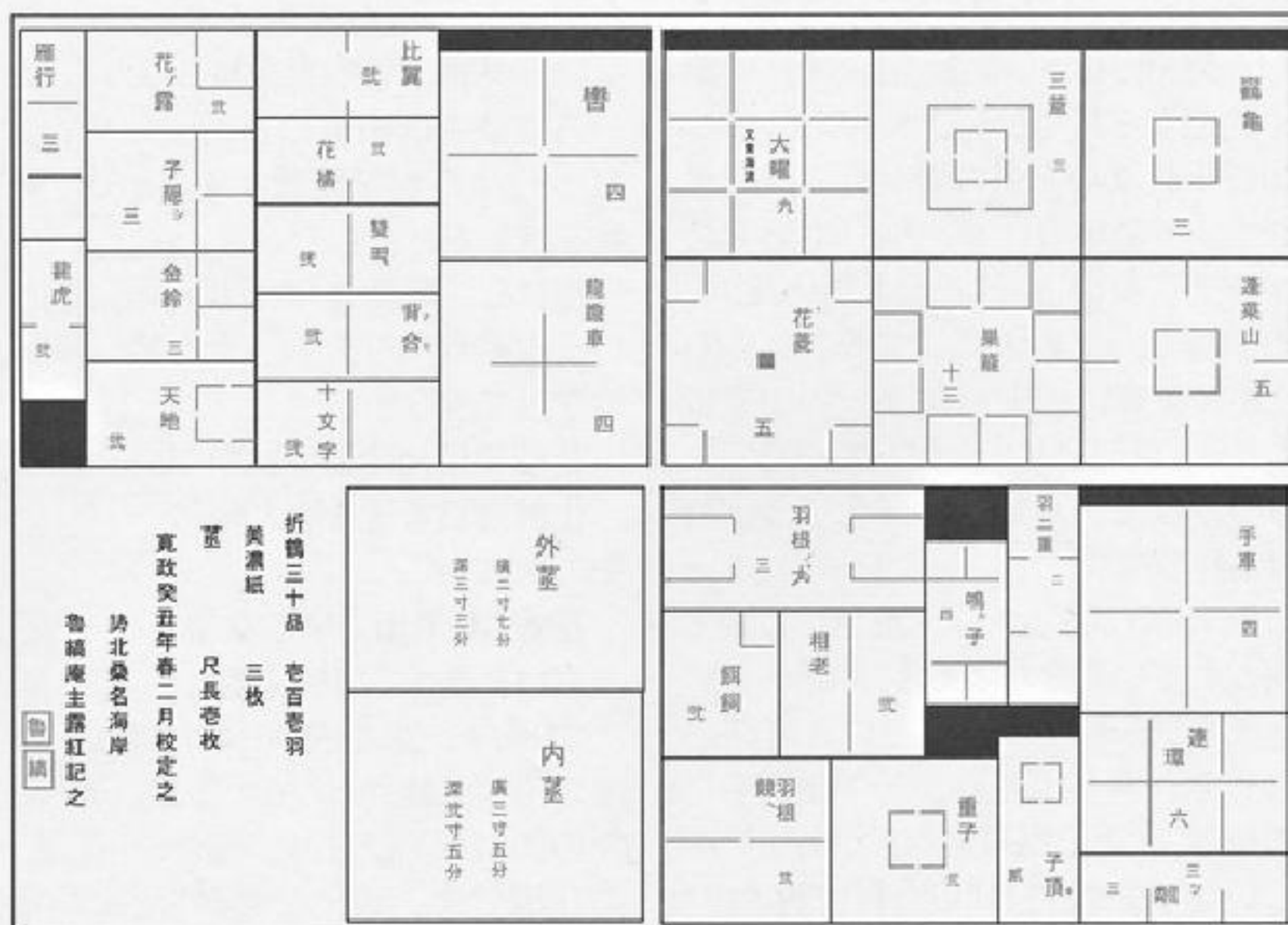


図1 発見された美濃紙の再現図。中村・堀口のメモを元に堀口が作成した

○中村智晴(なかむら・ともはる)=クローズアップの原稿を書いている最中にこの発見のニュースを知りました。あまりにタイミングが良いので、かくも不思議な巡り合わせがあるものかと独り勝手に驚いております。



○堀口直人(ほりぐち・なおと)=変体がなはまったく読めないで、中村さんにおんぶにだっこの取材でした。突然の誘いに応じてくれた彼には大変感謝しています。



という。ただしこの数は作品の重複を考慮していない。

収録作のうち、「寛政六年から追々折」と記されたページの6種類538羽には切り方図がなく、1作あたりの鶴の数だけが記されていたという。『秘伝』の発行年から考えて、この寛政6年と記された箇所より前のページの掲載作から『秘伝』の掲載作が選ばれたと、大塚さんは推定している。

ただし、今までの検討はあくまで現時点のものと留保しておく。というのも、水没したせいもあって史料の状態が良くないのだ。展示されていたページでさえ、紙がよれたり隣のページの線が写っており、現状では

判別が困難な記述が散見された。また『秘伝』のような補助的な線や記号が基本的にないたため、切り方図だけでは作品の正確な完成形を推定できない。

また、『秘伝』との関連で言えば、義道による銘と『秘伝』の銘が同じで、切り方図も同じものが幾つか見られた(大塚さんによると全体で11作見つかったという)一方で、『秘伝』に掲載されているのと同じ切り方図にまったく違う銘がついている例があった。さらに『秘伝』で「雛遊」の銘がついている切り方図が、今回見つかったいずれの史料でも「巢籠」と名付けられているといった例もあった。こうした点

や先述した史料の状態から、『秘伝』掲載作との照合には大変な困難が予想される。『秘伝』の挿絵ページにのみ載っていた連鶴も、『新撰』にはそれと思しき切り方図が「釣花瓶」の銘で載っていたが、そのまま折っても挿絵の通りにはならず、どこかを内側に折り込んだり切り落したりといった解釈が、再現には必要になる(図2)。

我々も展示されていた切り方図から1作再現を試みた。「三笑」という銘のこの作品は、「巢籠」を45°傾けて2つ並べた切り方であった(図3)。おそらく平織りの技法を用いていると想定したが(図4)、これとて座布団

折りを加えたり比率を変化させたりすることでいくつもの再現案ができる(作例はカラーページを参照)。今後は様々な解釈がなされた再現“案”が生まれるだろうという期待と同時に、厳密な史料研究と愛好家による「創作連鶴」をどう両立させるか、慎重な議論が必要になるだろう。

私見としては今回の取材、折紙作家「義道」に触れる貴重な体験であった。『素雲鶴』は、創作記録としても読める。先ほどの「三笑」もそうだが、掲載作のバリエーションと、そこに息づく発想力にはとにかく圧倒される。作品の別解が列举されていた他、バージョンアップを行っていたと想像される例もあり、少しでも良いものを、という作家の気概が溢れているのだ。

現在この史料は長円寺の所有で、市に寄託する形をとっている。今後は何より修復作業を第一に行いたいとしており、その後は史料を写真コピーした図版集を出版し、まず多くの人に史料を見てもらえる形にしたいという。

先述した通り、今の史料の状態では判読に留保が必要な部分が多量にも多く、詳細な検討は、複製の出版を待ってから行うべきであろう。今はこの大発見を喜び、今後の研究の広がりに期待したい。

謝辞

大塚由良美さんをはじめ、今回取材に協力していただきました桑名市博物館の皆様に、感謝申し上げます。また今回の取材は、JOASから取材費を受けて行いました。この場を借りて感謝申し上げます。

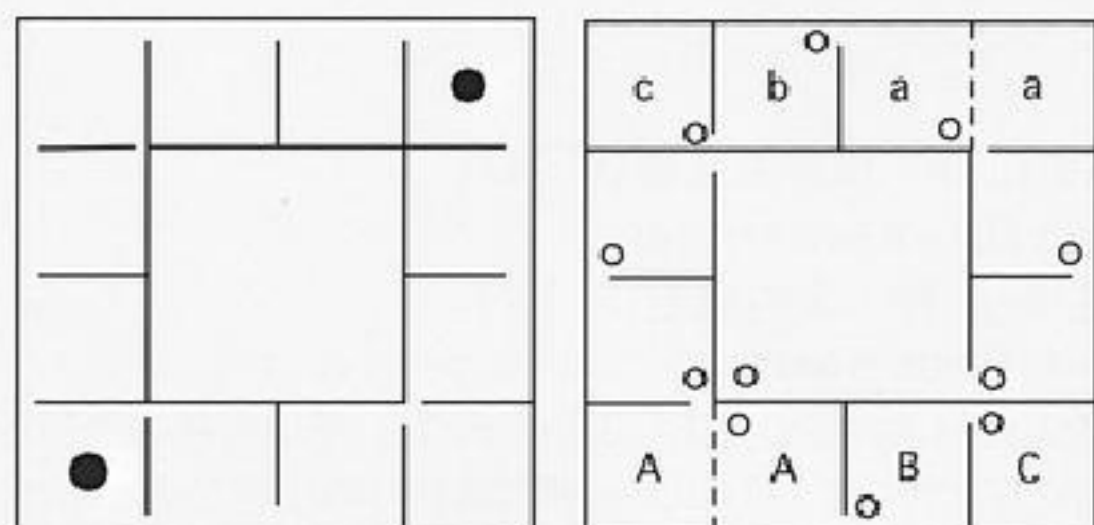
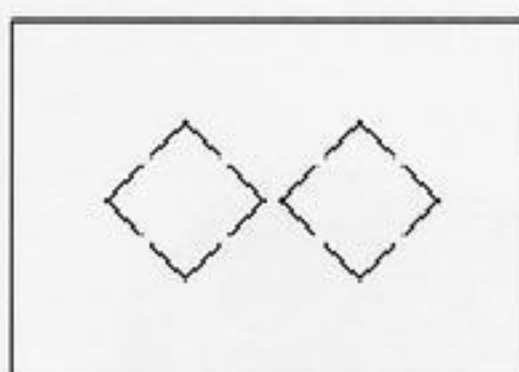


図2 『新撰』にあった「釣花瓶」の切り方図模写(左)と桑名市の再現案(右)(取材内容を元に堀口が作成)

図3 『新撰』に掲載されていた「三笑」の切り方図模写(取材内容を元に堀口が作成)



編注)再現案の作例写真は本誌P.23に掲載しています

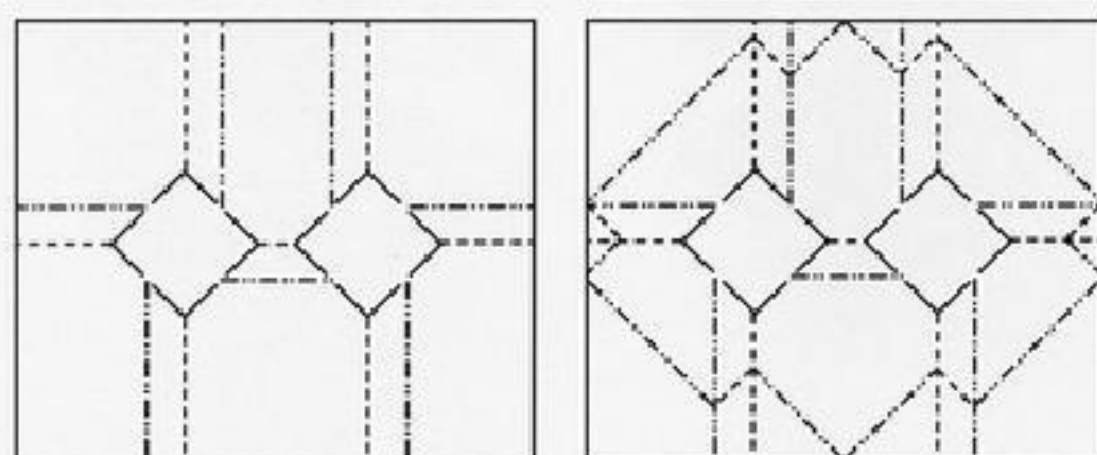


図4 図3から推測される「三笑」の再現案

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

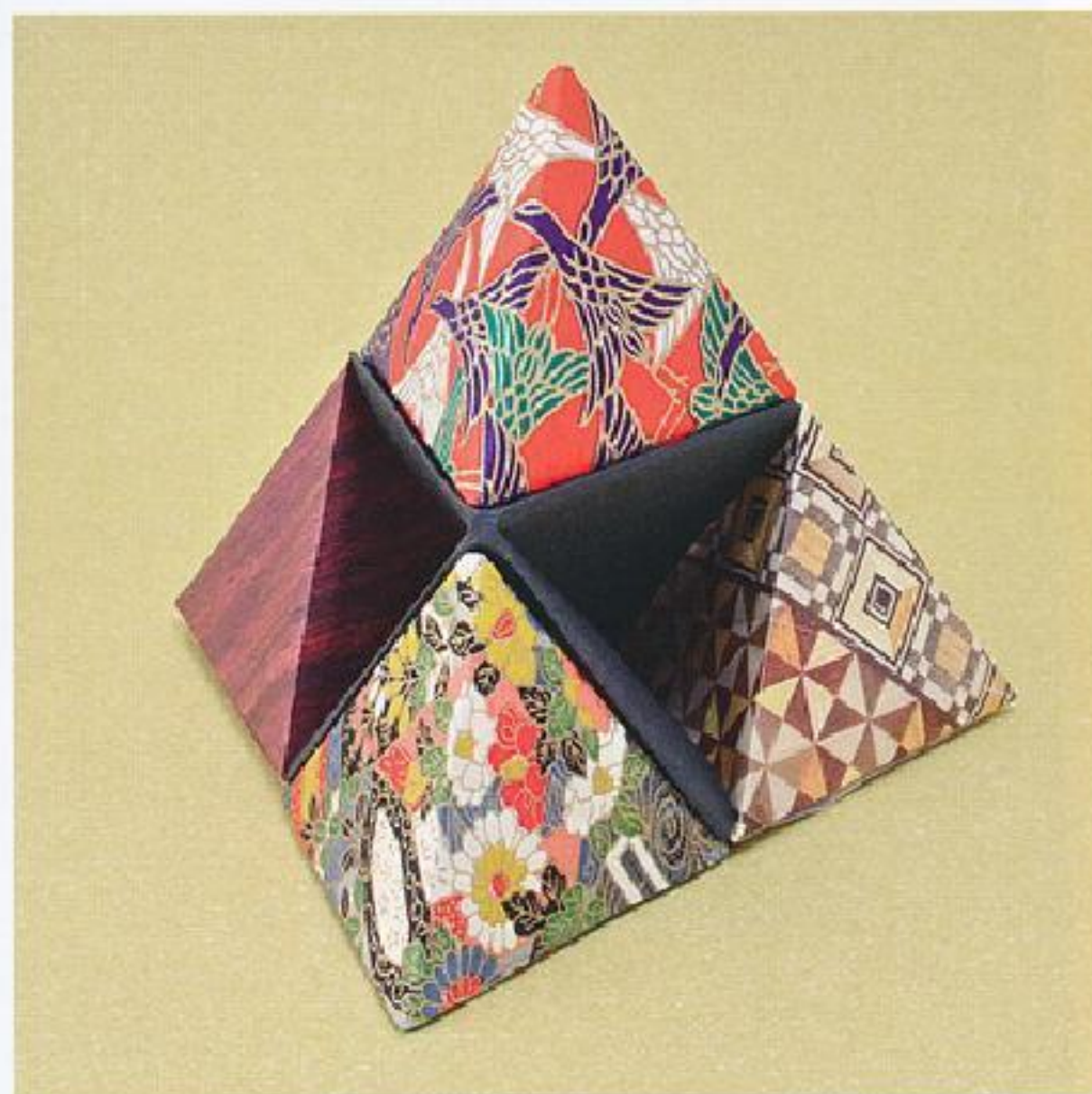
Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)

日常生活でなにか問題にぶつかったときに、問題に直接的に立ち向かうだけでなく、手作業をしながら待てみると、予想外の解決策にたどりつくことがあります。折紙者でよかったと思える瞬間。

「テトラテトラ／ティアドロップ飾り」 作：前川 淳(P.4)

Tetra-tetra, Teardrop Ornament: Maekawa Jun (P.4)

■「正四面体を切り刻んでゆくと、中心部分から正八面体が出てくる」ということを、手元でしっかりと実感できる作品。中心部分は「面で空間を覆う形」にせず、スケルトン的な表現となっています。このようにしたことでも得られる風通しの良さ・軽快なイメージも非常に魅力的。応用作品の折り図も付いていて至れり尽くせりの状態、あとはひたすら増産するのみ！



「いす」 作：松井英里香(P.10)

Chair: Matsui Erika (P.10)

「コリー」 作：大内康治(P.12)

Collie: Ouchi Koji (P.12)

■ボリュームたっぷりでふわふわの胴体と、細い骨格の頭部が印象的に対比されているコリー。折り線付けの工程を過ぎると、あれよあれよという間に立体的にまとまってしまう椅子。ドールハウスやジオラマでも活躍しそうなこれらの作品が、5ページの折り図に収まっていることも驚きです。





「T-Rex 2015」 作：川畑文昭(P.26)

T-Rex 2015: Kawahata Fumiaki (P.26)

■「復元図が時代とともに変化してゆく題材」である恐竜。それに加えて、作者の創作時点での興味・技術の方向性や視点の要素も加わって、さまざまな姿のティラノサウルスがこれまでに生み出されてきました。「季刊をる」4号掲載の写真や「空想おりがみ」収録のバージョンと比較して川畑作品のデザイン変遷を追いかけてみると、新たな発見があるかもしれません。



「カマドウマ」 作：今井幸太(P.37)

Camel Cricket: Imai Kota (P.37)

■「便所コオロギ」などと呼ばれて敬遠されることの多いカマドウマ。しかし折紙作品として作り込んでみると、その印象は一変して精悍なイメージに…ということがあるはずもなく、キモチフルさがより際立っています(←褒め言葉ですよ)。「実物大に折って飾っておいたら、いつのまにかティッシュでつかんで潰されていた」なんてこともあるかも。取扱いにはくれぐれも注意!



第25期会員特別配布資料

The 25th Members' Special Materials

■毎年、これが欲しくて会員になる人が多いという、「会員特別配布資料」。今年は、神谷哲史氏・作の「トンボ」の折り図と、豪華な顔ぶれによる「展開図折りに挑戦!」となった。



Jason Ku (CP)



Kamiya Satoshi (Diagrams)



Kosuge Akihiro (CP)



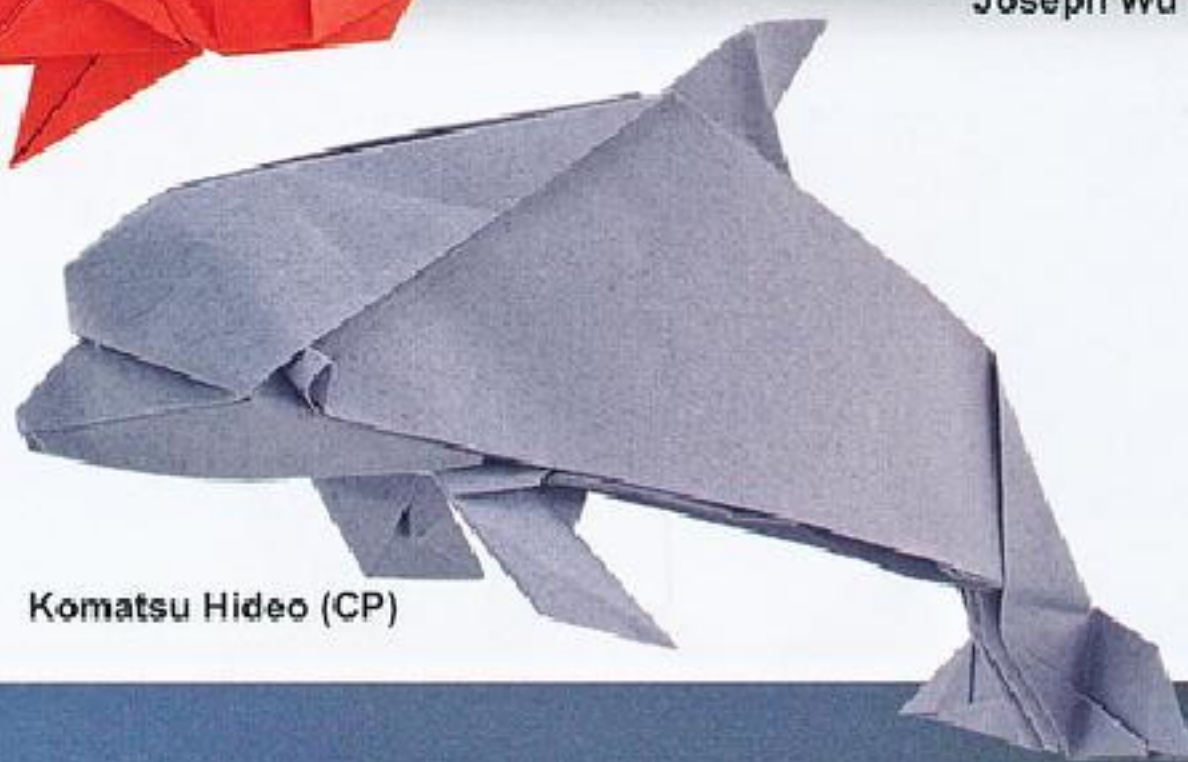
Nakamura Kaede (CP)



Joseph Wu (CP)



Hojyo Takashi (CP)



Komatsu Hideo (CP)



Robert J. Lang (CP)

桑名『素雲鶴』取材レポート番外編

Spinoffs from a Report on Sounkaku

■今までその存在すら謎とされていた史料「素雲鶴」が発見されたとのニュースを聞いて、2月10日に三重県の桑名市まで取材に行ってきた。史料の詳しい内容については、本誌P.18-19を読んでいたかとして、ここでは他に見てきたものをご紹介します。



▲義道のいた長円寺には、立派な石碑が立っていた



▲石碑の後ろには「釣ふね」「村雲」のイラストが刻まれ、さらにその後ろには『秘伝千羽鶴折形』から抜粋された絵が掲げられている



▲市営の斎場「おりづるの森」。建物が少し折り紙的であるが、建物内には入らなかったため、詳しいことは不明のままでした。



▲2つの史料を熱心に模写しながら大塚氏に質問する堀口氏と中村氏

▶史料が展示されていた桑名市博物館の前にて



▲石碑横に立ててある、義道の説明



▲前川氏も所持していることで有名(?)な、桑名市のマンホール



▲桑名駅前に通じる大通りには、「楽籠」のモニュメントがあった



Folded by Horiguchi Naoto

▲『魯縞庵新撰 素雲鶴』に掲載されていた切り方図から推測した「三笑」再現案3種(制作:堀口 直人)。詳細はP.18-19参照

折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of
Origami Tanteidan Tokyo Group

■ひと月に1回の東京友の会の定例会では、毎回多くの新作が発表され、どんどんクオリティが上がっている。特に若手の創作意欲には目を見張るものがある。お互いに刺激し合うということの重要性を感じさせてくれる。



Yoo Tae Yong



Yoo Tae Yong



Sahara Hiroki



Hagiwara Gen



Hishiki Jinto



Imai Kota



Mineo Shotaro
(Age 14)



Horiguchi Naoto

この春刊行予定『感動する折り紙(仮)』

A New Book Coming Soon:

Origami Moving and Touching Edited by Yamaguchi

■山口真氏が、自身の作品だけでなく、国内外の作家22人から集めた作品集を、2015年の5月頃にナツメ社から出版予定だ。中級～上級クラスを中心に50点の折り図を収録する。1970年代に生まれた名作から、2014年に創作された最新作品まで、幅広いラインナップとなっている。値段や発売日は、まだ未定。詳細は、本誌次号にて紹介予定だ。



Tsuda Yoshio



Sasade Shinji



Ronald Koh



Kamiya Satoshi



Robert J. Lang



Kawasaki Toshikazu

Origami ATC研究会より

To the Participants of the Workshop for Origami ATC

■ATCとは、アーティスト・トレーディング・カードの略。2.5×3.5インチ(約64×89mm)のカードに好きなように表現して、交換するというものだ。Origami ATC研究会は、JOASホールで2ヶ月に1回開催されている折り紙を使ったATC愛好家の集まりだ。会では、各自制作してきたカードの交換や情報交換をしたり、全員で同じ材料を使ったカードを作って比べたりしている。参加資格などは特にないので、気軽にご参加いただきたい。(要事前登録) <http://www.origamihouse.jp/informations/joascourse/index.html>

2月5日のテーマは「いきもの」でした。



「神恩感謝」/村上恵子・作

使用作品: 椿(山口 真・作)、ヒツジ(小野友彰・作)

「Love or Bubble」/

藤原香月・作

使用作品:

人魚姫(フチモトムネ子・作)

ホタテ貝のカード(山梨明子・作)

ハート(山口 真・作)



「冬の森」/川上雅美・作

使用作品: みみずく、木(山口 真・作)

次会Origami ATC交換会:2015年4月16日(木)の郵送参加方法

◆作品規定

- ・2.5×3.5インチ(約64×89mm)で作成する。
- ・折り紙の要素を1つ以上入れる。
- ・定形郵送するため、厚みは8mm以下にする。
- ・テーマ:いきもの

・裏面には、A.作品の題名と、B.作者名(ハンドル可)、C.使った折り紙作品の名前と創作者名、又は参考文献名とその著者名の3つを必ず記入のこと。できれば作成日やコンセプトも書くとうい。

◆応募方法

- ・Origami ATCを3枚(1口分)作り、宛名(名前に「様」も)を記入して82円切手を貼った返信用封筒を同封して、おりがみはうすへ送付する。
- ・返信用封筒(1口ごとに1枚)は、「長形3号(120×235mm)」を使うこと。

Origami Artist Trading Card

Title:	大輪のバラを君に。
Name:	スタッフhanako
HP:	スタッフhanakoの おりがみはうす日記
http://ameblo.jp/hanako-origami/	
作品について 折り紙の芸術家・作家を記入 作品名・作者名・作品のテーマ	
バラ (山口 真・作)	
『すてきな折り紙』(折紙)より	
2014年3月15日	

▲裏面表記の例

▲この黒枠が2.5×3.5インチ(約64×89mm)

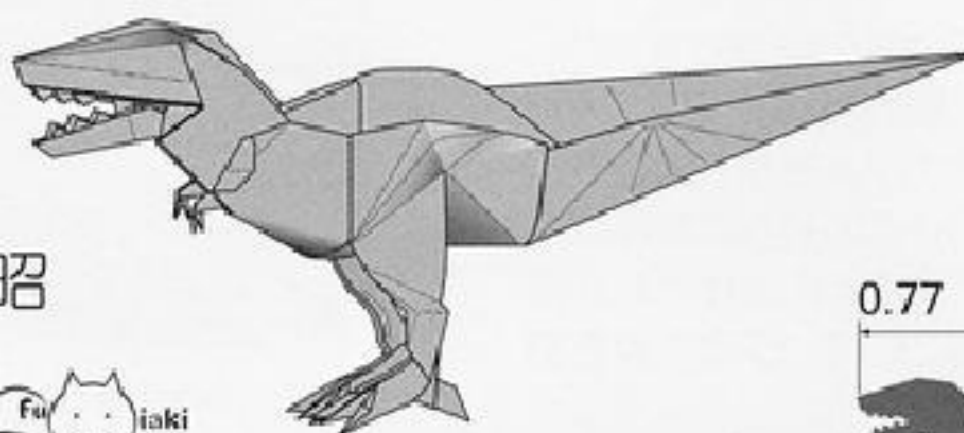
2015年5月30日(土)・31日(日)に開催される九州コンベンションでも、交換会を開催予定だ。テーマは自由で、郵送参加も受け付ける。詳細はP.40を参照されたい。

T-Rex 2015

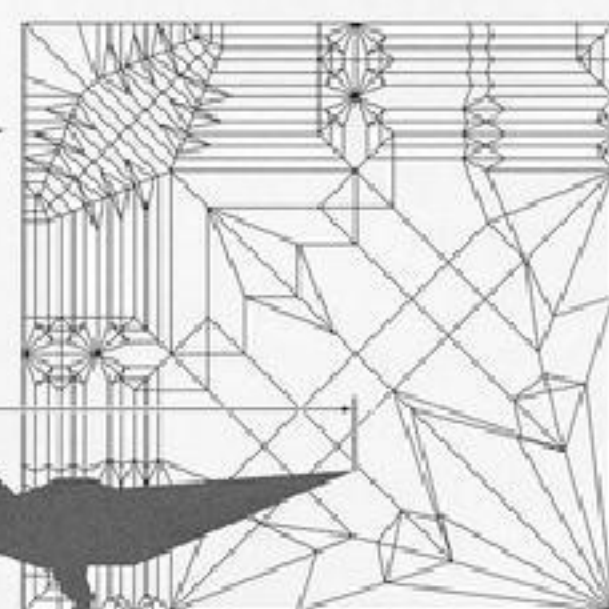
Kawahata Fumiaki 川畑文昭

Creation December 14, 2014

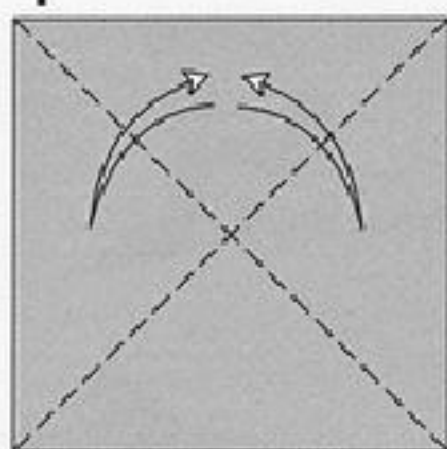
Drawing January 2, 2015



0.77

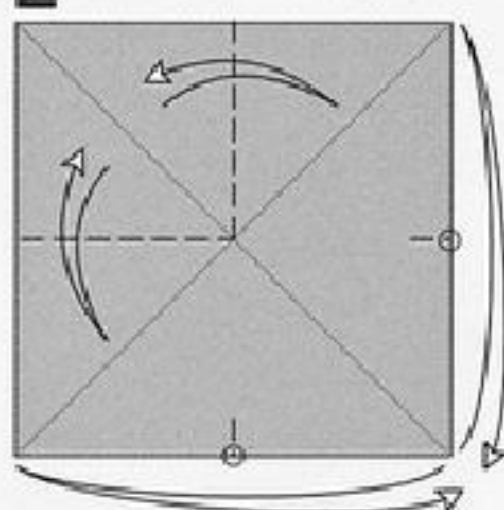


1



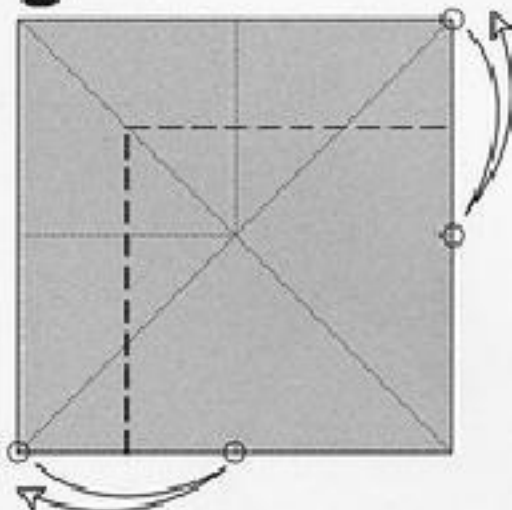
折りすじをつける

2



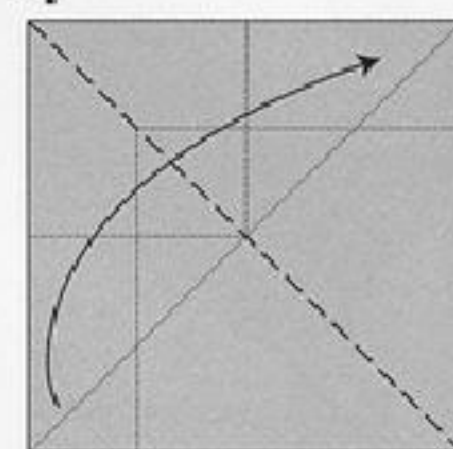
折りすじと印をつける

3



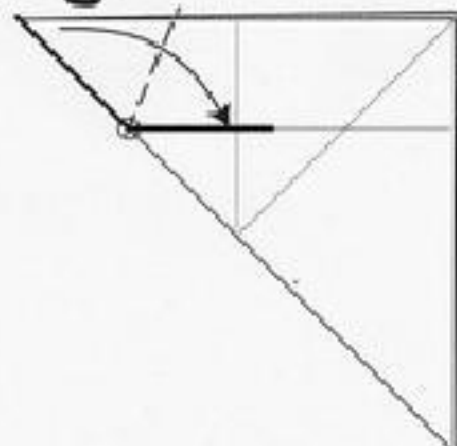
2 でつけた折りすじと印を基準に折りすじをつける

4



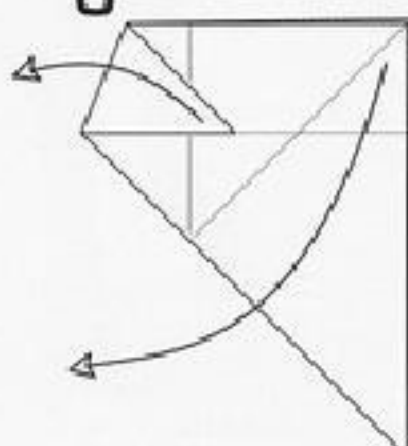
三角に折る

5



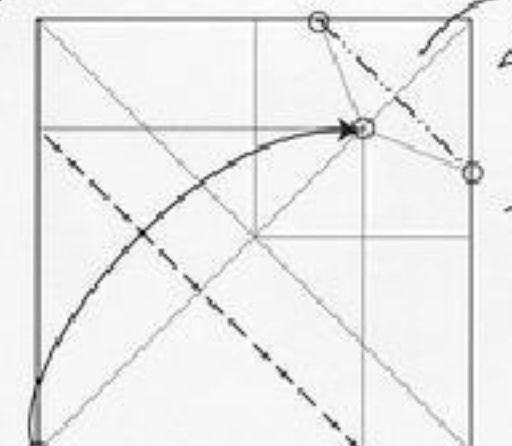
辺を折りすじにあわせて折る

6



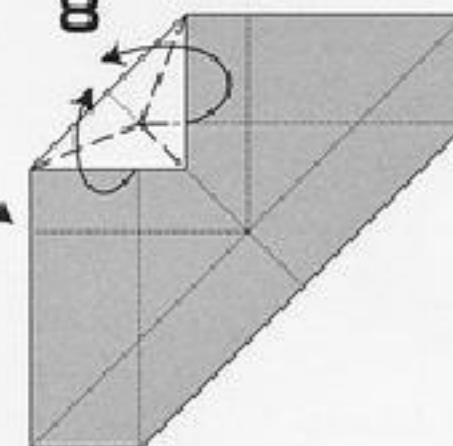
全部広げて戻す

7



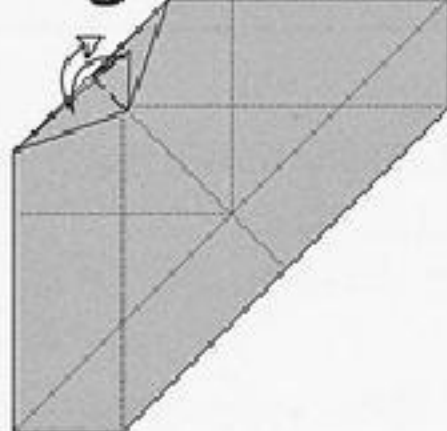
○を基準に折る

8



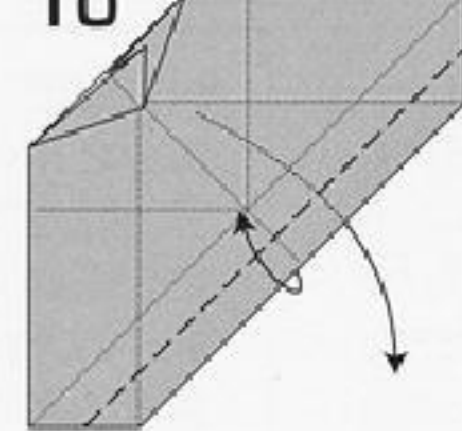
カドをつまむように折る

9



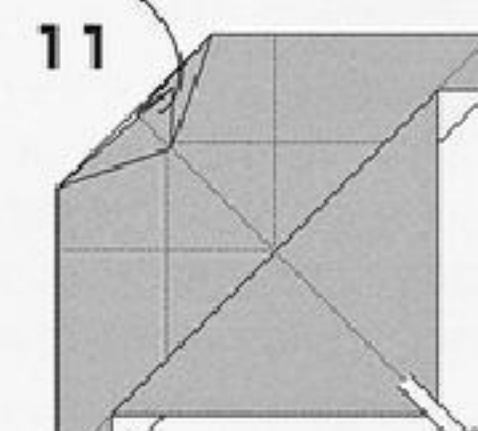
折りかえして
折りすじをつける

10



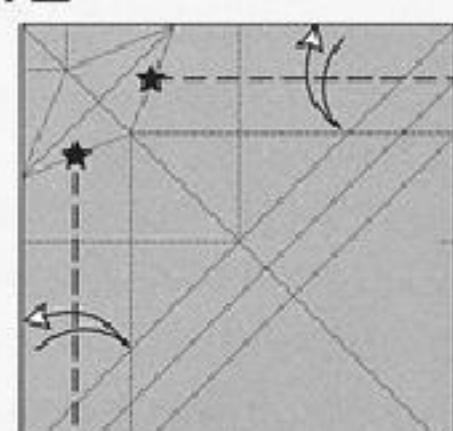
半分の幅で折る
同時に向こうの1枚を
手前におこす

11



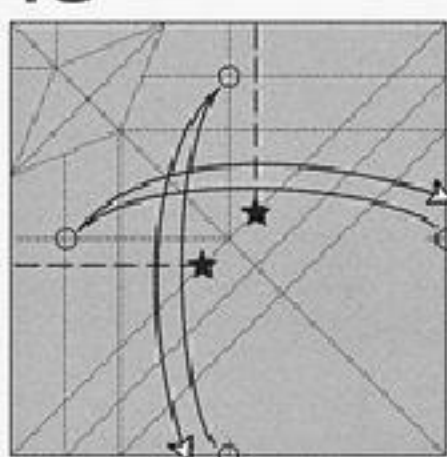
全部広げて戻す

12



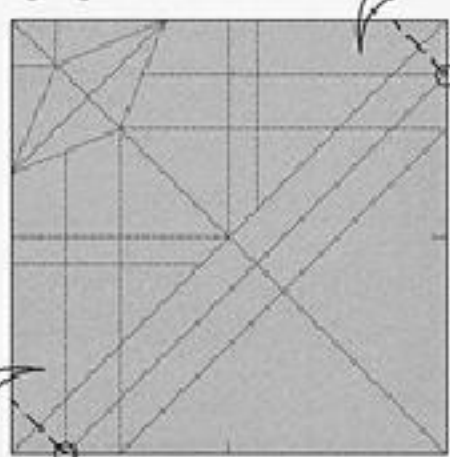
半分の幅で折りすじをつける
折る範囲は★まで

13



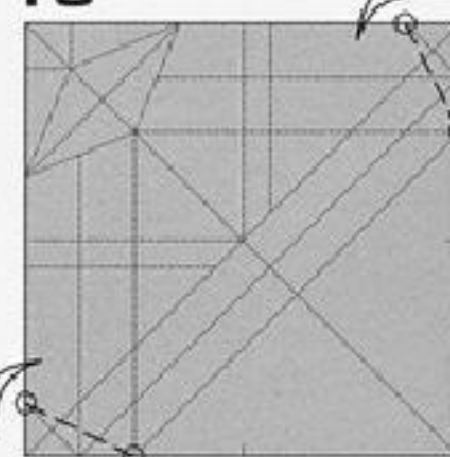
○をあわせて
折りすじをつける
折る範囲は★まで

14



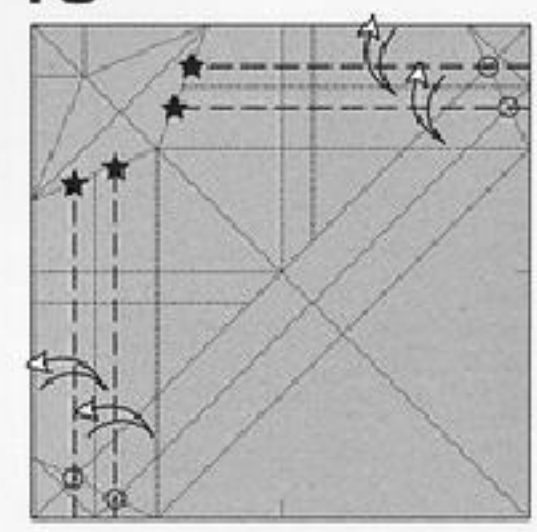
○を基準に折りすじをつける ○を基準に折りすじをつける

15



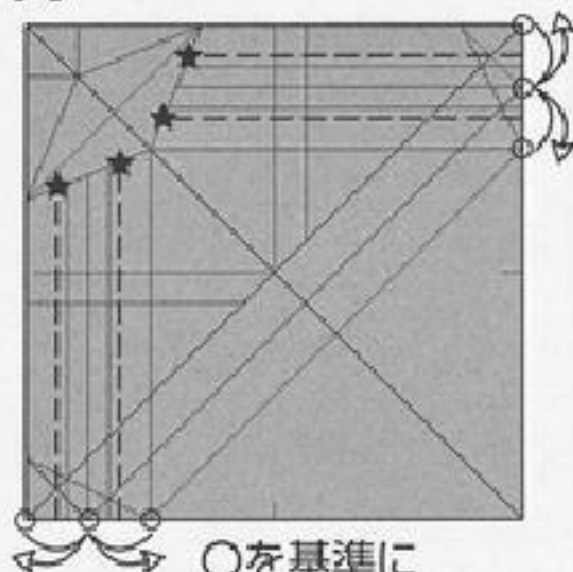
拡大

16



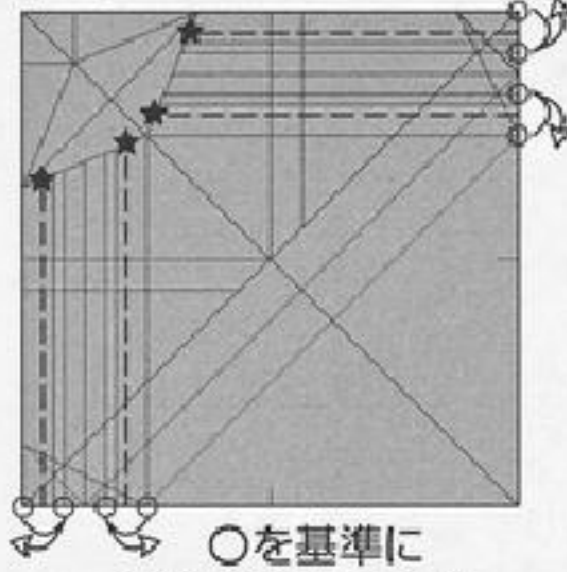
○を基準に折りすじをつける
折る範囲は★まで
19 までの折りすじは
山、谷どちらでも可

17



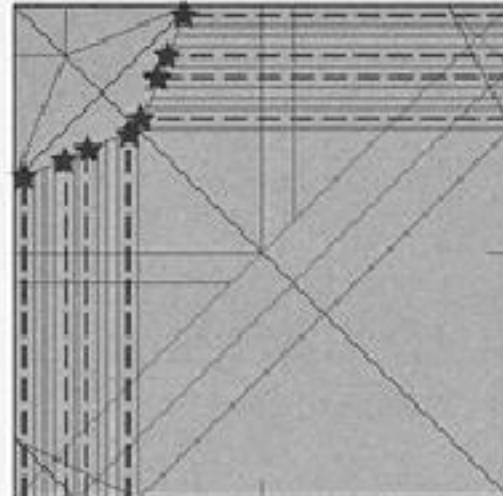
○を基準に
折りすじをつける
折る範囲は★まで

18



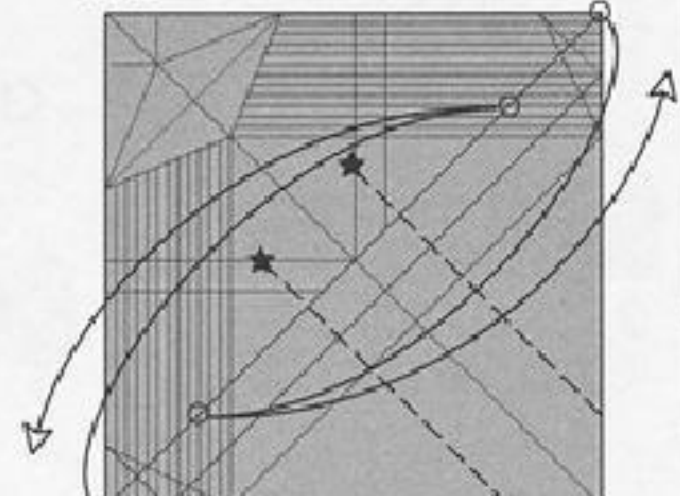
○を基準に
折りすじをつける
折る範囲は★まで

19



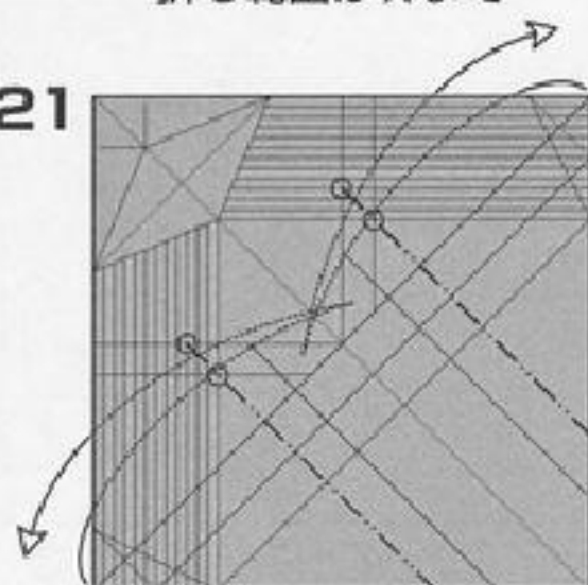
半分の幅で折りすじをつける
折る範囲は★まで これで
12等分の折りすじ完成

20



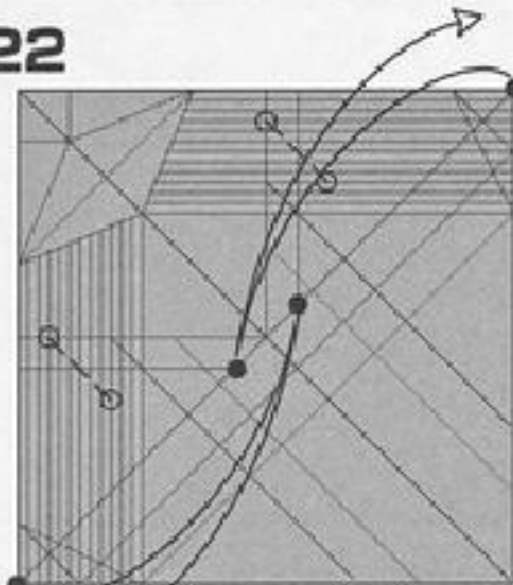
○を基準に折りすじをつける
折る範囲は★まで

21



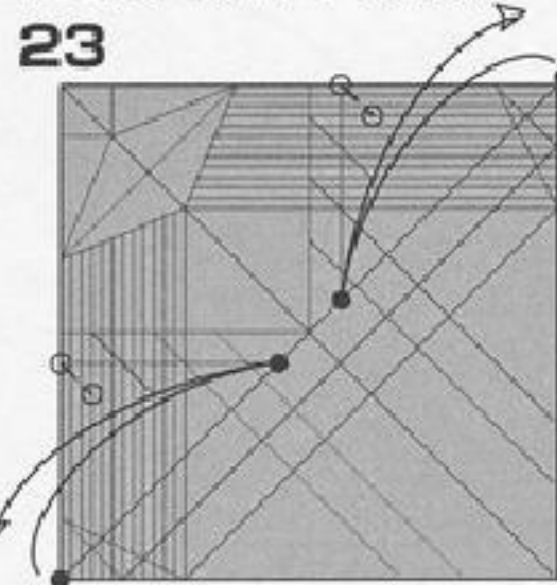
○を基準に折りすじをつける

22



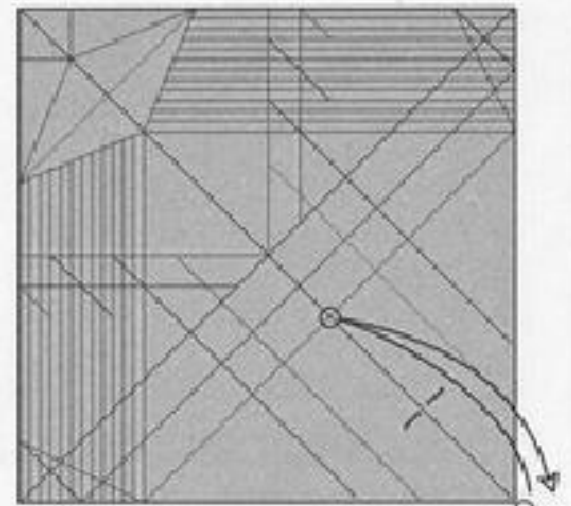
○を基準に
折りすじをつける

23



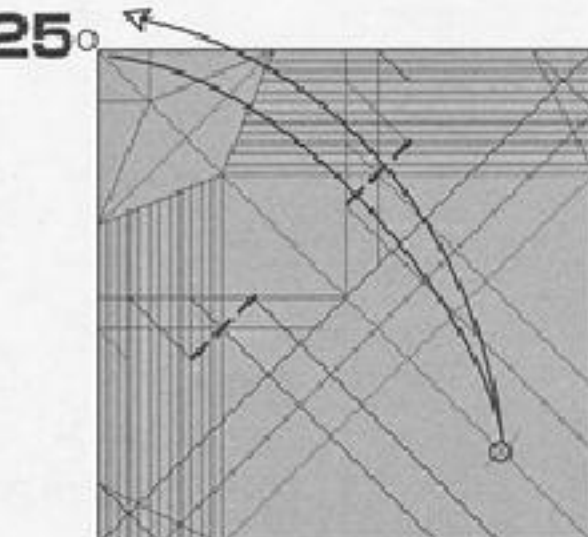
●をあわせて○の間に
折りすじをつける

24



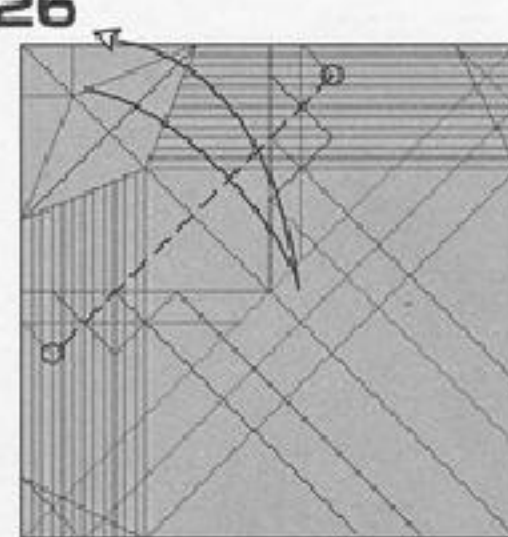
○をあわせて印をつける

25



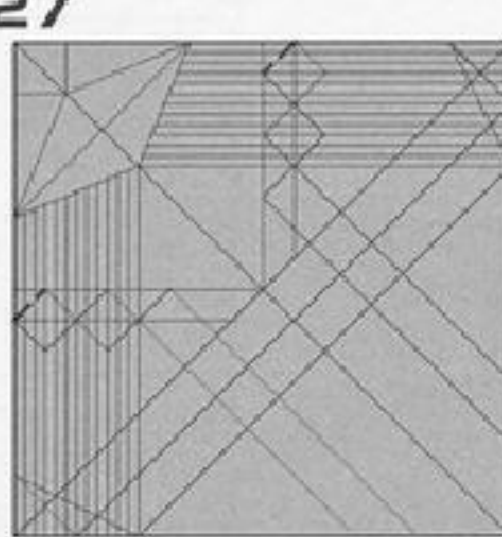
○をあわせて折りすじをつける

26



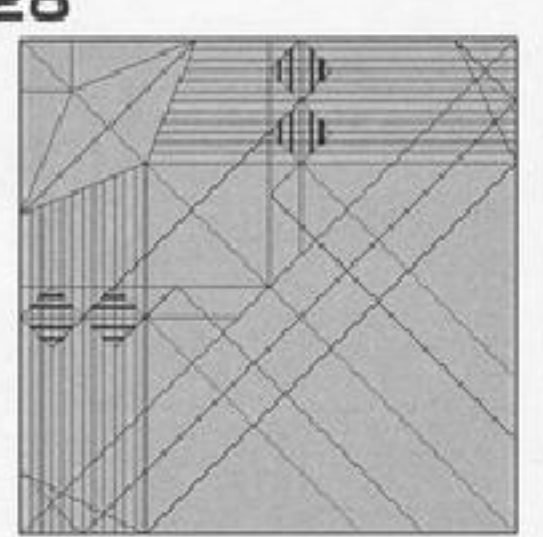
○を基準に折りすじをつける

27



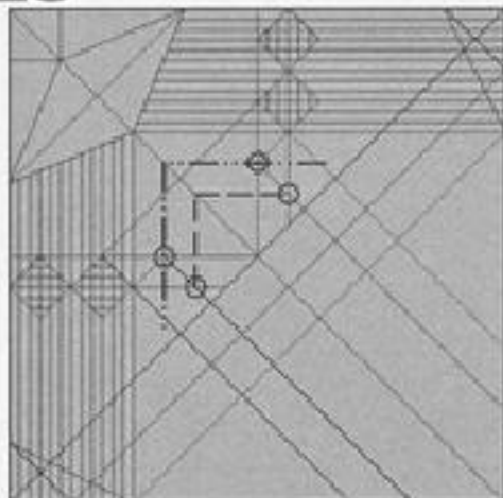
折りすじを追加

28



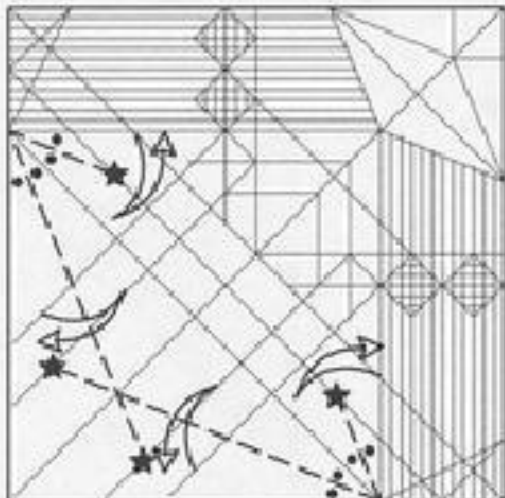
折りすじを追加
山、谷どちらでも可

29



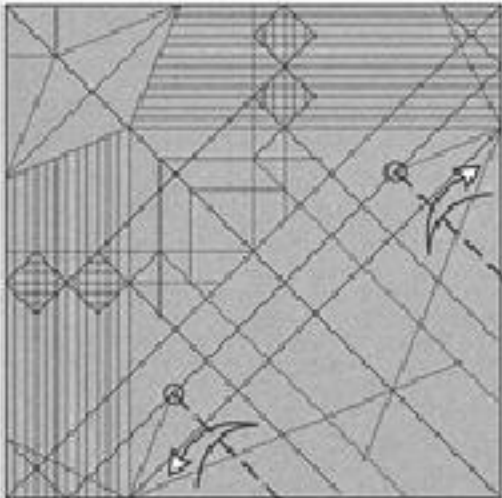
○を基準に折りすじを
つける

30



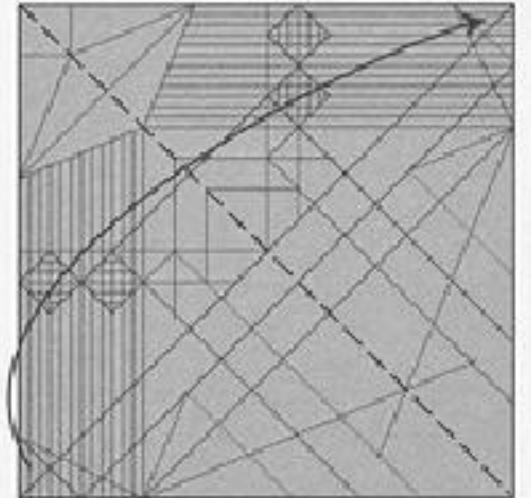
半分の角度で折りすじをつける
折る範囲は★まで

31



○を基準に折りすじをつける

32



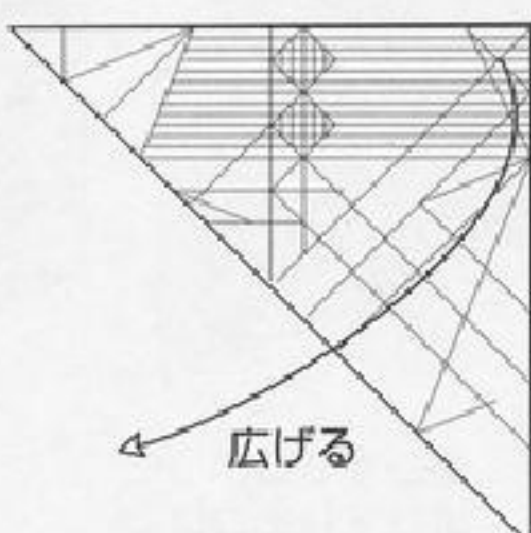
三角に折る

33



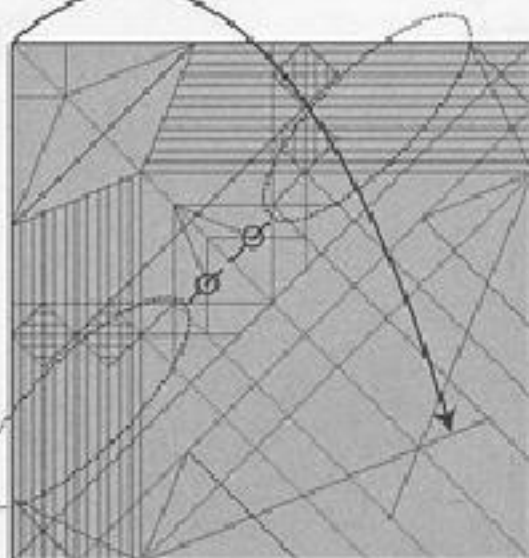
重ねたまま
半分の角度で
折りすじをつける
折る範囲は★まで

34



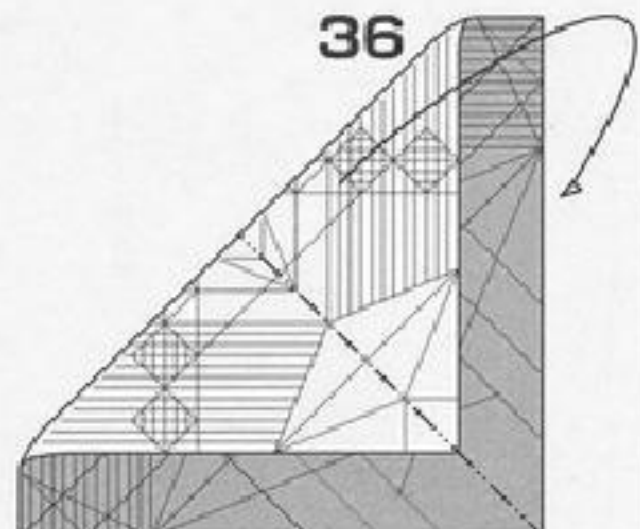
広げる

35

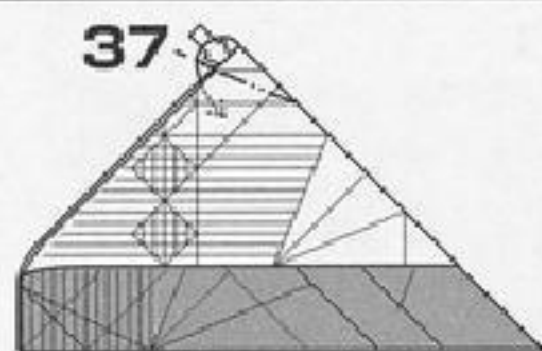


○を基準に折る
破線部内は折りすじをつけない

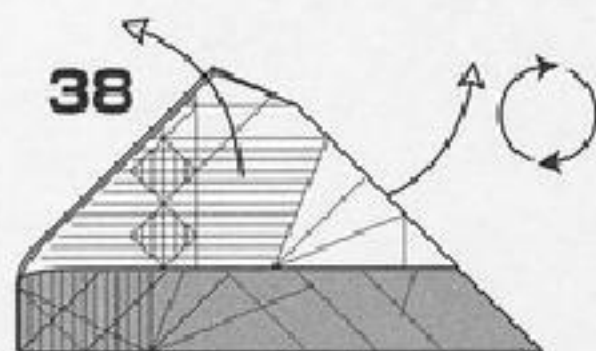
36



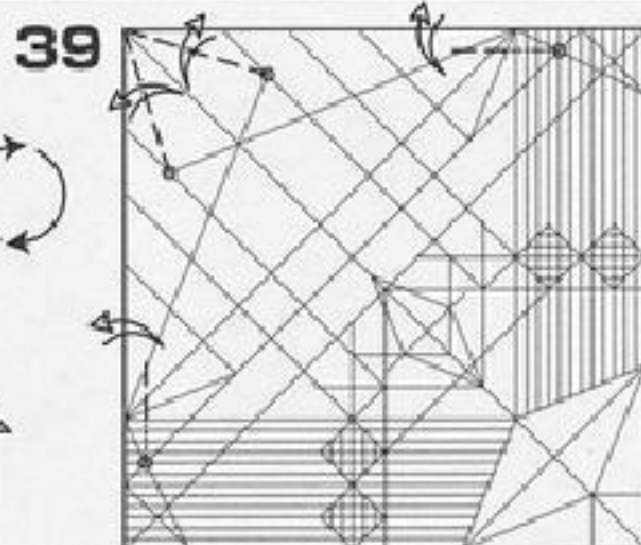
向こう側に半分に折る



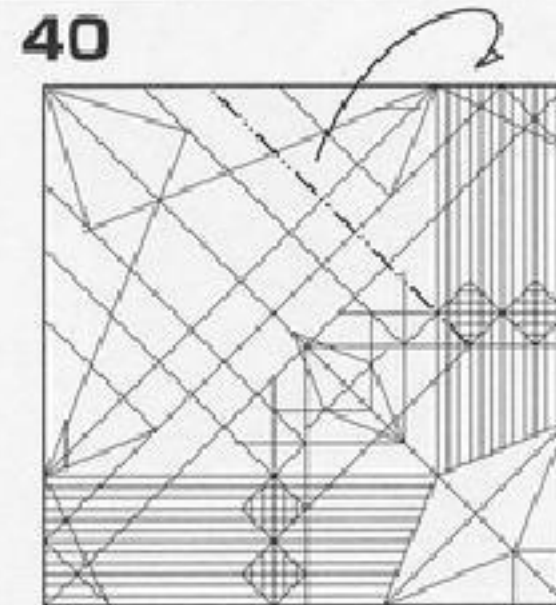
33 でつけた折りすじ
で中わり折り



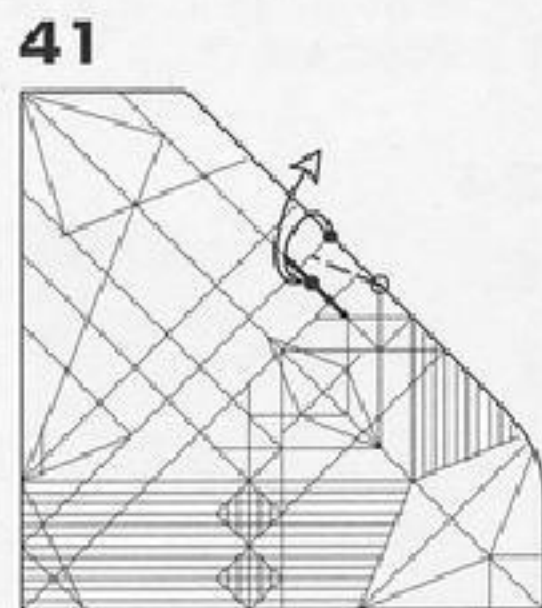
全部広げる



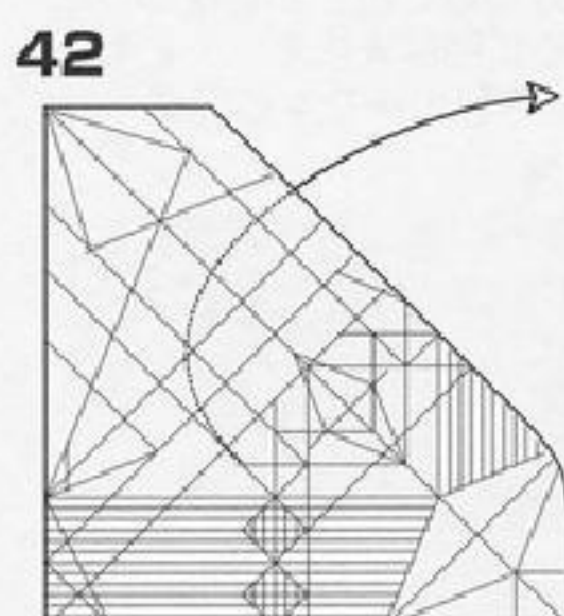
折りすじを追加する
足首と尾を折る時の目安になる



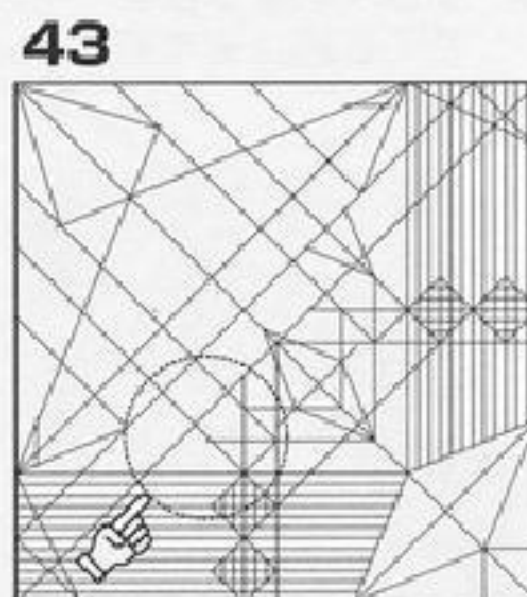
33 でつけた折りすじで折る



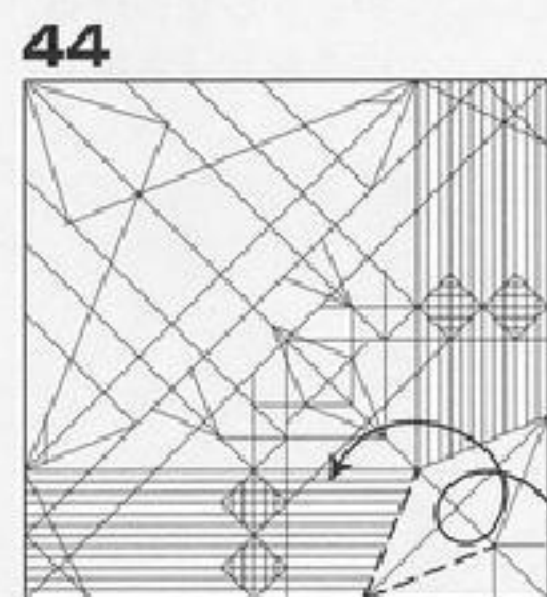
●点が太線部に重なるように
折りすじをつける



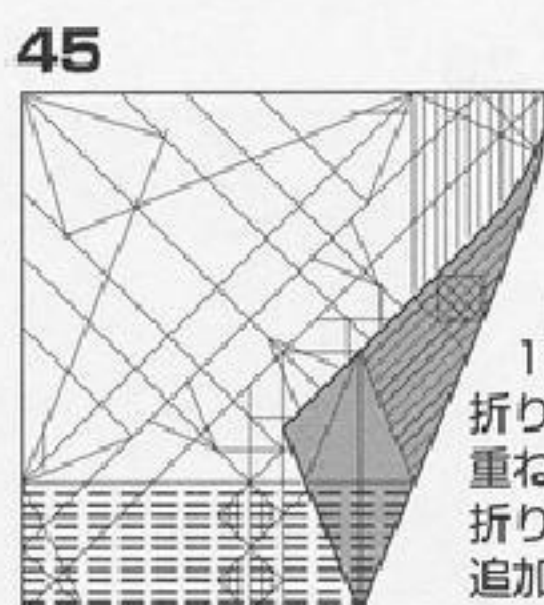
広げる



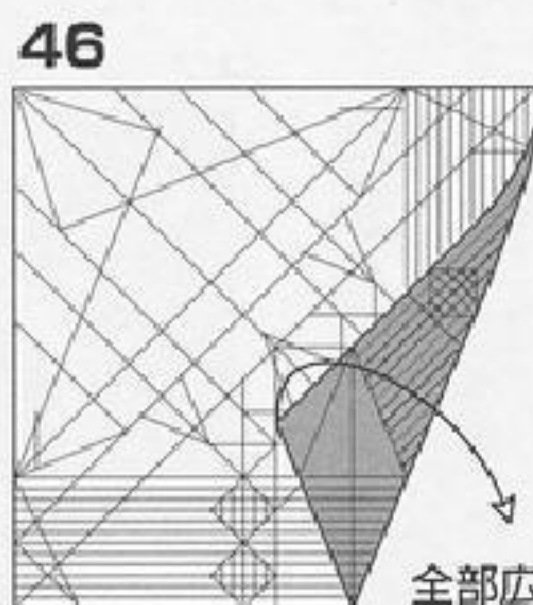
反対側も 40 ~ 42 と同じように
折りすじをつける



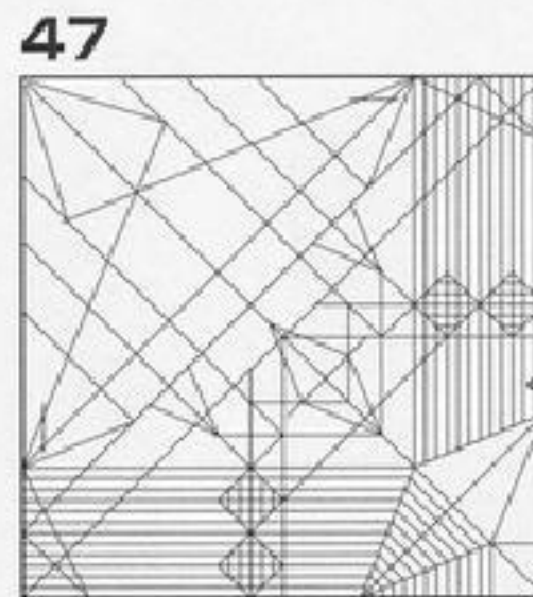
33 でつけた折りすじで折る



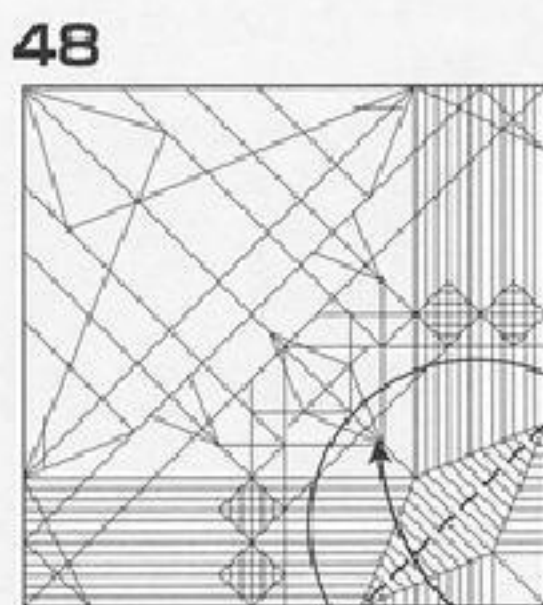
先につけた
12 等分の
折りすじを使って
重ねた部分に
折りすじを
追加する



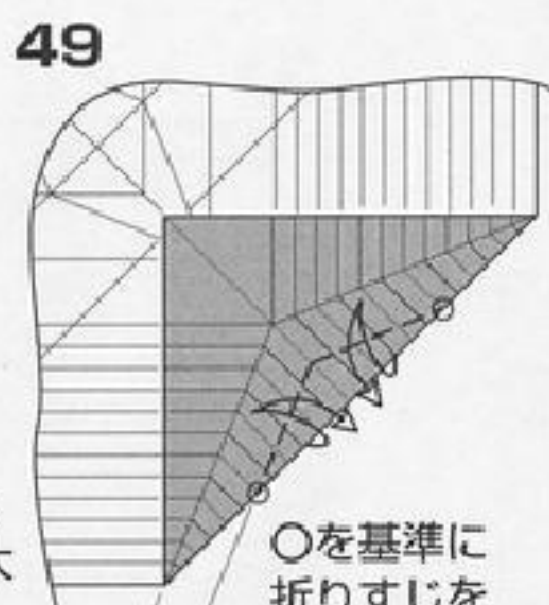
全部広げる



右側も
44 ~ 46 と
同じように折る



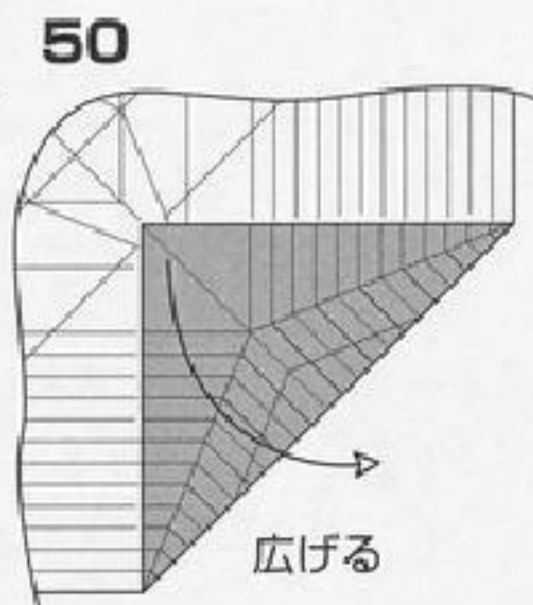
33 でつけた折りすじで折る



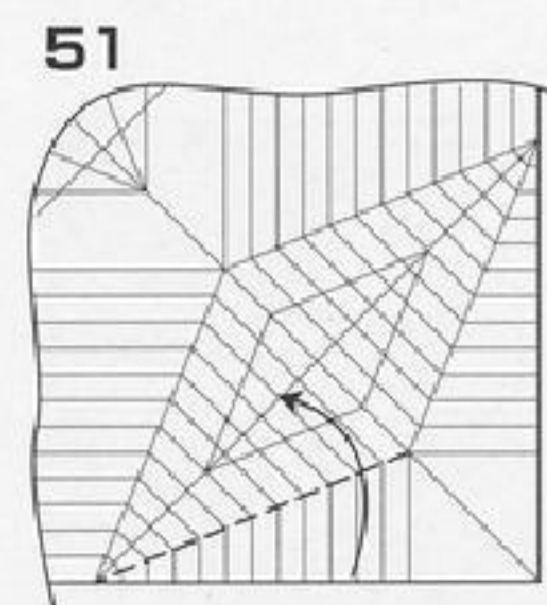
拡大

平行

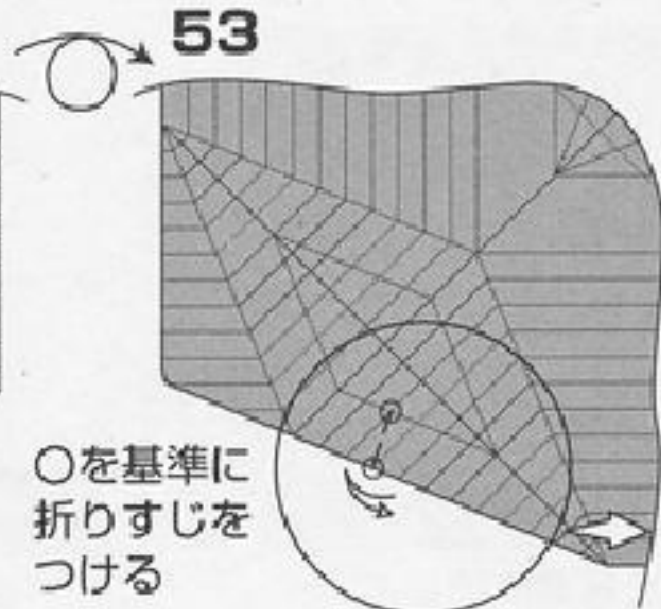
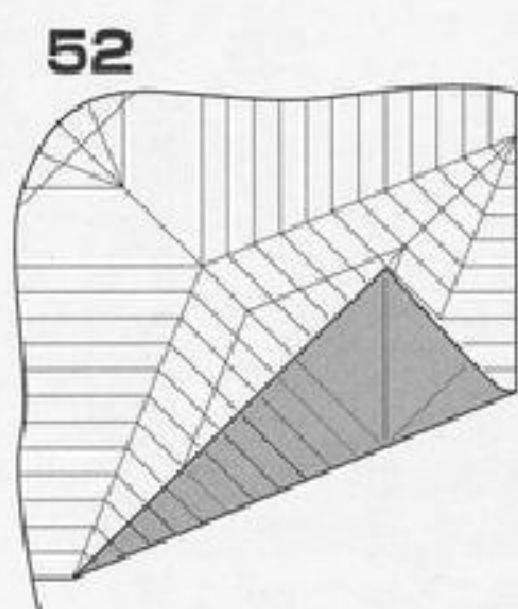
○を基準に
折りすじを
つける



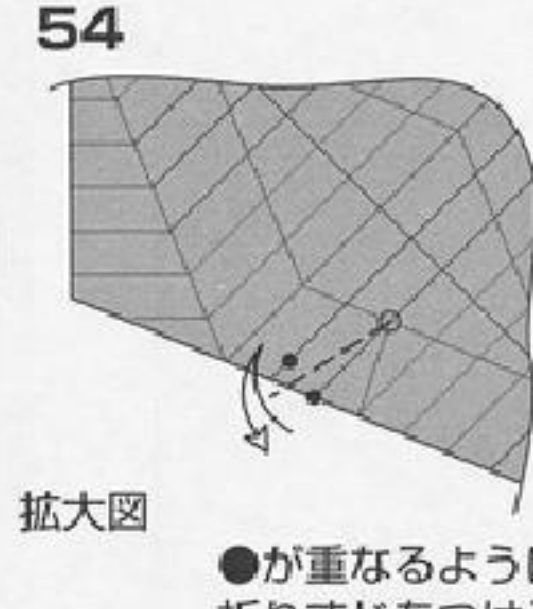
広げる



33 でつけた折りすじで折る

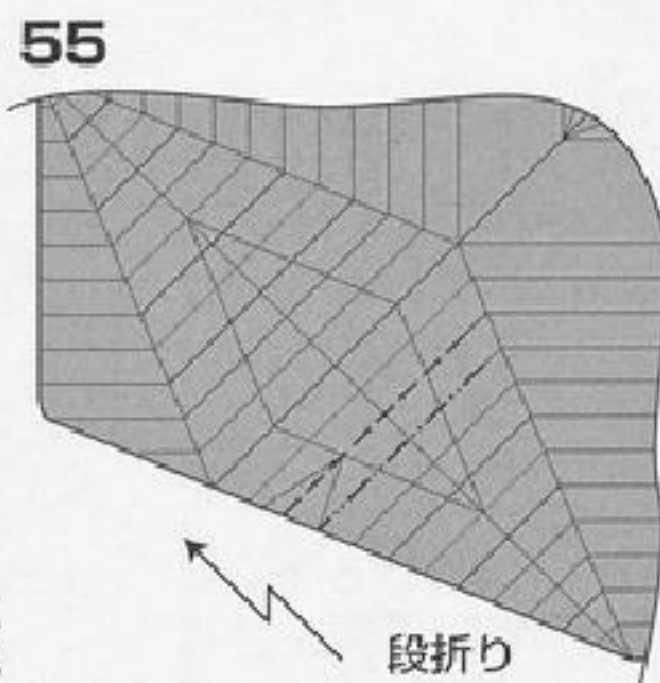


○を基準に
折りすじを
つける



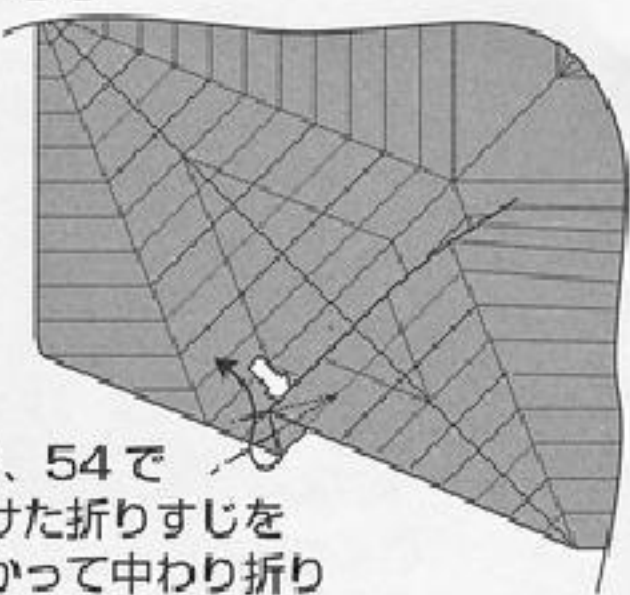
拡大図

●が重なるように
折りすじをつける



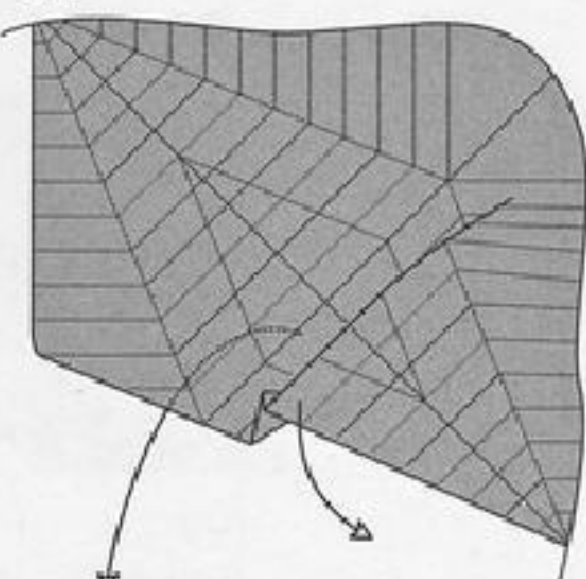
段折り

56



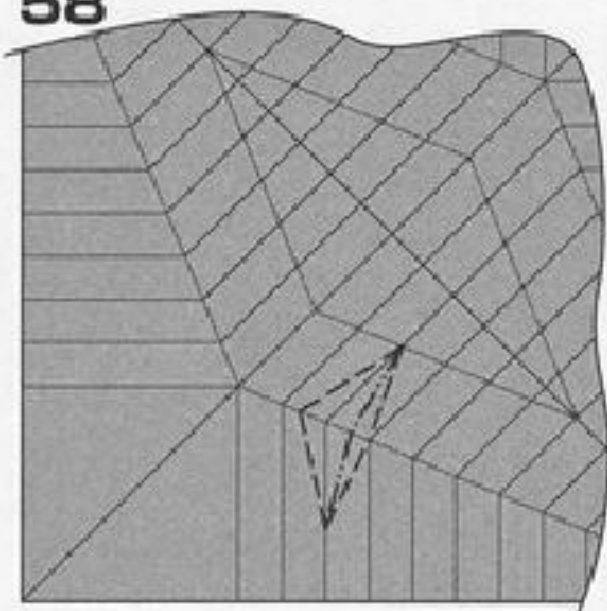
53、54で
つけた折りすじを
つかって中わり折り

57



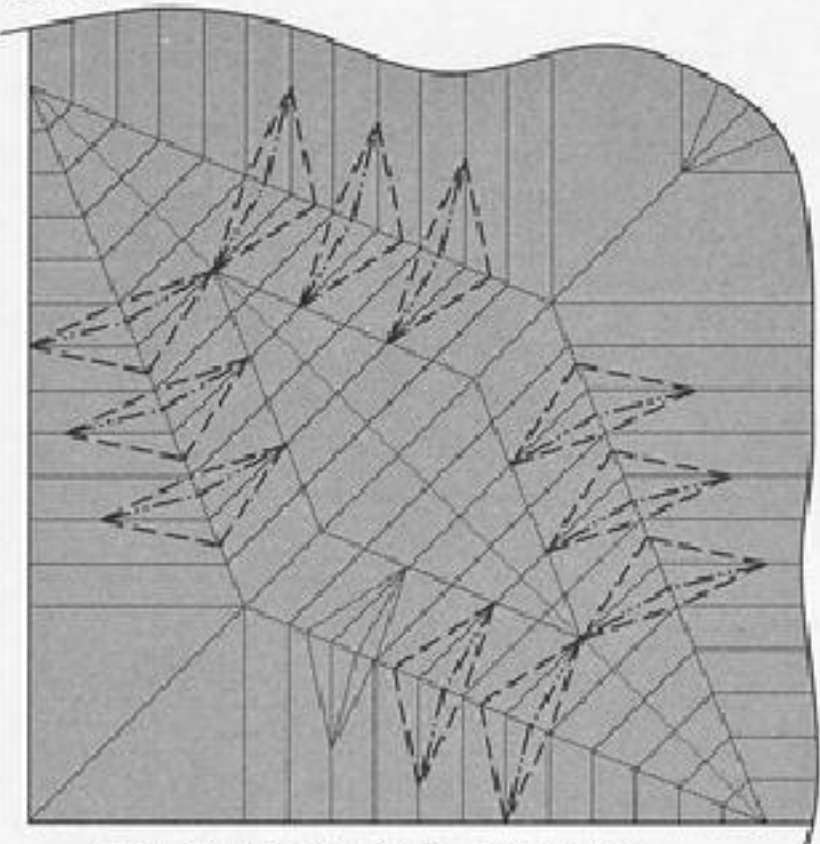
全部広げる

58



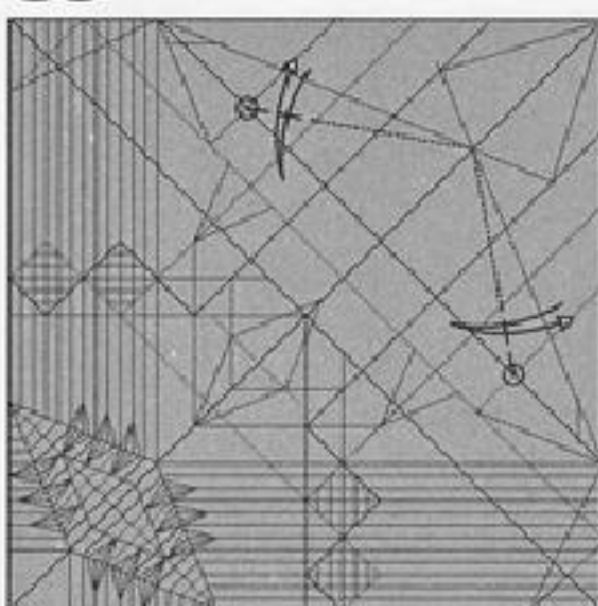
折りすじをつけなおす

59



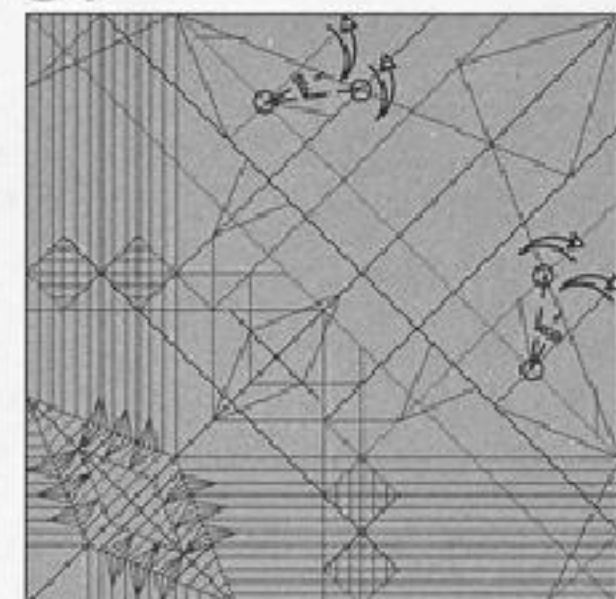
同じ手順で全部で 12 か所
折りすじをつける

60



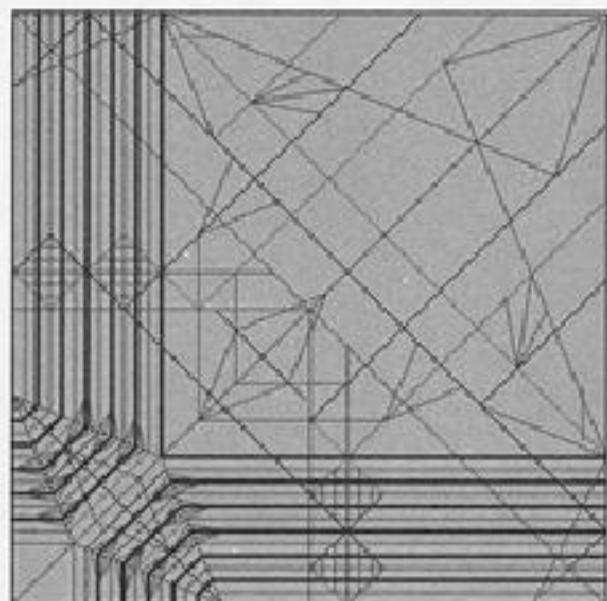
○を基準に折りすじをつける

61



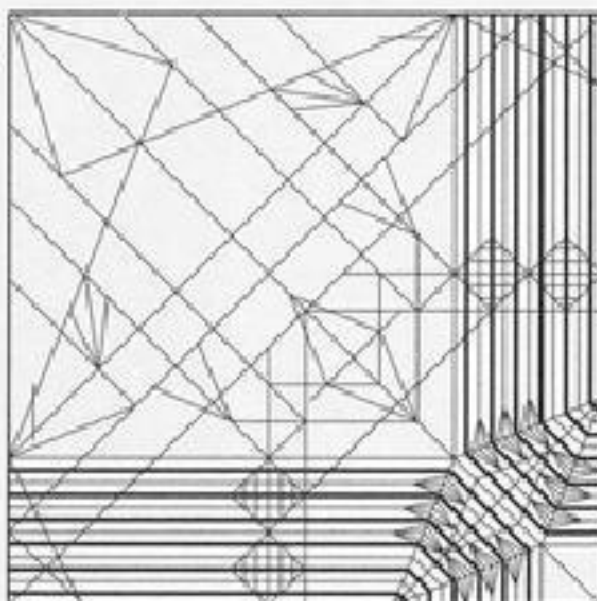
○を結んで折りすじをつけ
さらに半分の角度の
折りすじをつける

62



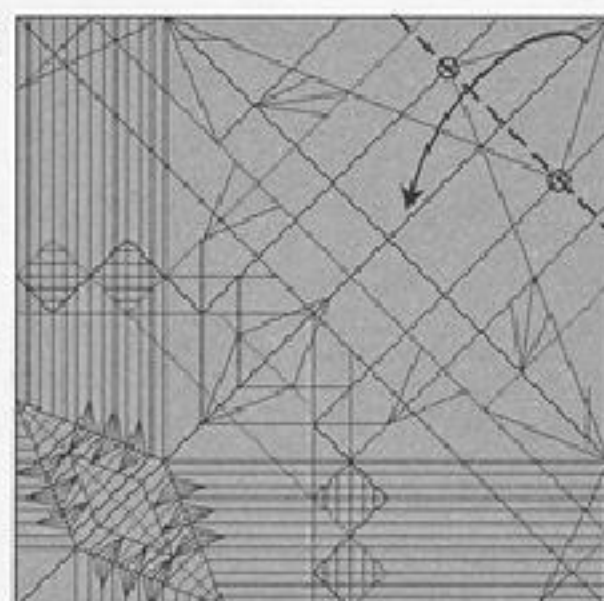
太線部を谷に折りなおす

63



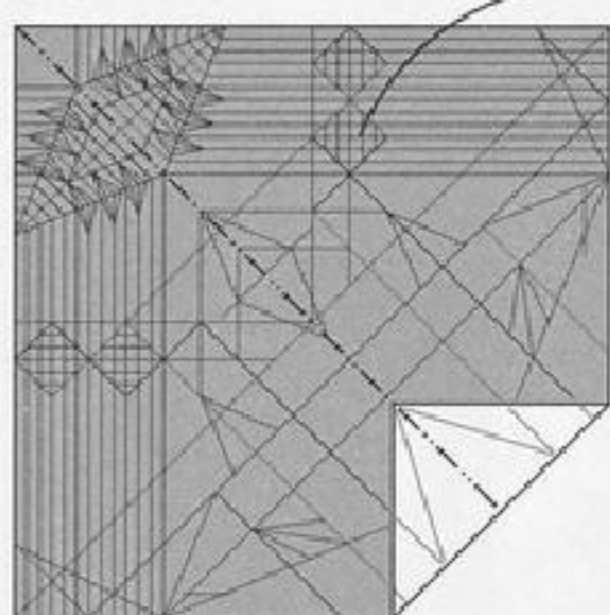
太線部を谷に折りなおす

64



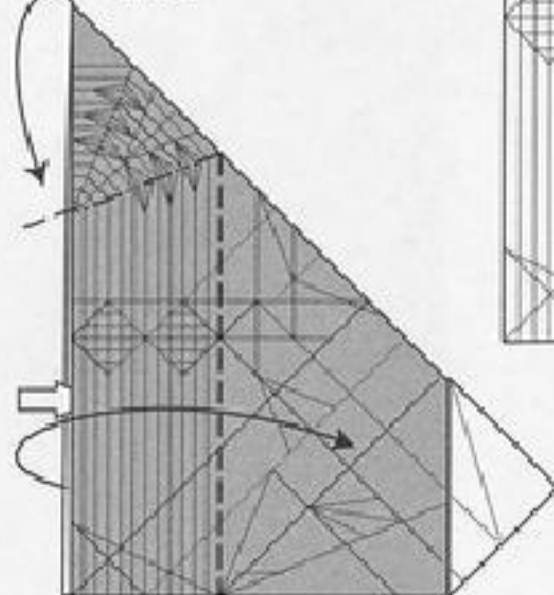
○を基準に折る

65



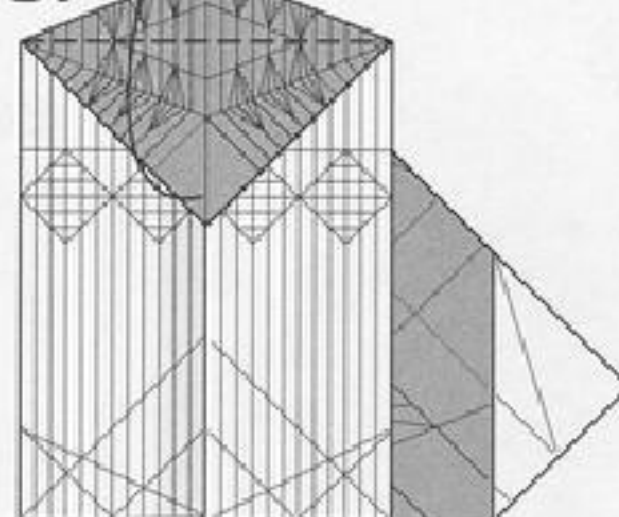
向こう側に折る

66



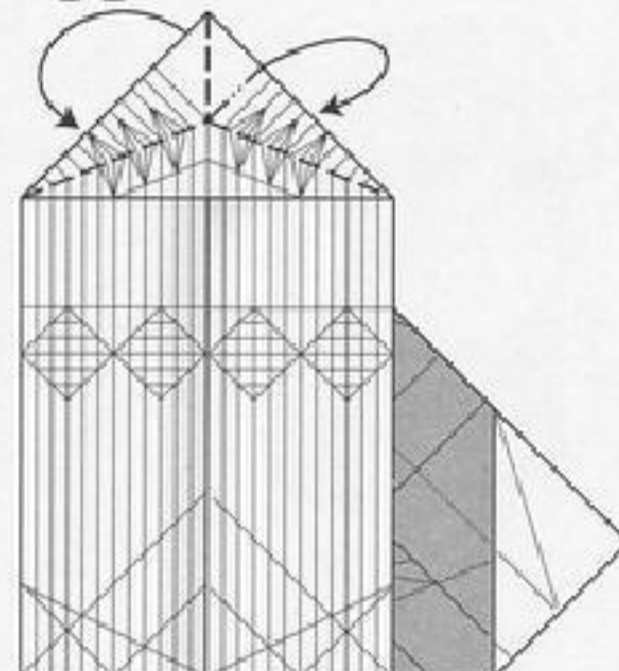
広げてつぶすように折る

67



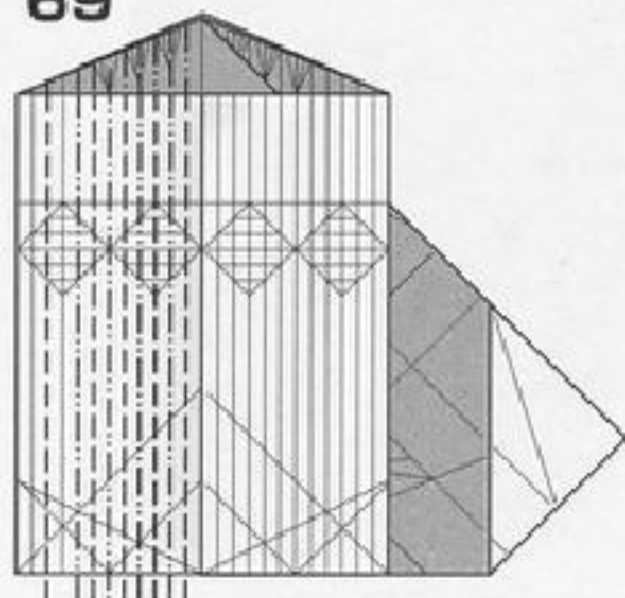
折りかえす

68



カドをつまむように折る

69



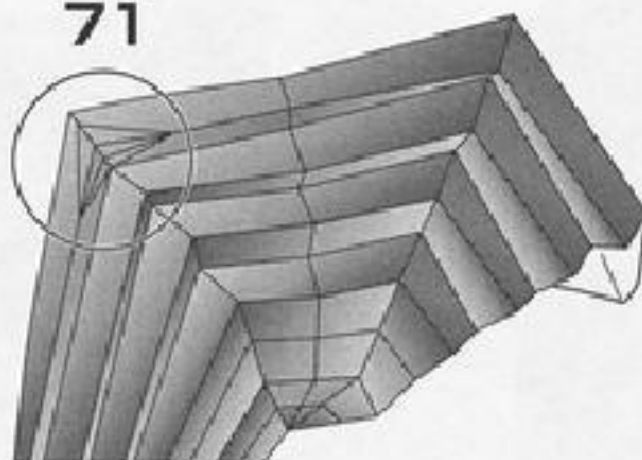
ついている折りすじを使って
連続的に段折りにまとめる

70



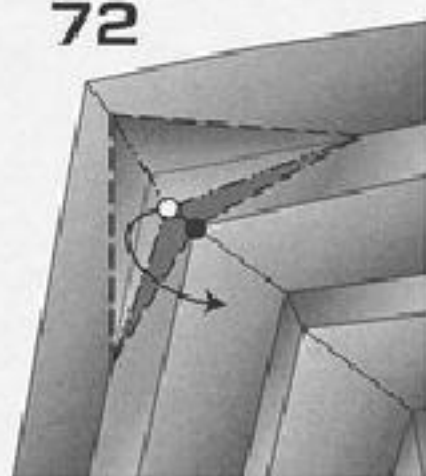
上部の途中図

71



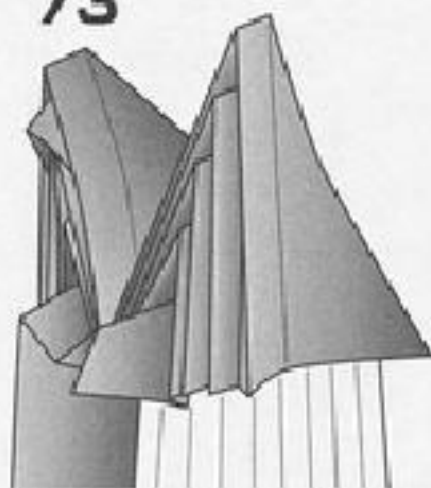
段の奥についている
折りすじに注目

72



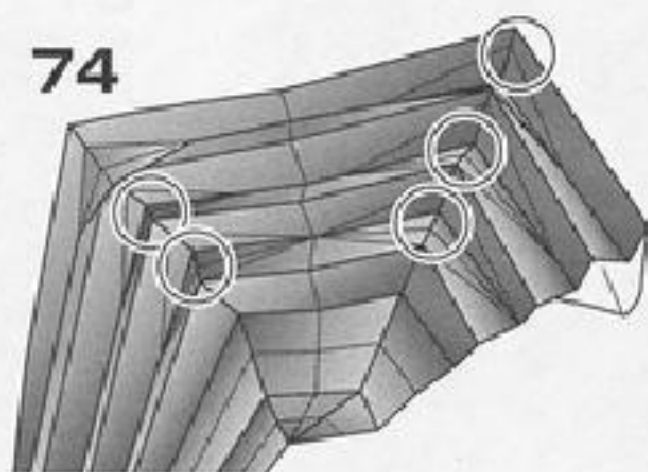
○部を手前に引き出し
●部はその奥に押し込む
ようにまとめる

73



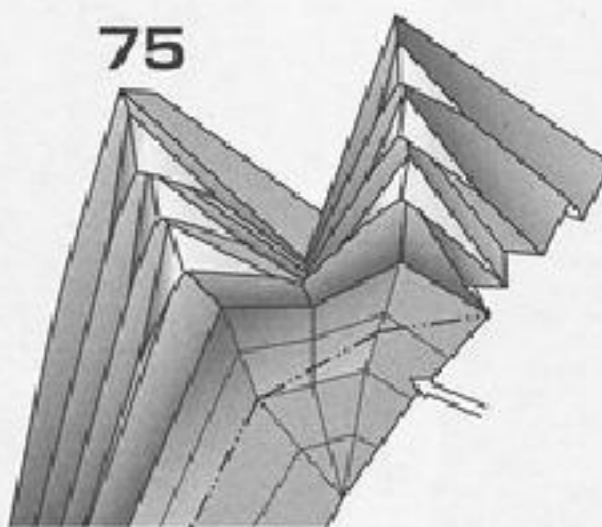
閉じた形

74



他の5か所も
同じように折る

75



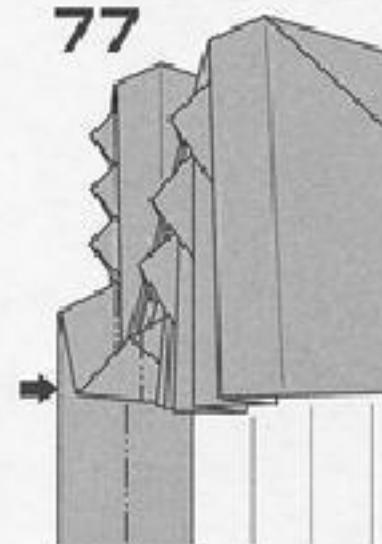
新たな折りすじで
折りなおす

76



途中図

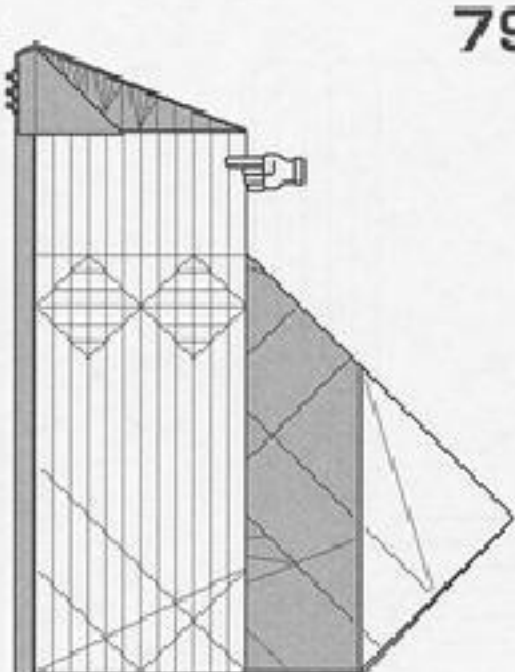
77



沈め折り (Open Sink)

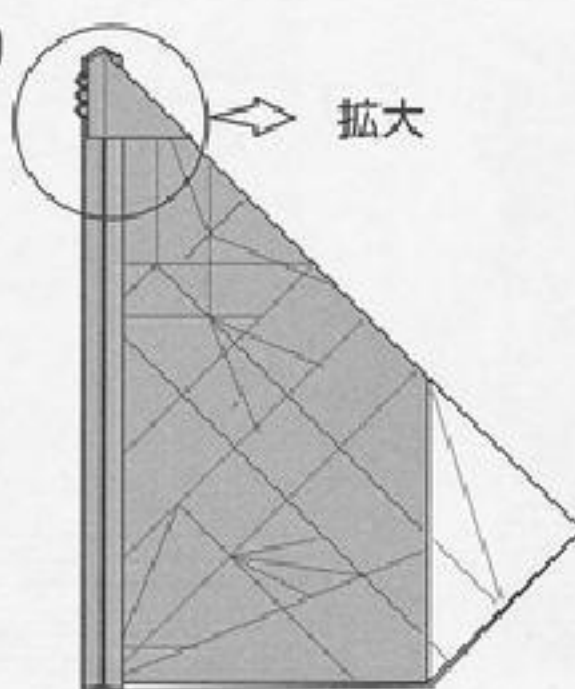
全体図

78



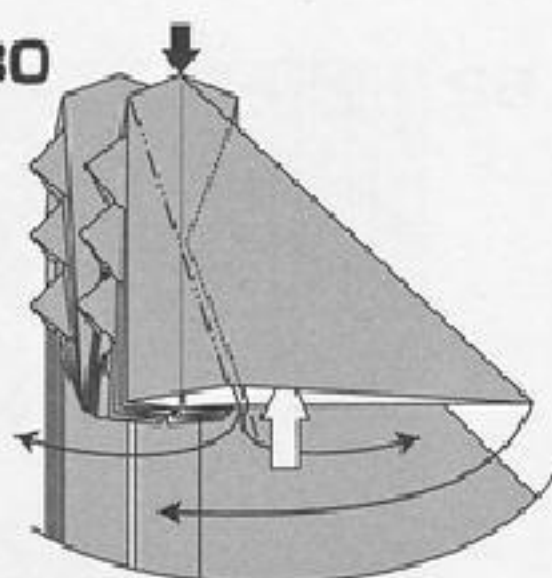
右側も 69 ~ 77 と
同じように折る

79



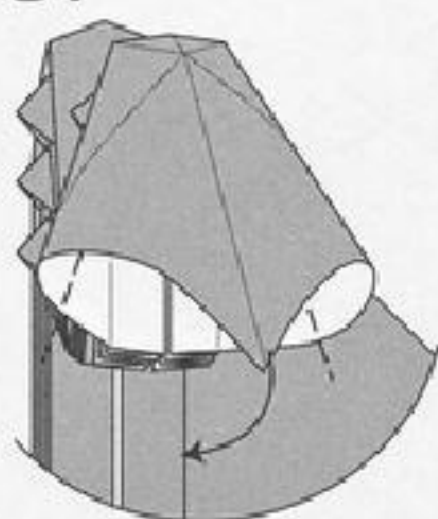
拡大

80



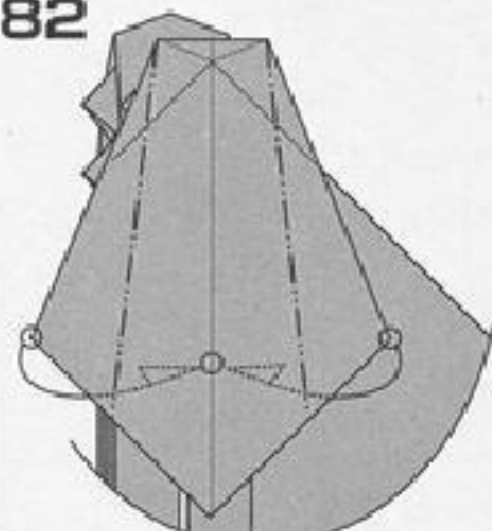
広げてつぶすように折る

81



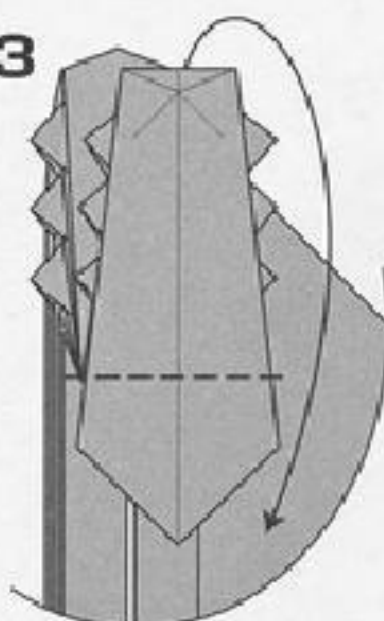
途中図

82



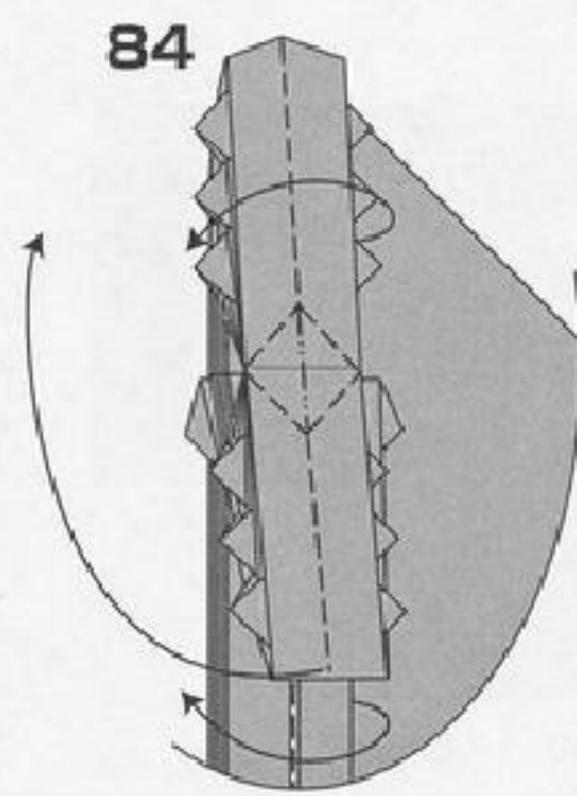
カドを中心線に
あわせて内側に折る

83



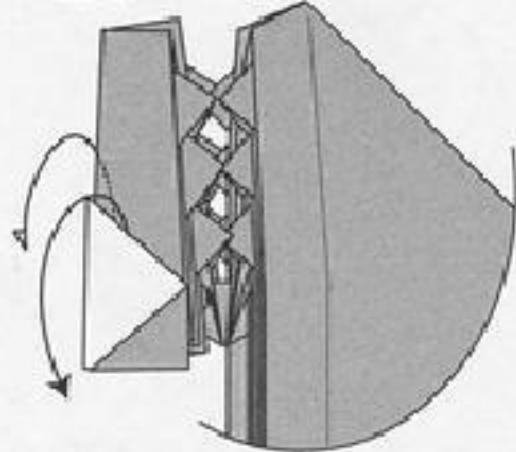
折りかえす

84



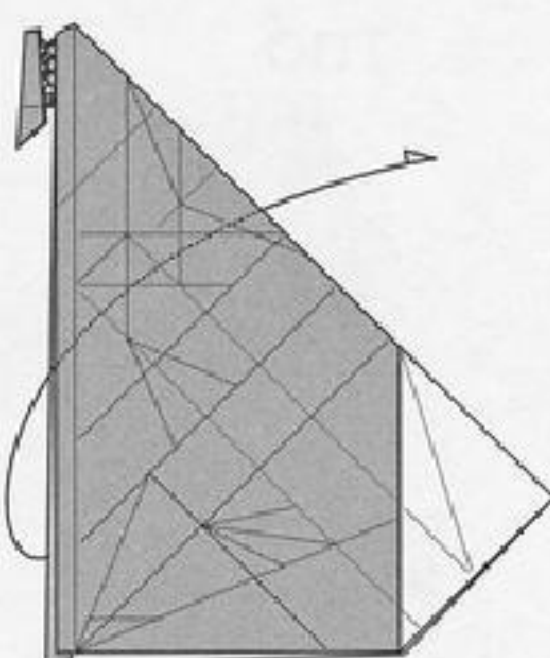
下のカドを
上におこすように折る

85



折りかえす

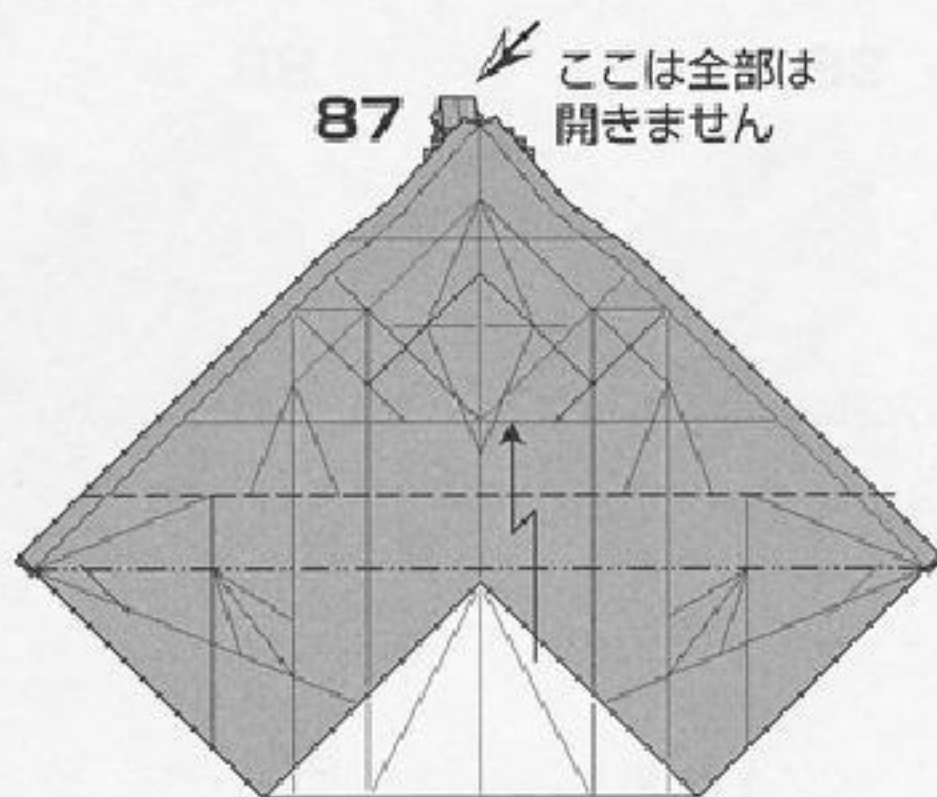
86



広げる

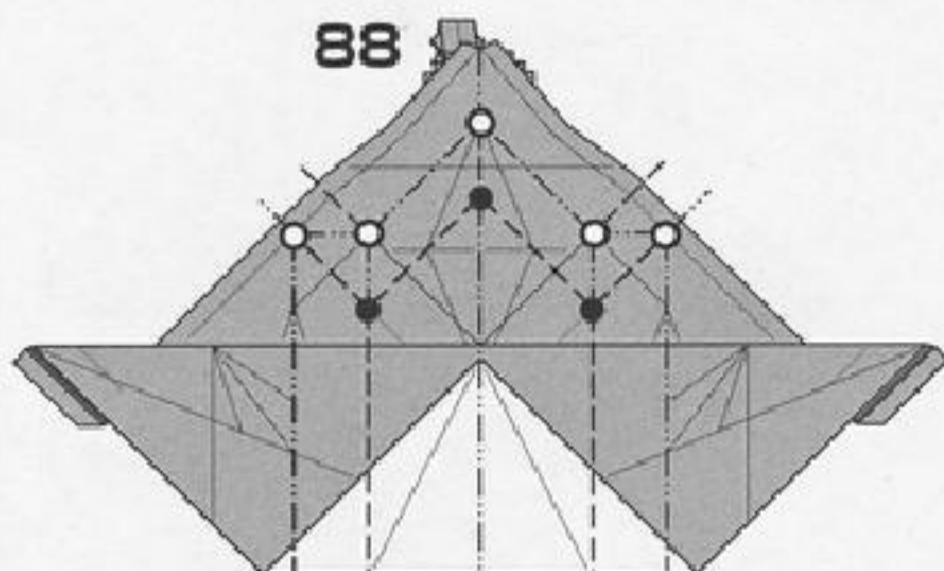
全体図

87

ここは全部は
開きません

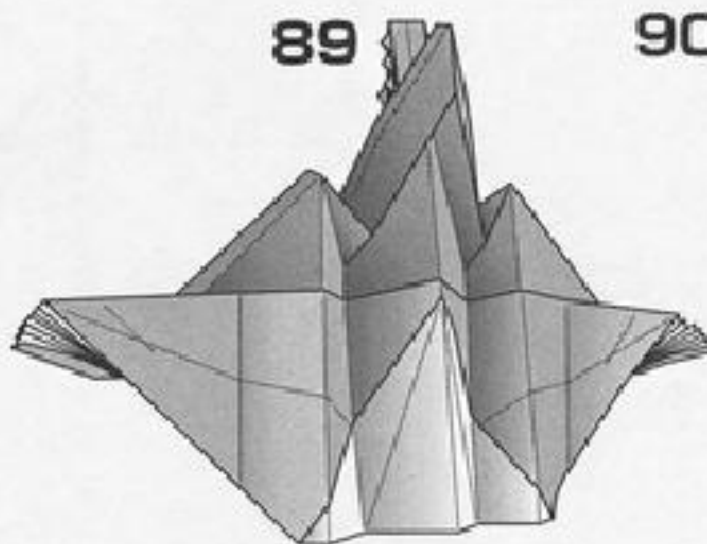
ついている折りすじで段折り

88



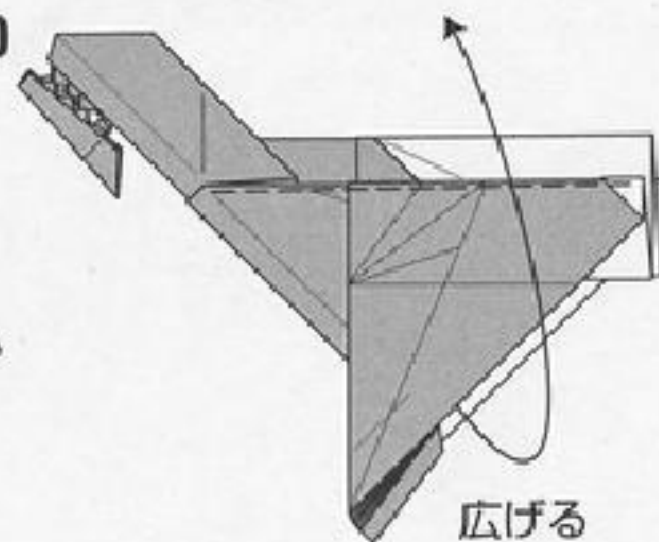
ついている折りすじで全体を
一気にまとめる
○は凸部、●は凹部を表す

89



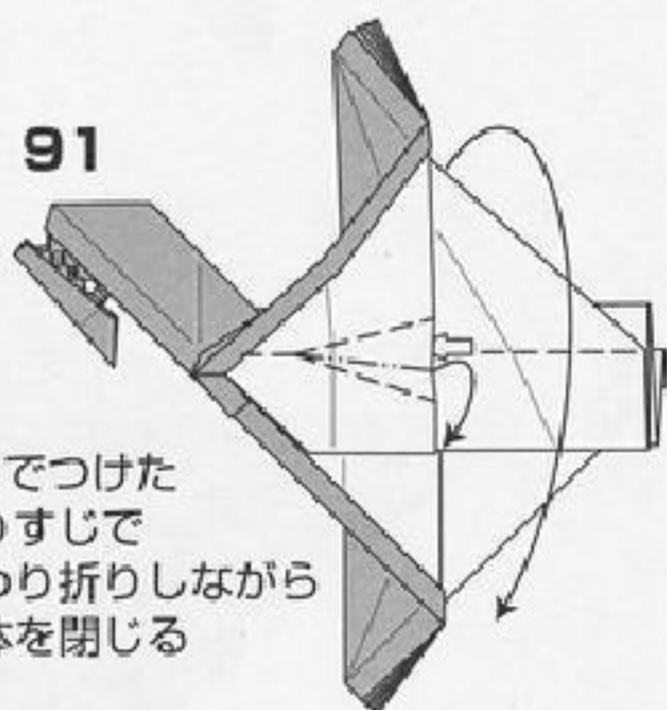
途中図

90



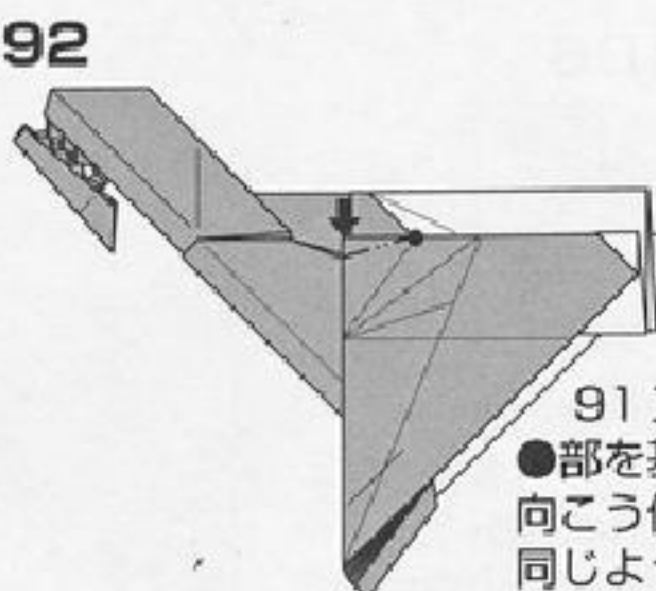
広げる

91



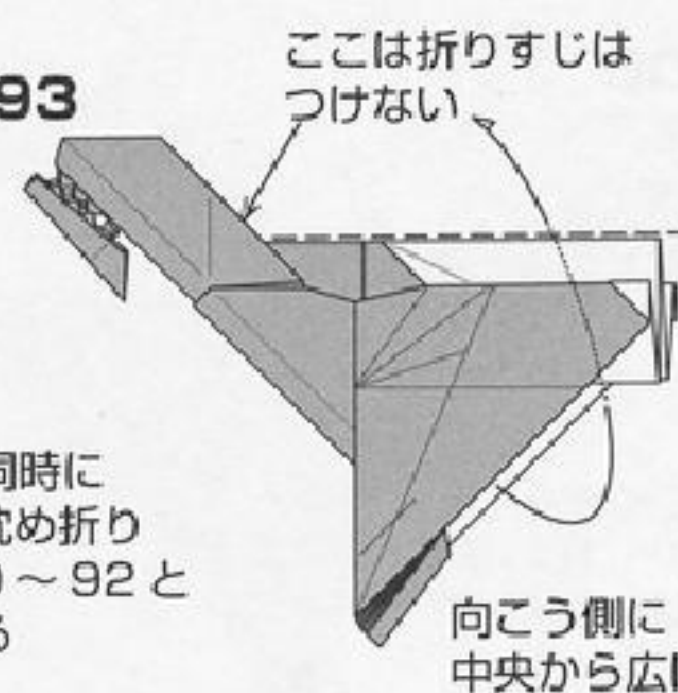
41 でつけた
折りすじで
中わり折りしながら
全体を閉じる

92

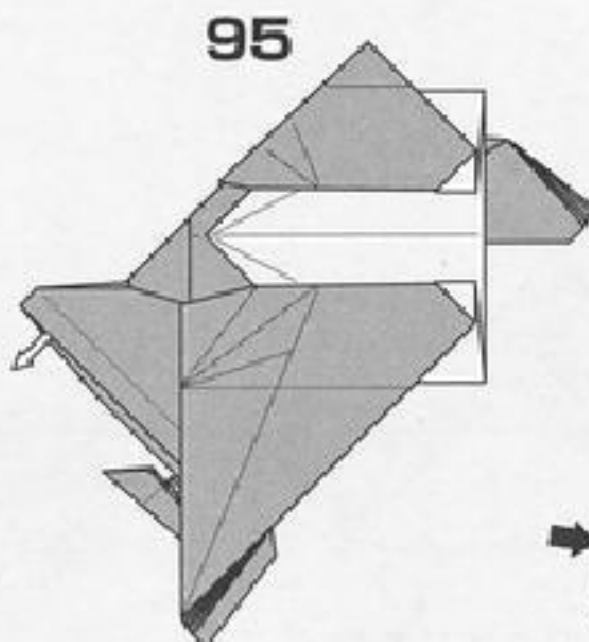


91 工程と同時に
●部を基準に沈め折り
向こう側も 90 ~ 92 と
同じように折る

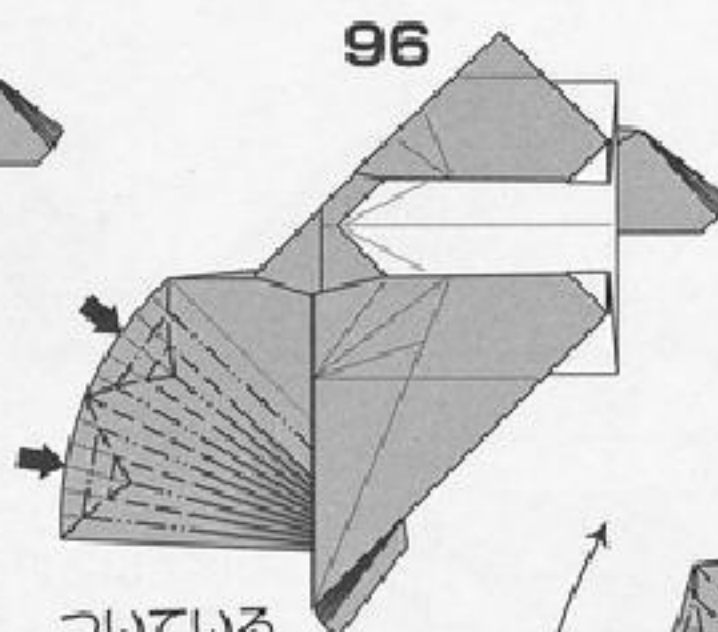
93

ここは折りすじは
つけない向こう側に
中央から広げる

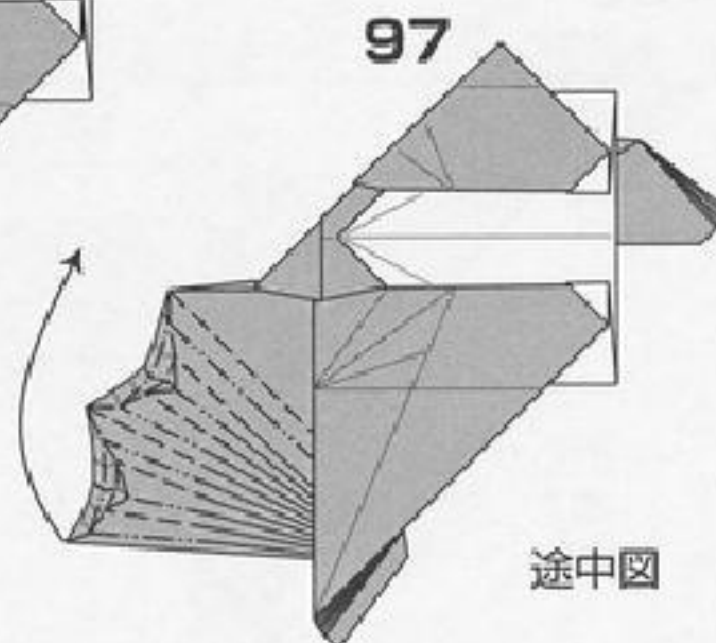
95

ジャバラの
部分を広げる

96

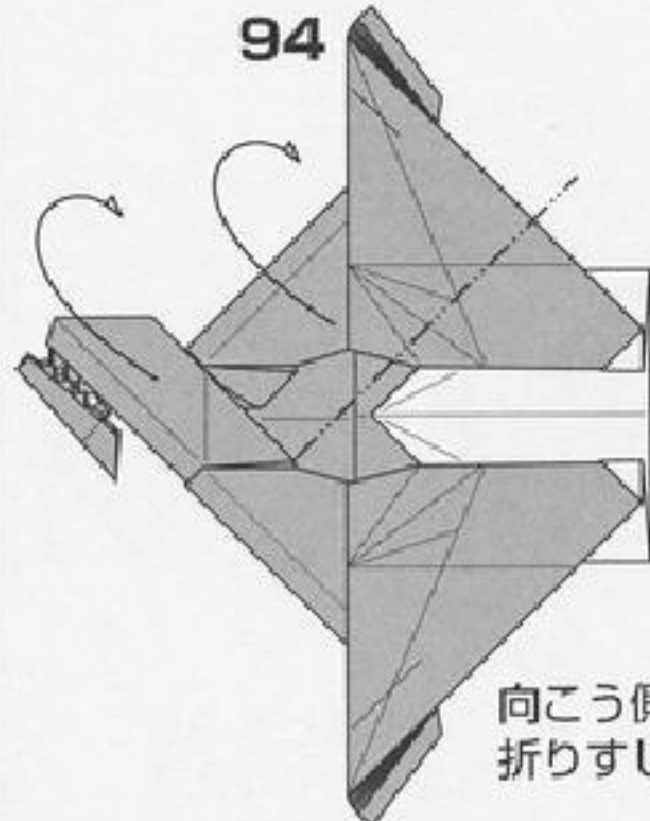
ついている
折りすじでまとめる

97



途中図

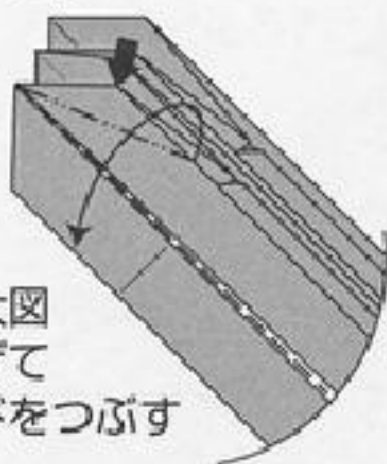
94



向こう側にたおす
折りすじはつけない

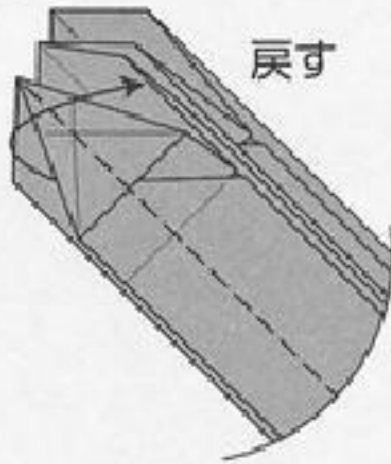
98

拡大図
広げて
カドをつぶす



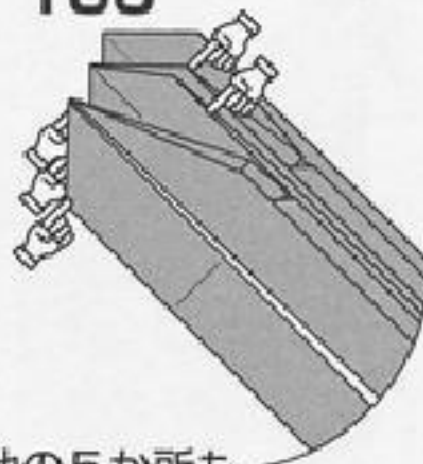
99

戻す



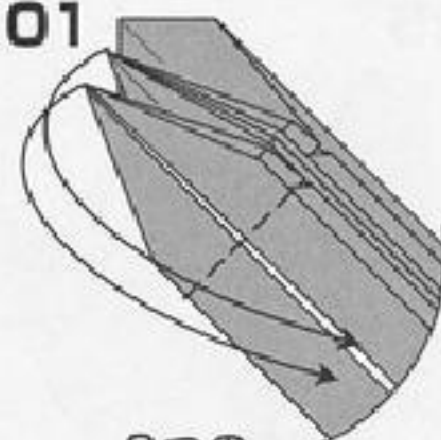
100

他の5か所も
同じように折る



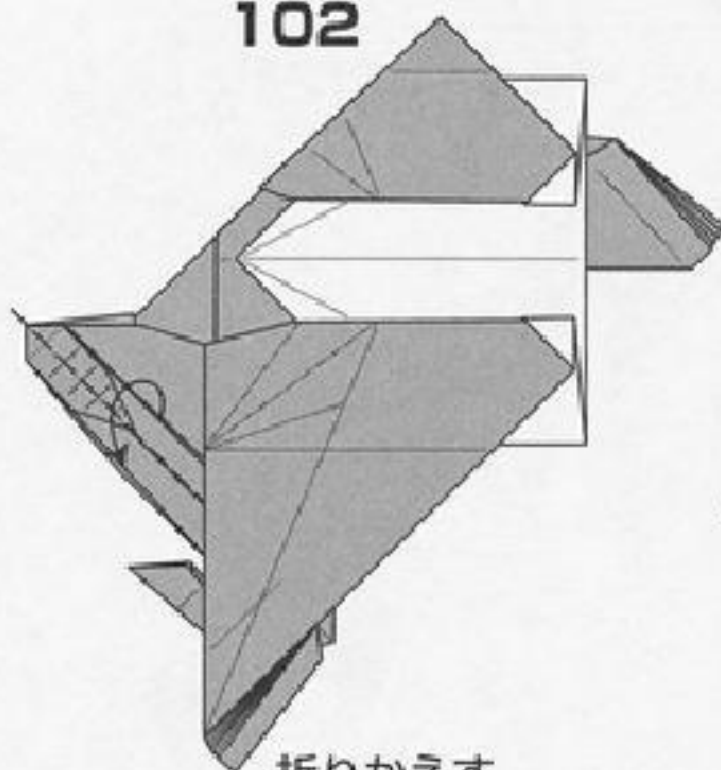
101

2つの
カドを折りかえす



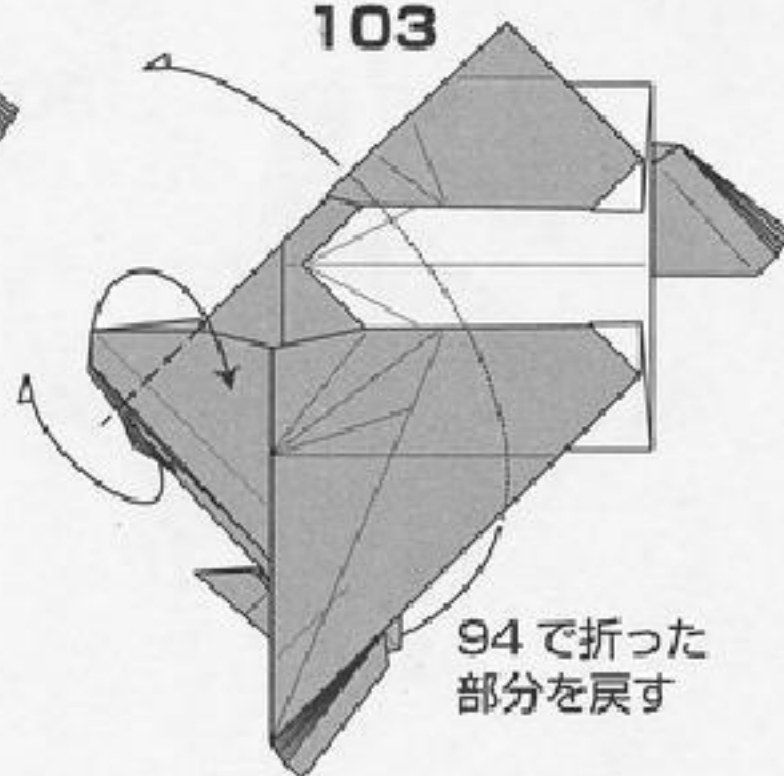
102

折りかえす



103

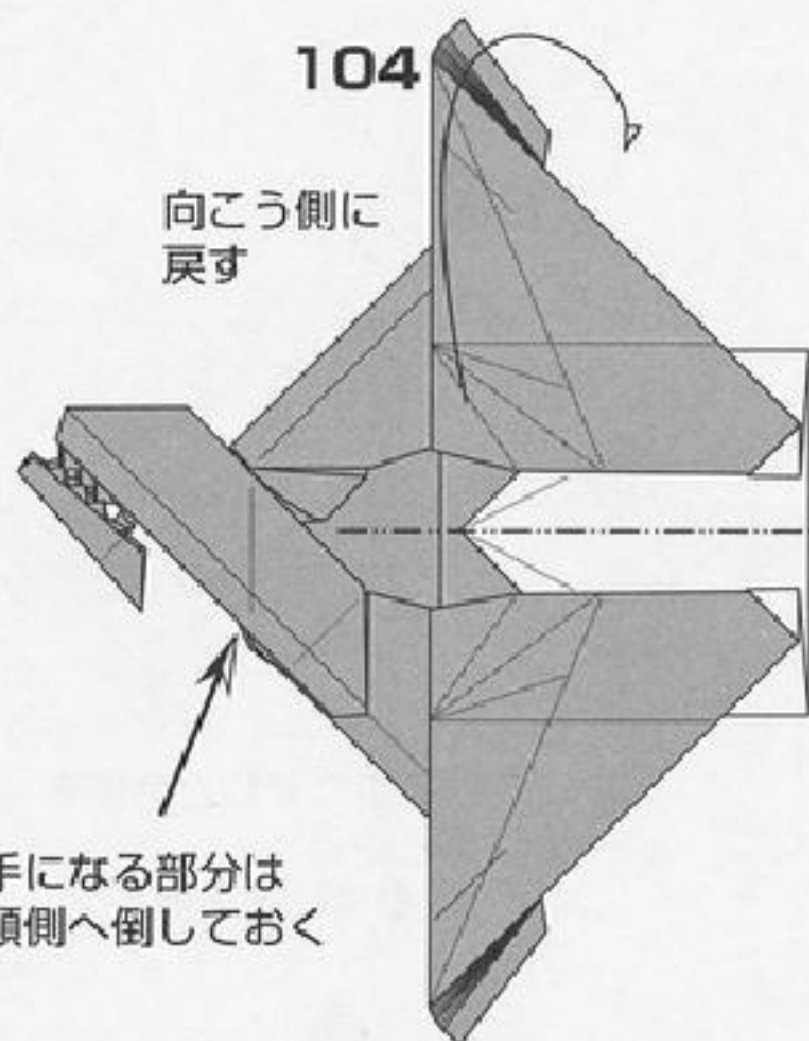
94 で折った
部分に戻す



104

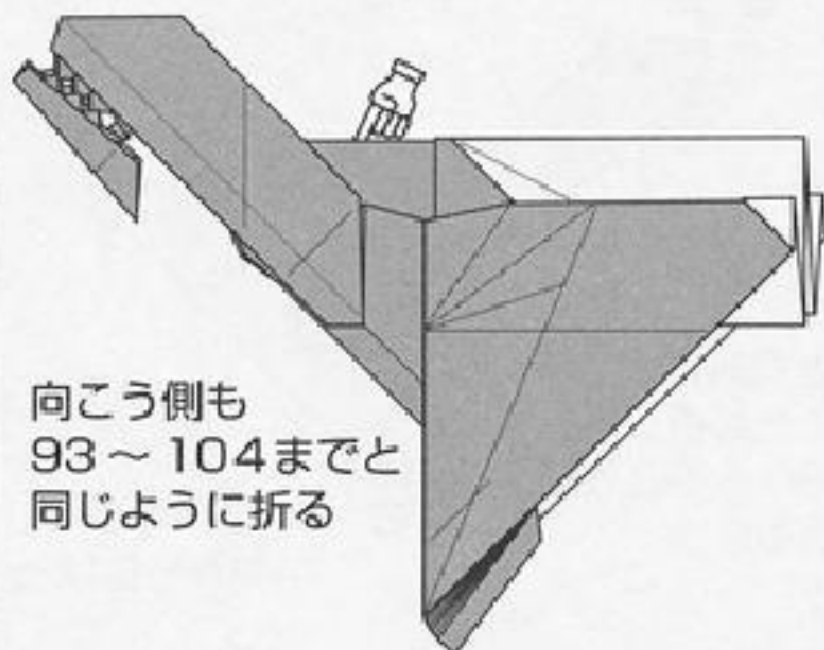
向こう側に
戻す

手になる部分は
頭側へ倒しておく



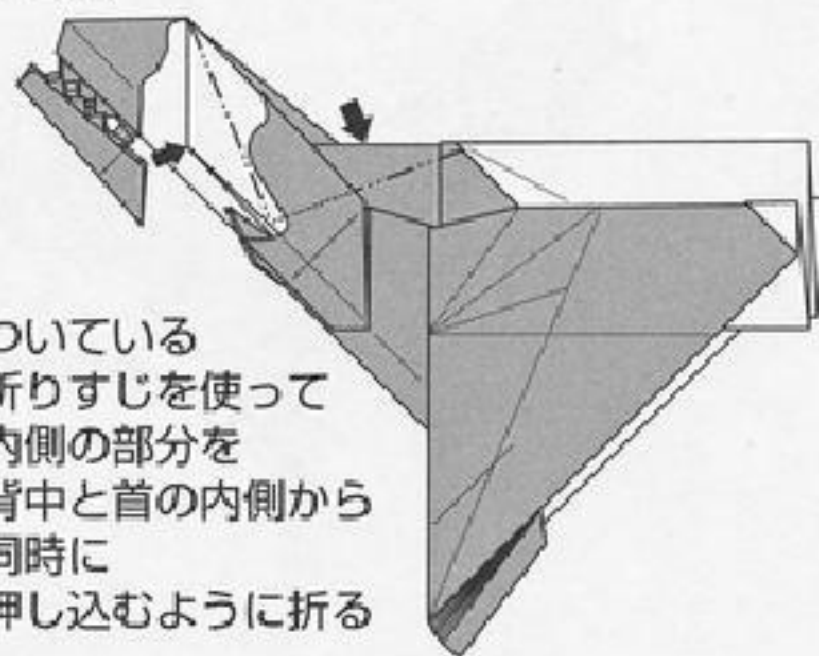
105

向こう側も
93 ~ 104 までと
同じように折る



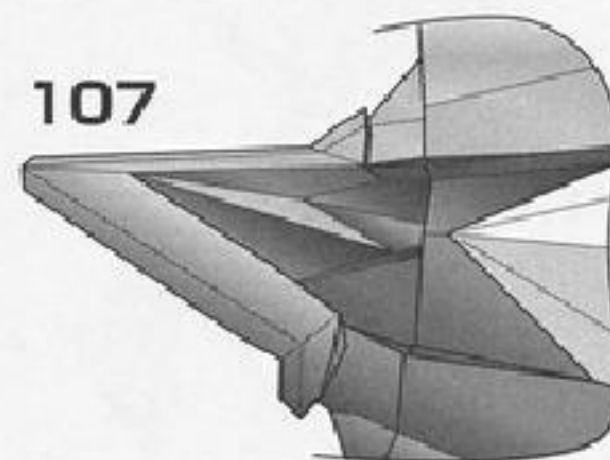
106

ついている
折りすじを使って
内側の部分を
背中と首の内側から
同時に
押し込むように折る



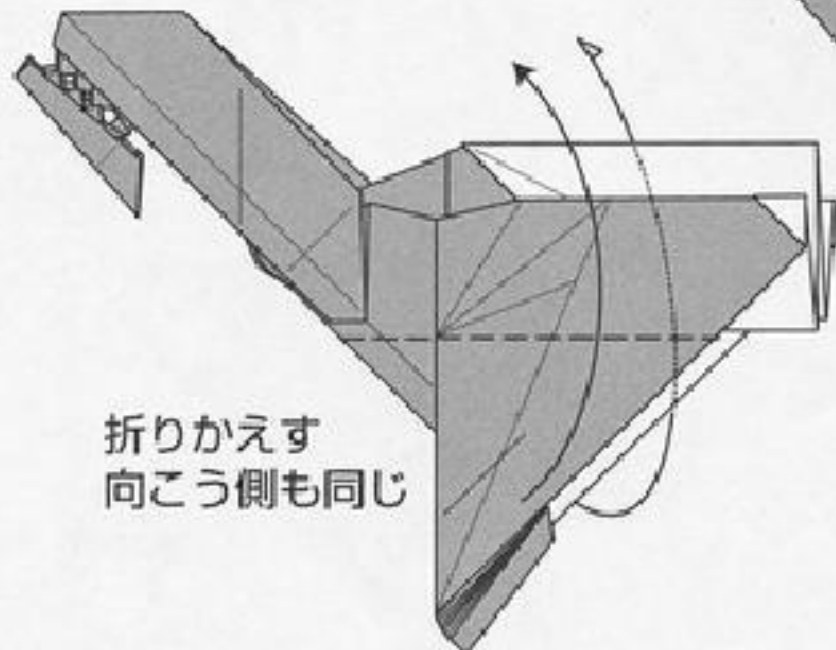
107

途中図
上から見た形



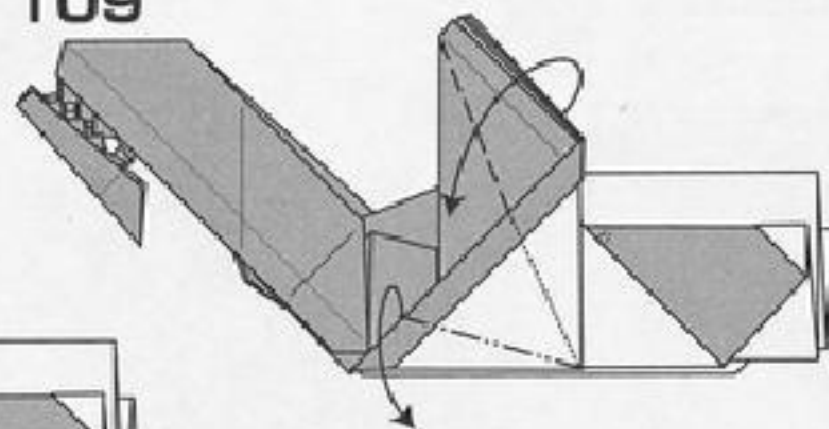
108

折りかえす
向こう側も同じ



109

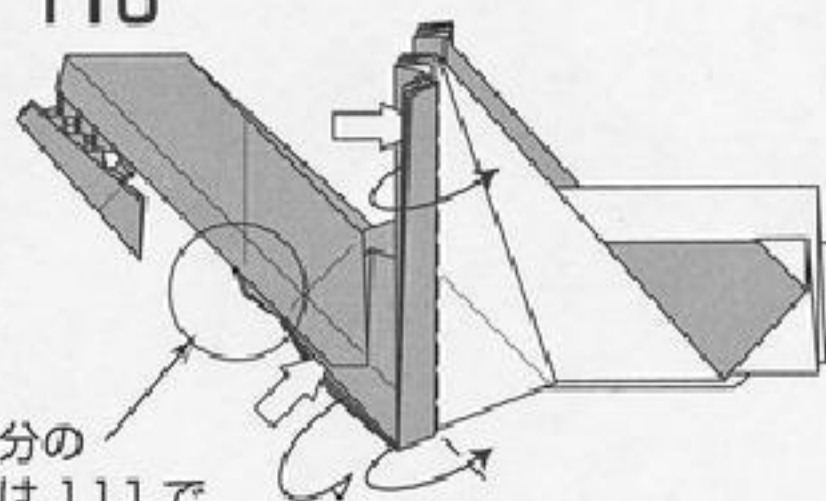
ついている折りすじを使って
引き寄せるように折る
向こう側も同じ

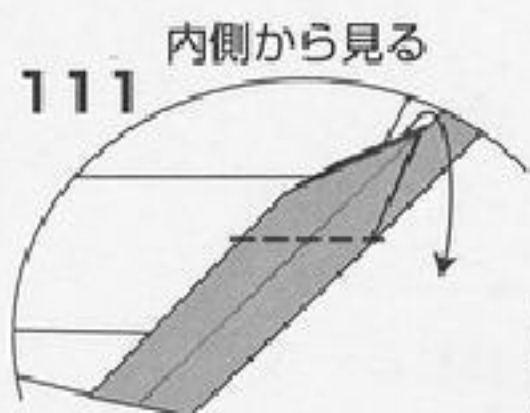


110

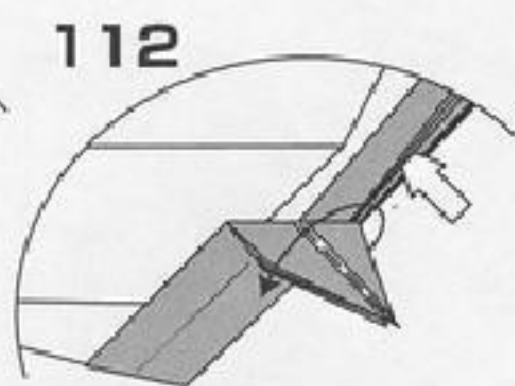
手の部分の
折り方は111で
示す

6枚あるヒダのうち、
3枚を折りかえす
向こう側も同じ

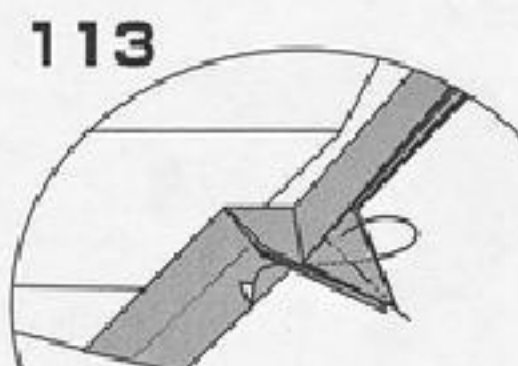




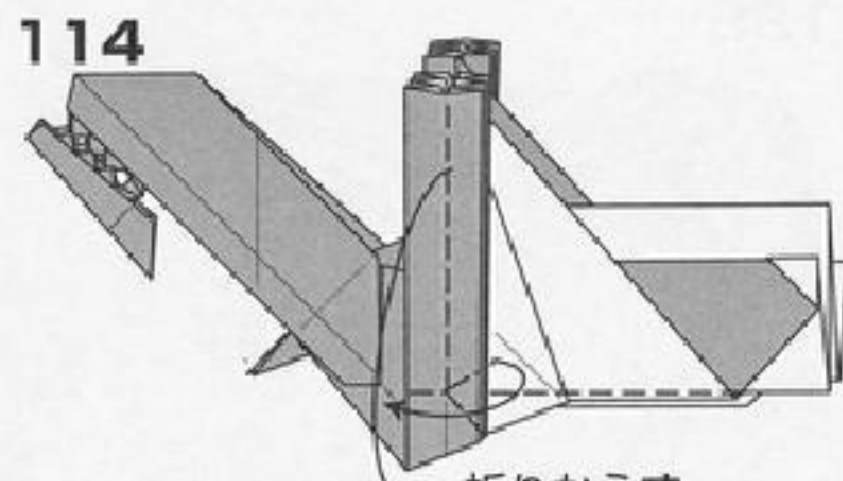
いっばいに折りかえす



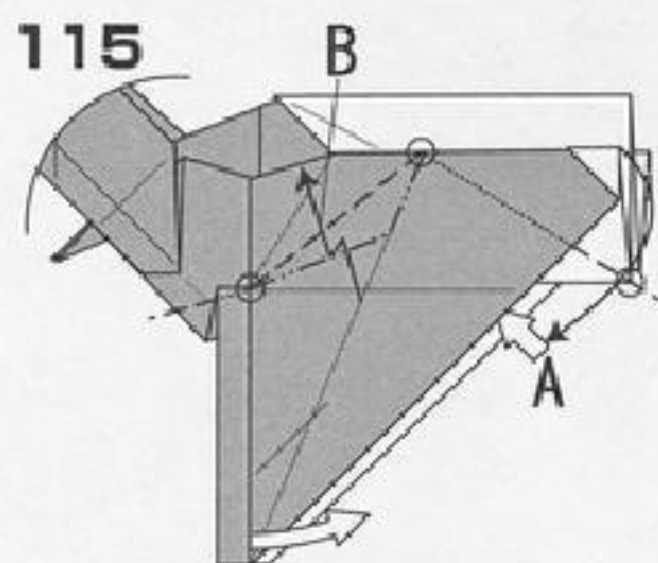
3枚を手前に引き出す



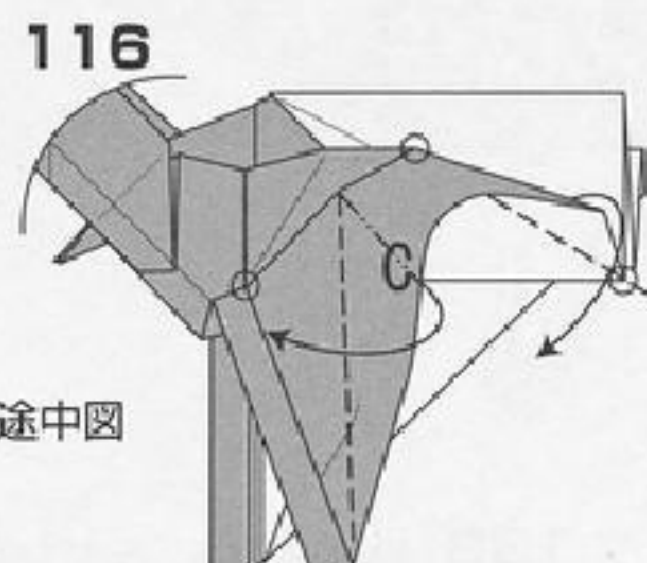
向こう側に折りかえす
両腕とも 111~113 と
同じように折る



折りかえす
向こう側も同じ

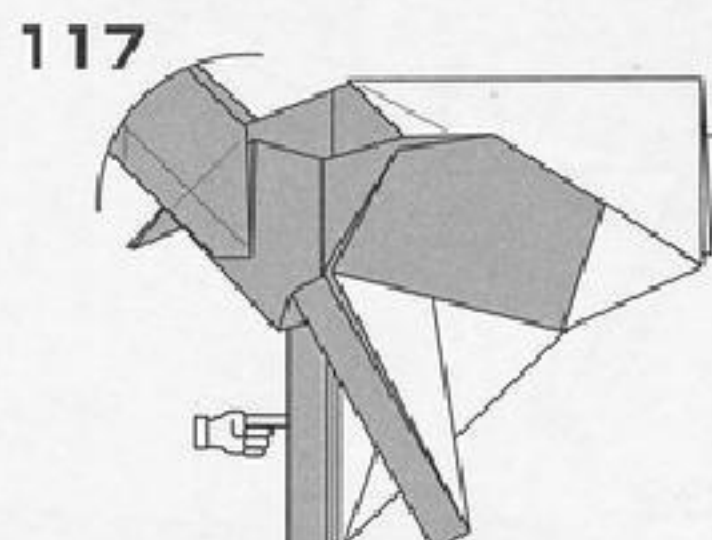


A を折ると同時に
ついている折りすじで
B の段折りを行う

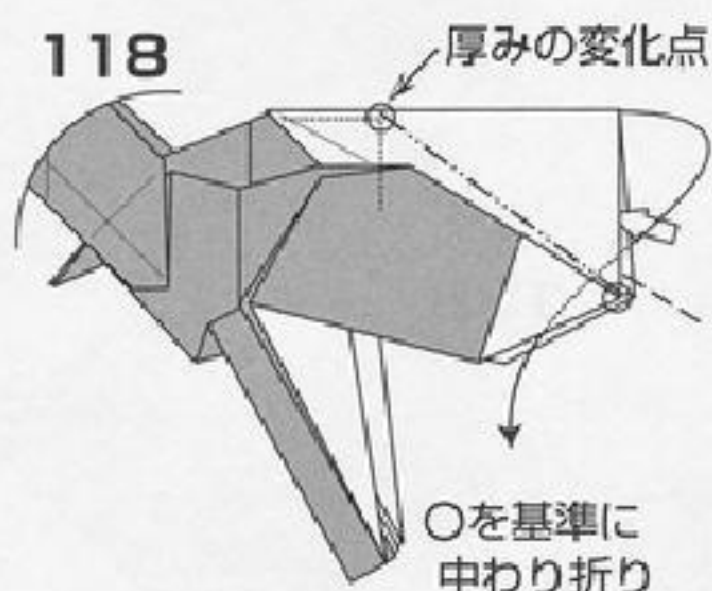


途中図

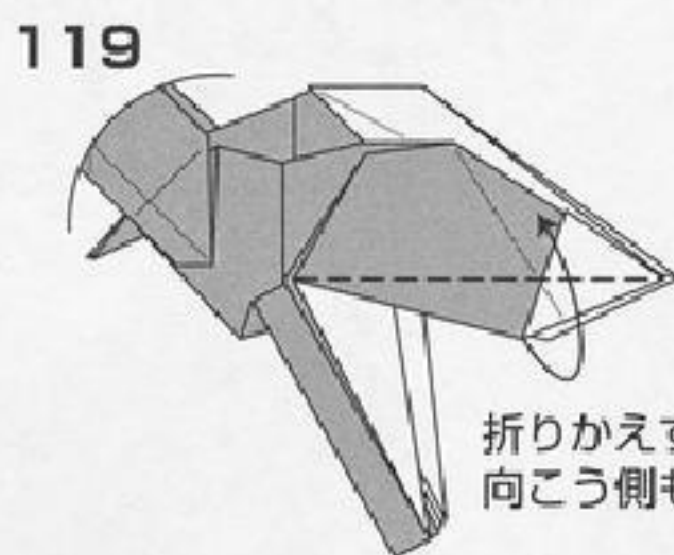
手前に飛び出る C 部を
ついている折りすじで
左に折りかえす



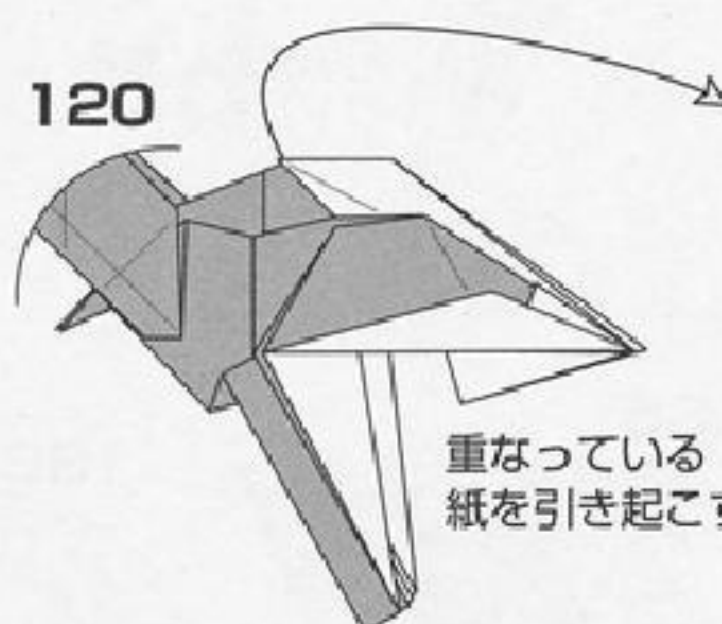
右側も 115~116 までと
同じように折る



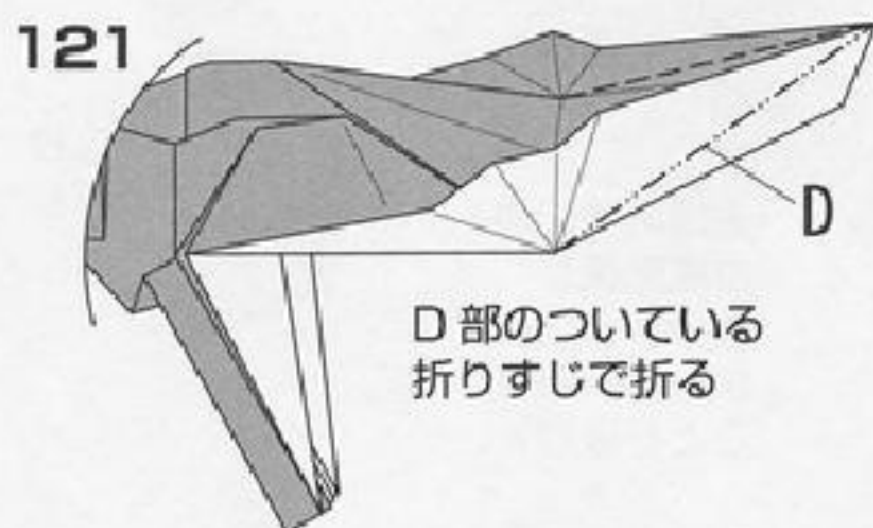
厚みの変化点
O を基準に
中わり折り



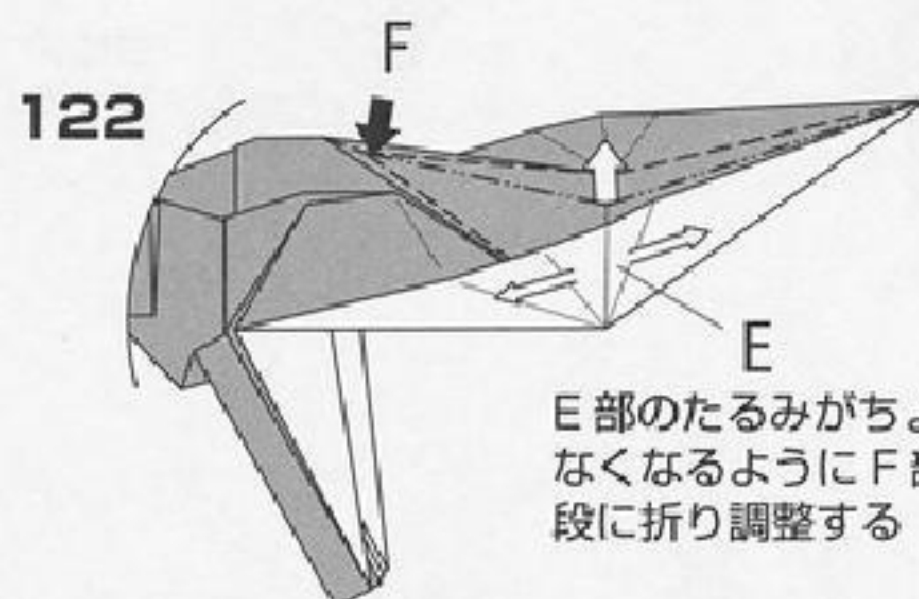
折りかえす
向こう側も同じ



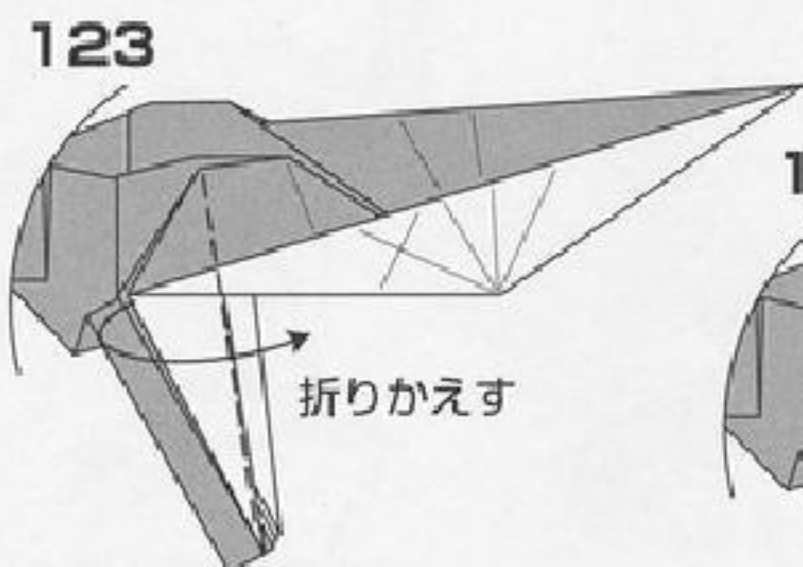
重なっている
紙を引き起こす



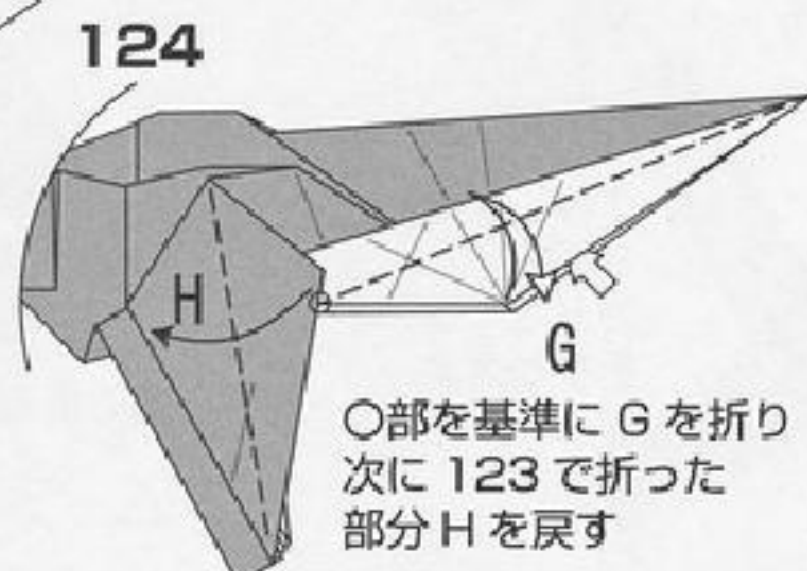
D 部のついている
折りすじで折る



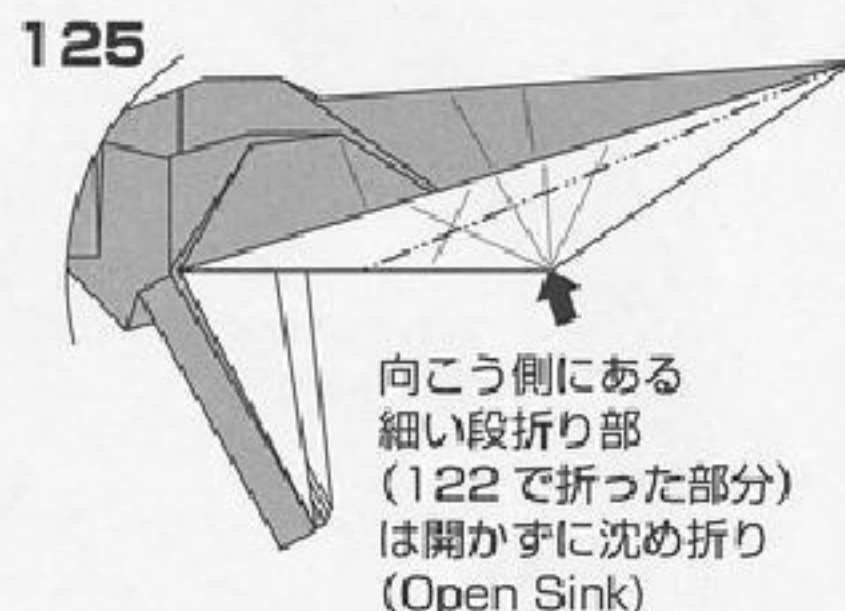
E 部のたるみがちょうど
なくなるように F 部を
段に折り調整する



折りかえす

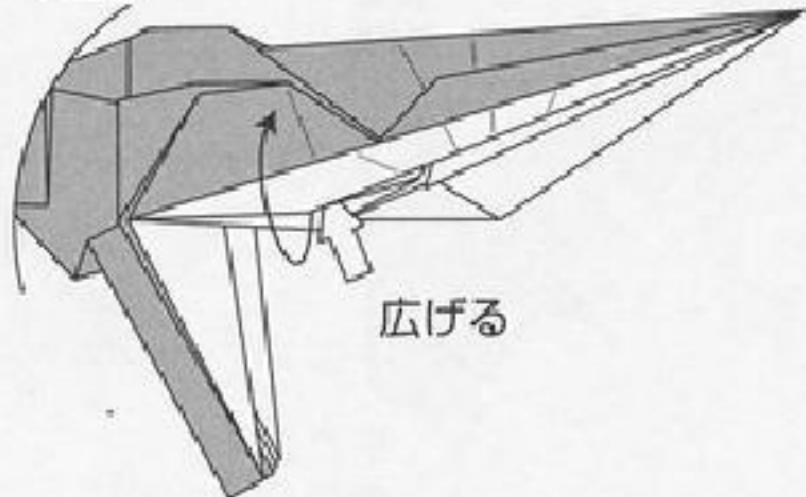


O 部を基準に G を折り
次に 123 で折った
部分 H を戻す



向こう側にある
細い段折り部
(122 で折った部分)
は開かずに沈め折り
(Open Sink)

126



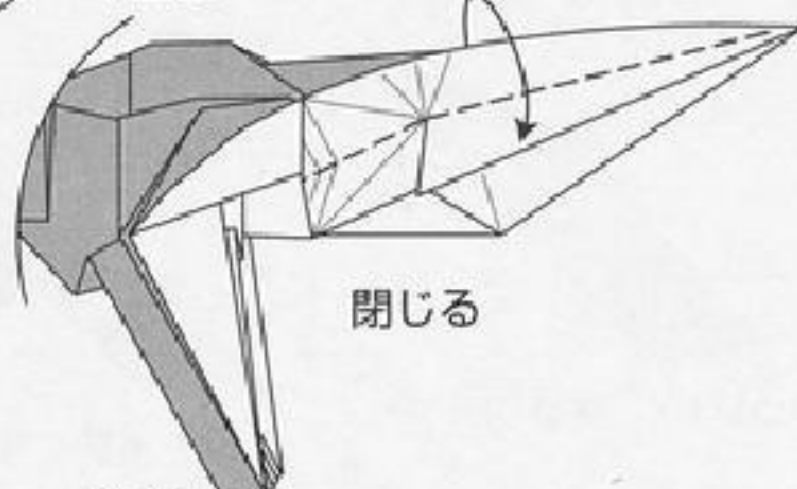
広げる

127



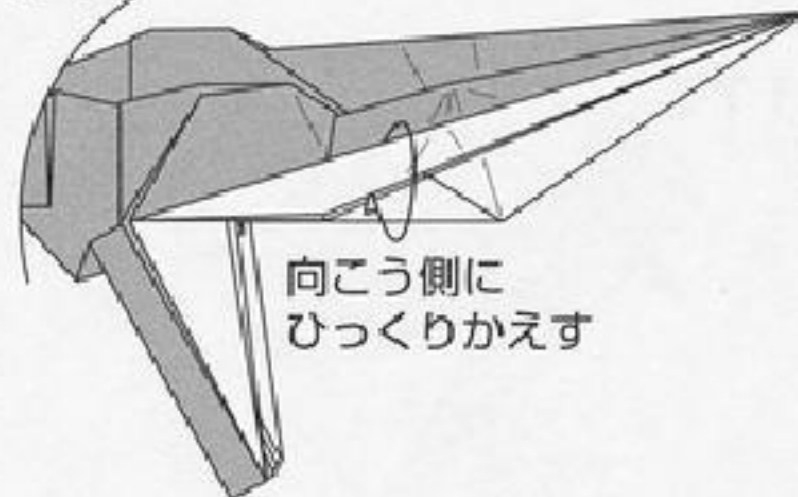
内側に押し込む

128

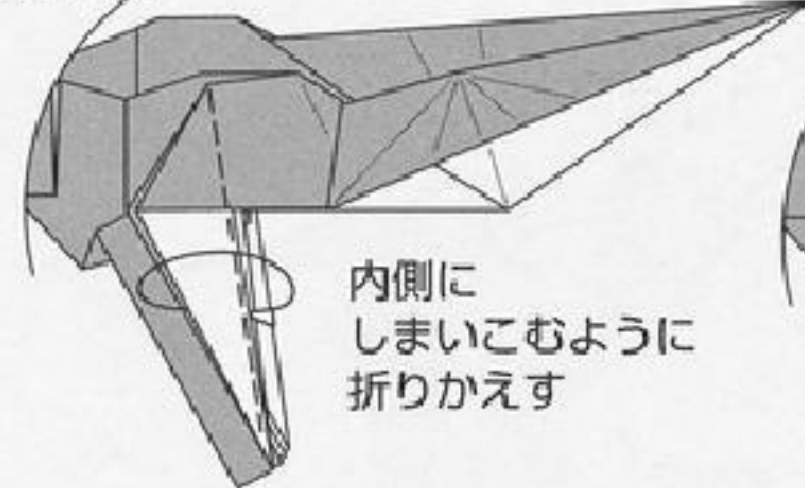


閉じる

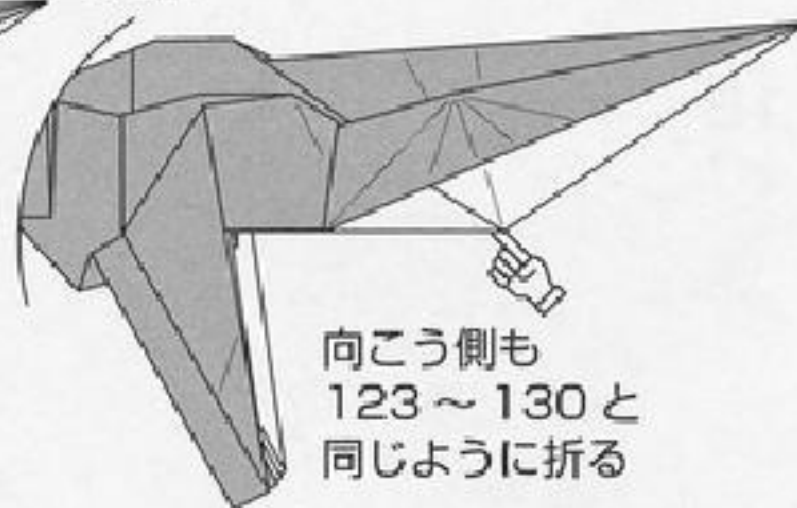
129

向こう側に
ひっくりかえす

130

内側に
しまいこむように
折りかえす

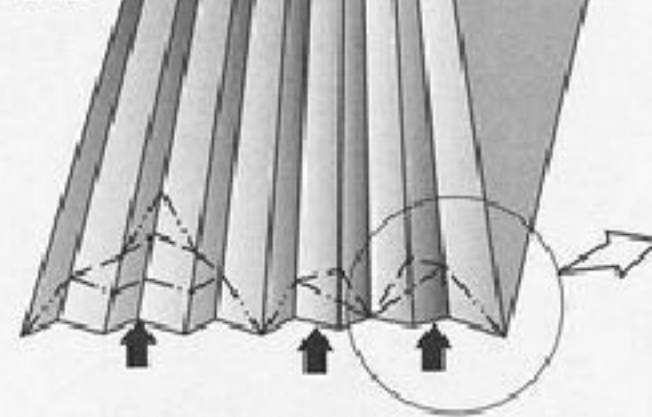
131

向こう側も
123 ~ 130 と
同じように折る

132

足の先端にある
ジャバラを広げる

133



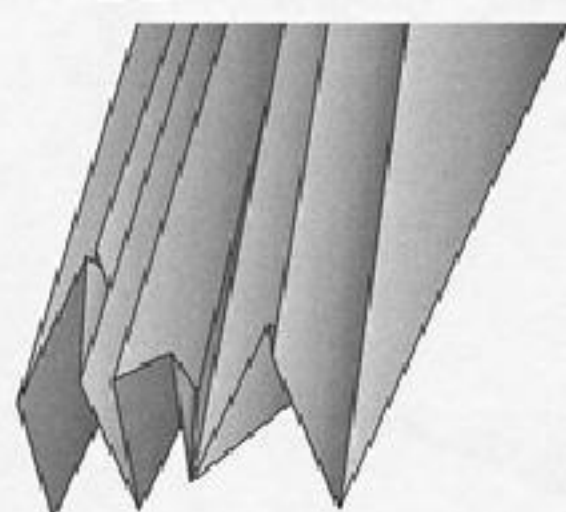
図のように折りたたむ

134



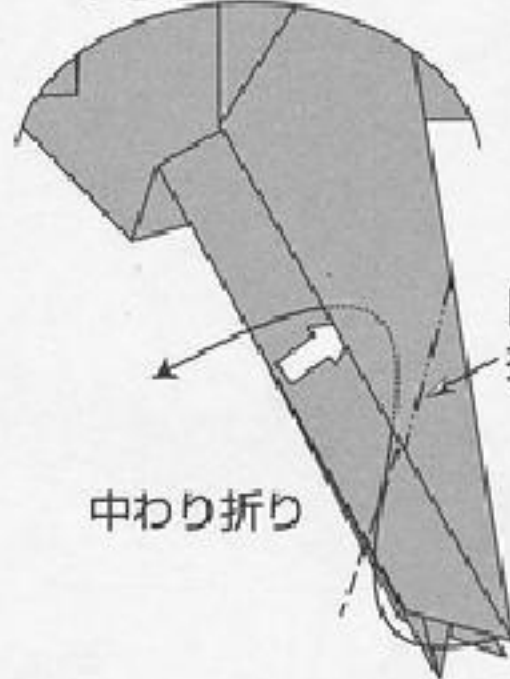
展開図

135



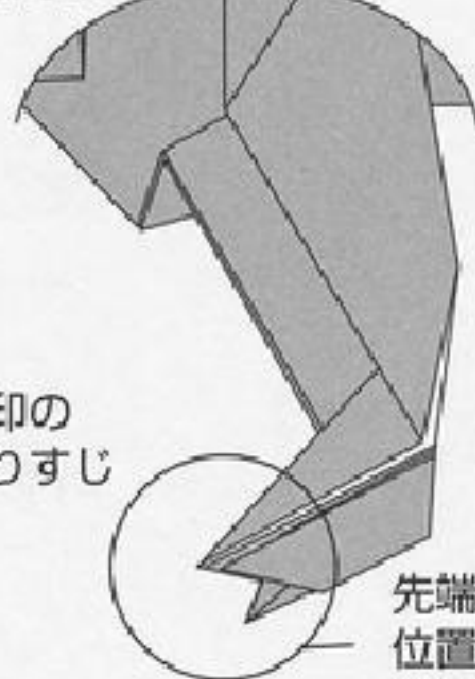
折った形

136

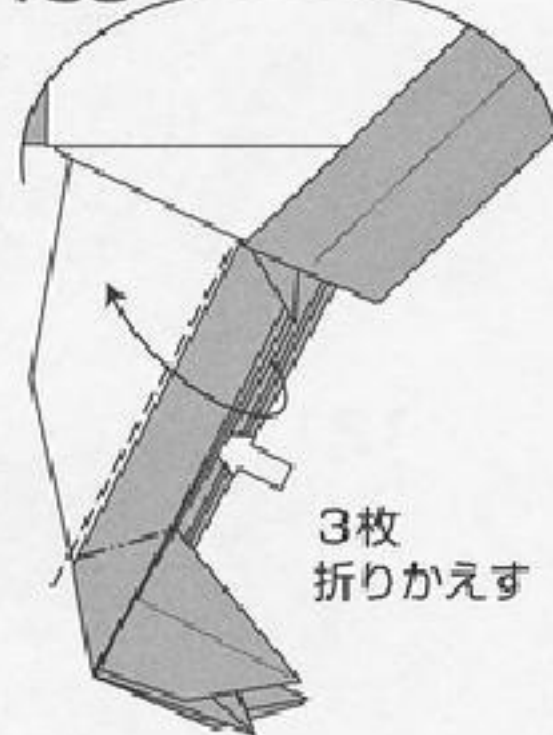


中わり折り

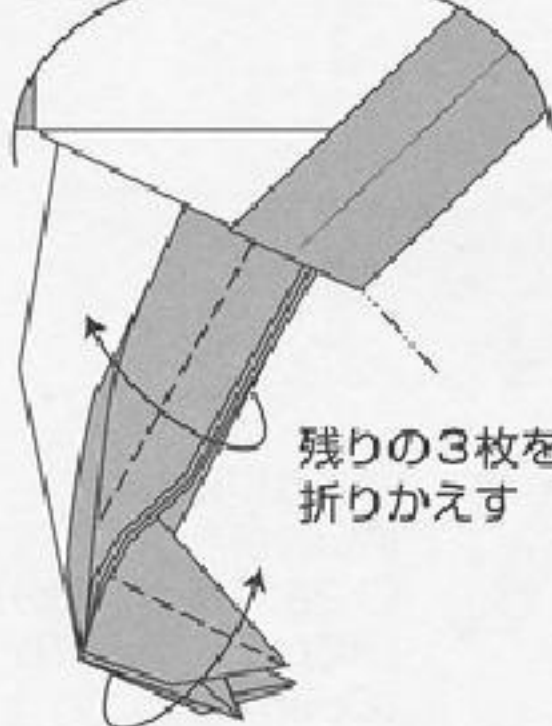
137

目印の
折りすじ先端の突起の
位置関係が
図のように
になっている
ことを確認

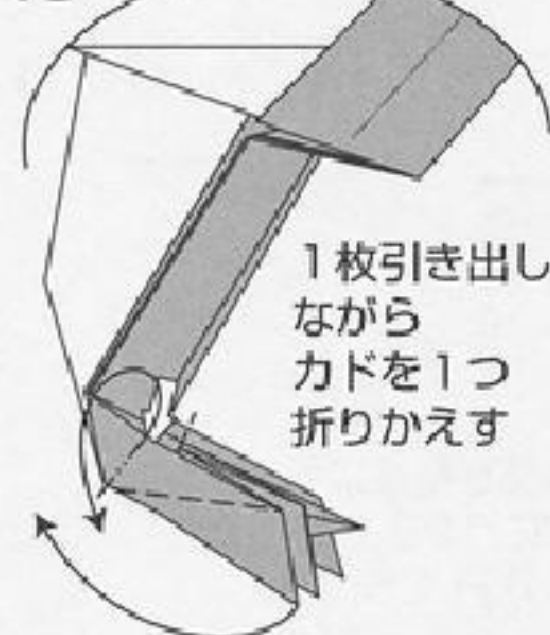
138

3枚
折りかえす

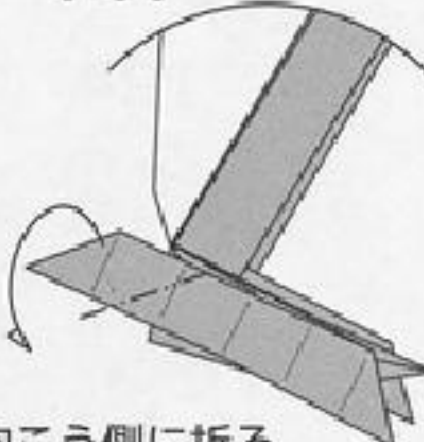
139

残りの3枚を
折りかえす

140

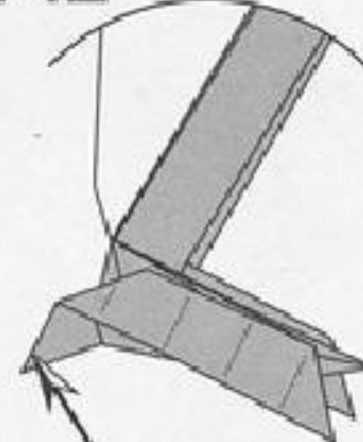
1枚引き出し
ながら
カドを1つ
折りかえす

141

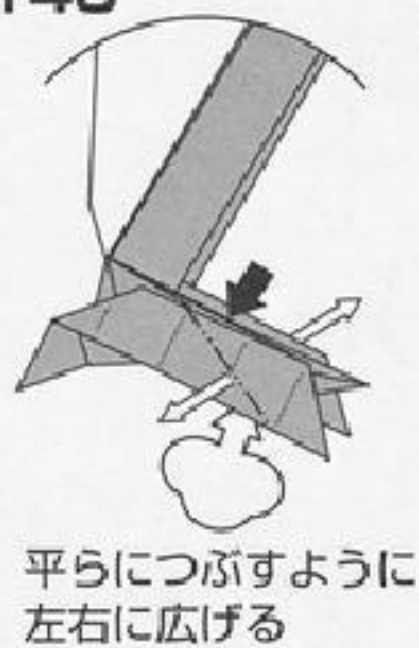


向こう側に折る

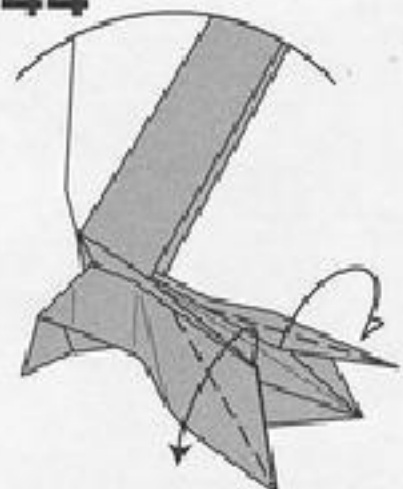
142

この部分は作品を
立たせる時に調整
してください

143



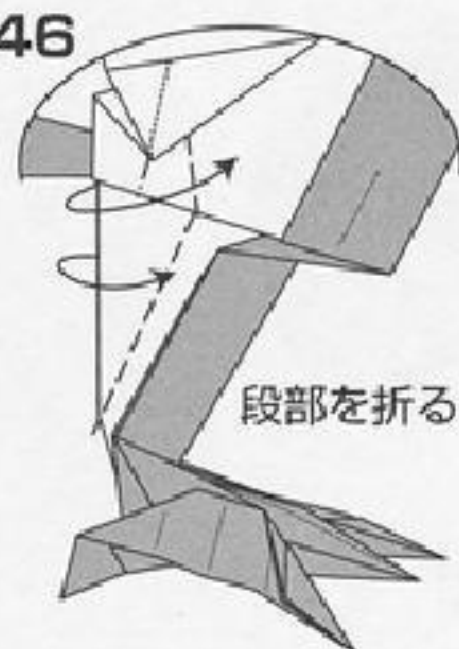
144



145



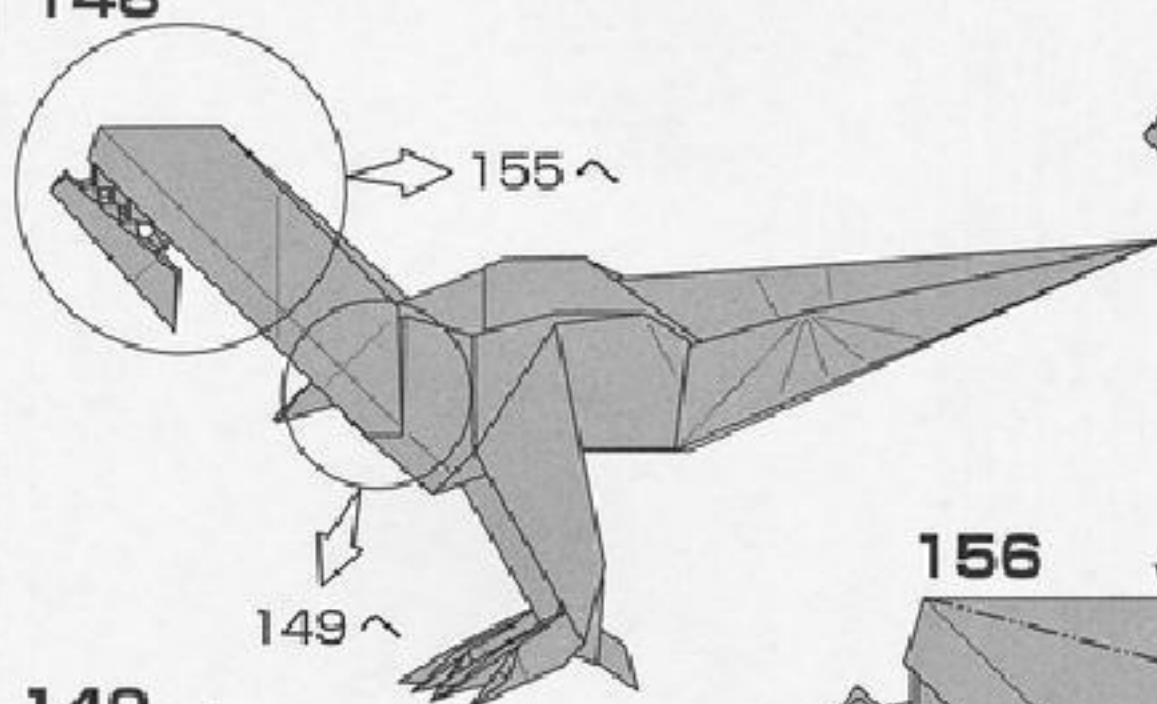
146



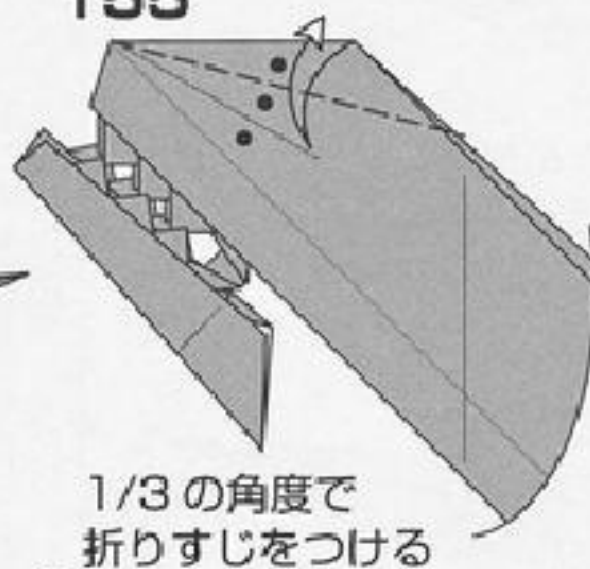
147



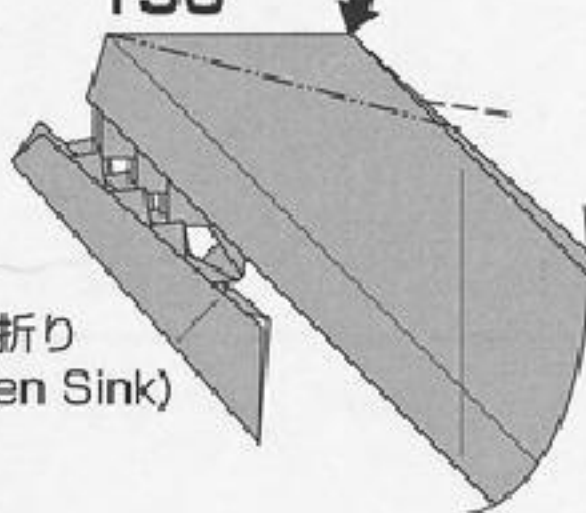
148



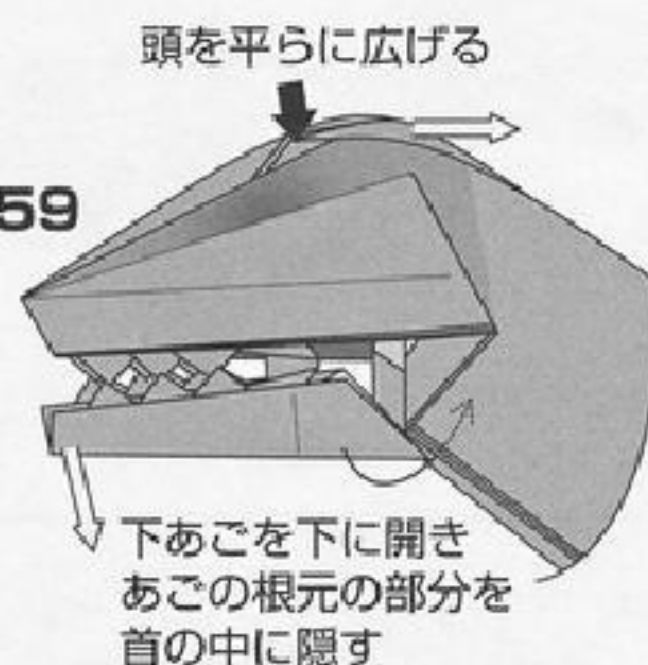
155



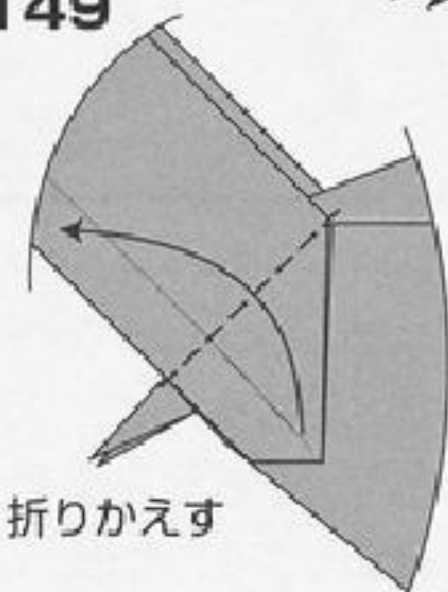
156



159



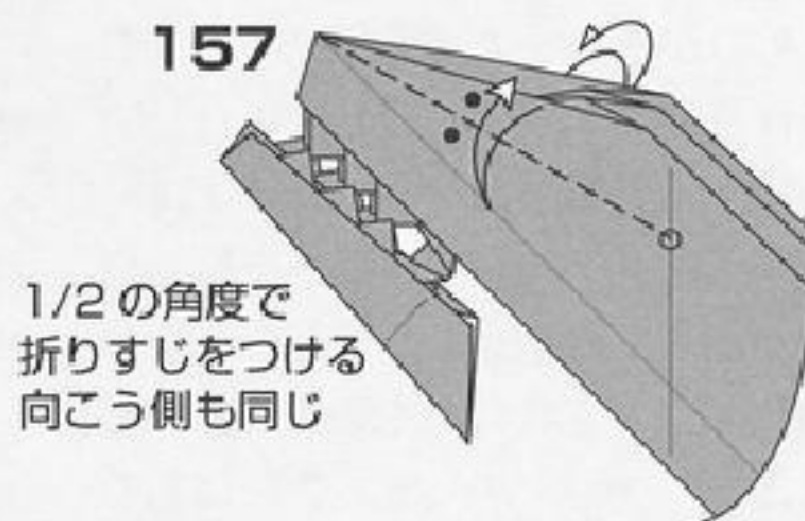
149



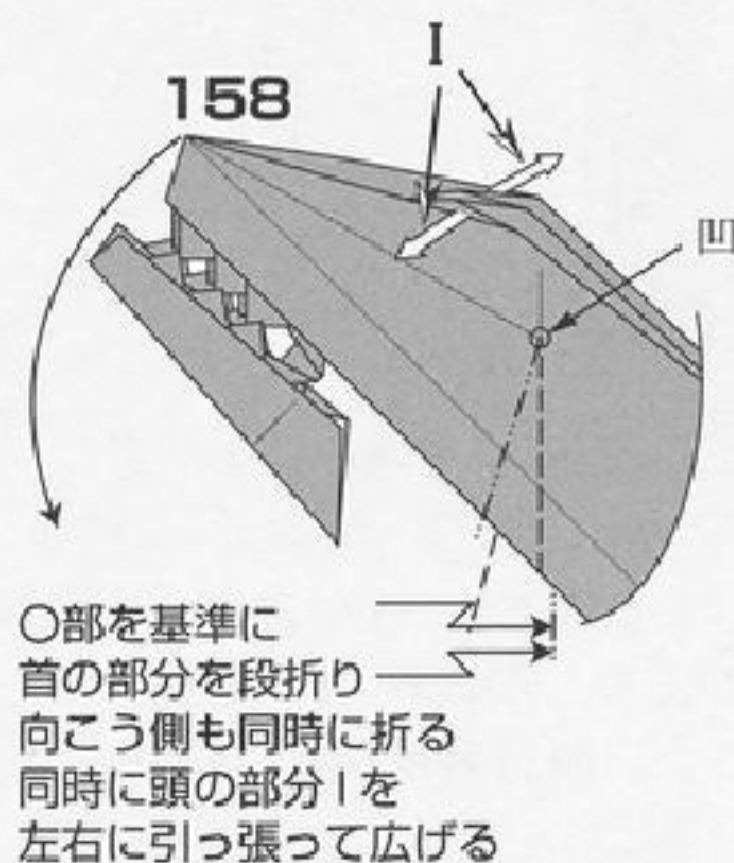
150



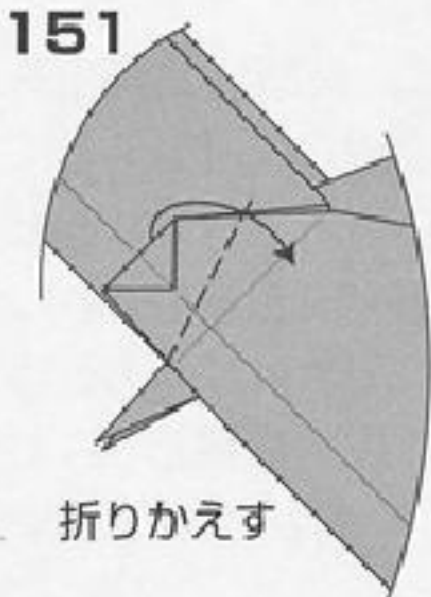
157



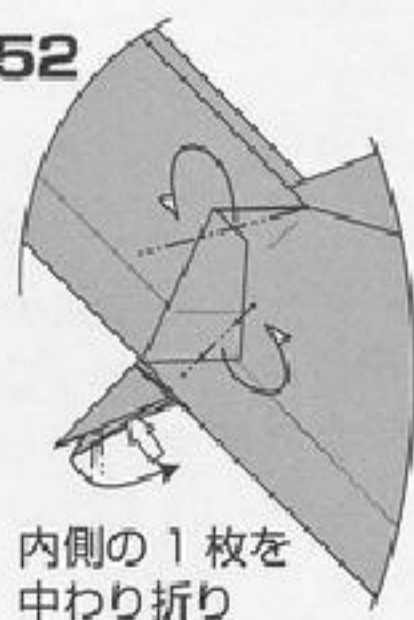
158



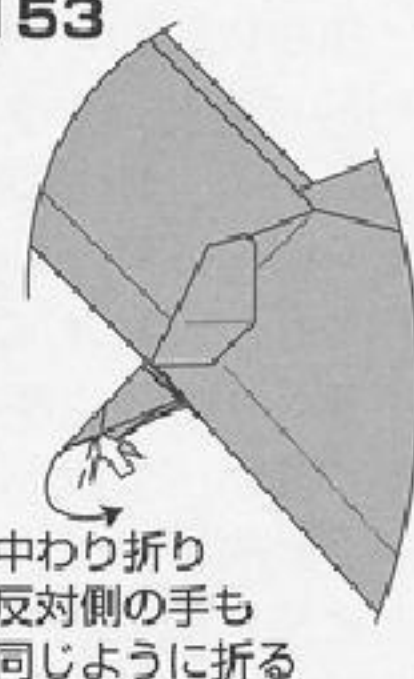
151



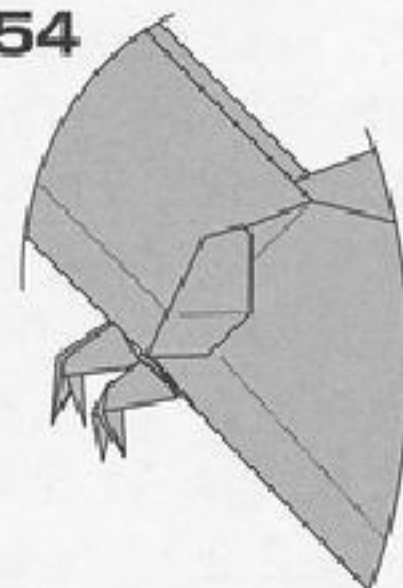
152



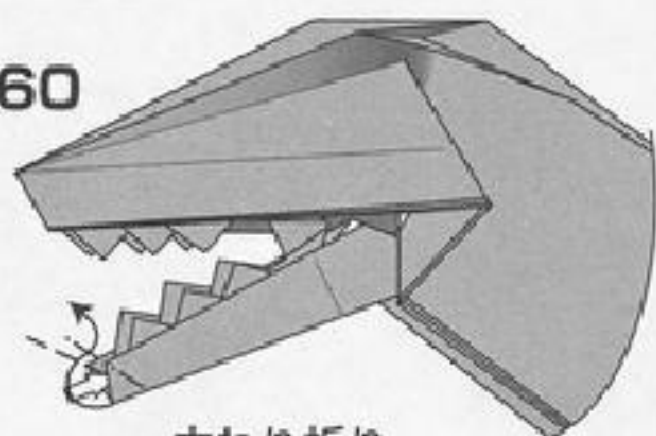
153



154

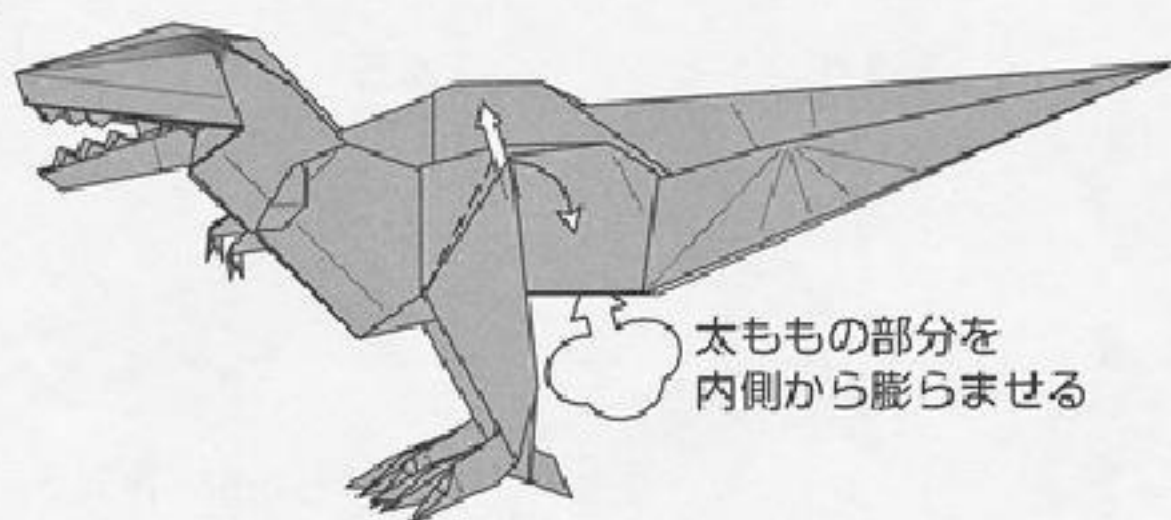


160



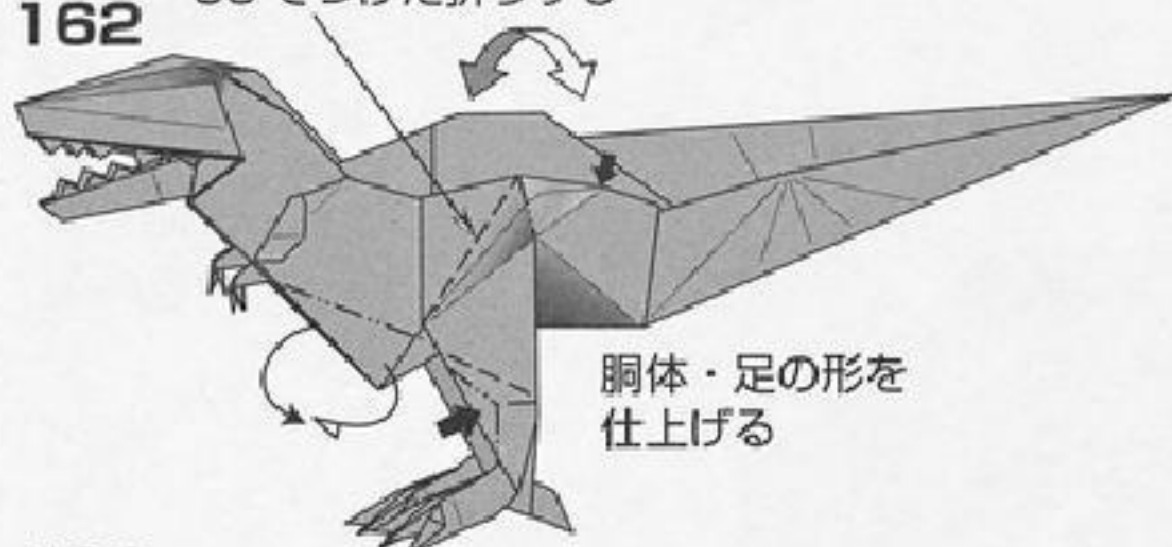
中わり折り

161

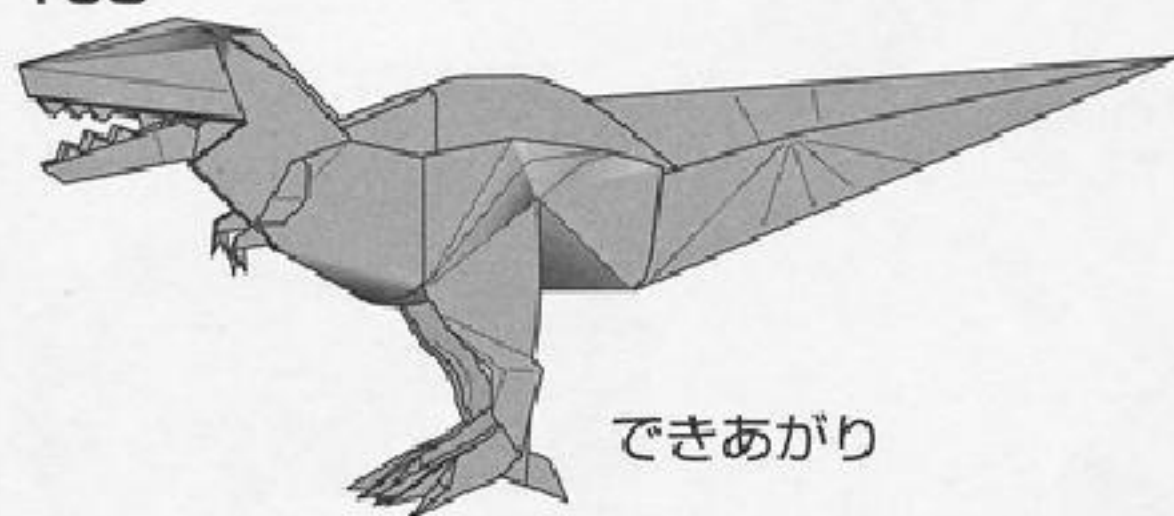
太ももの部分を
内側から膨らませる

162

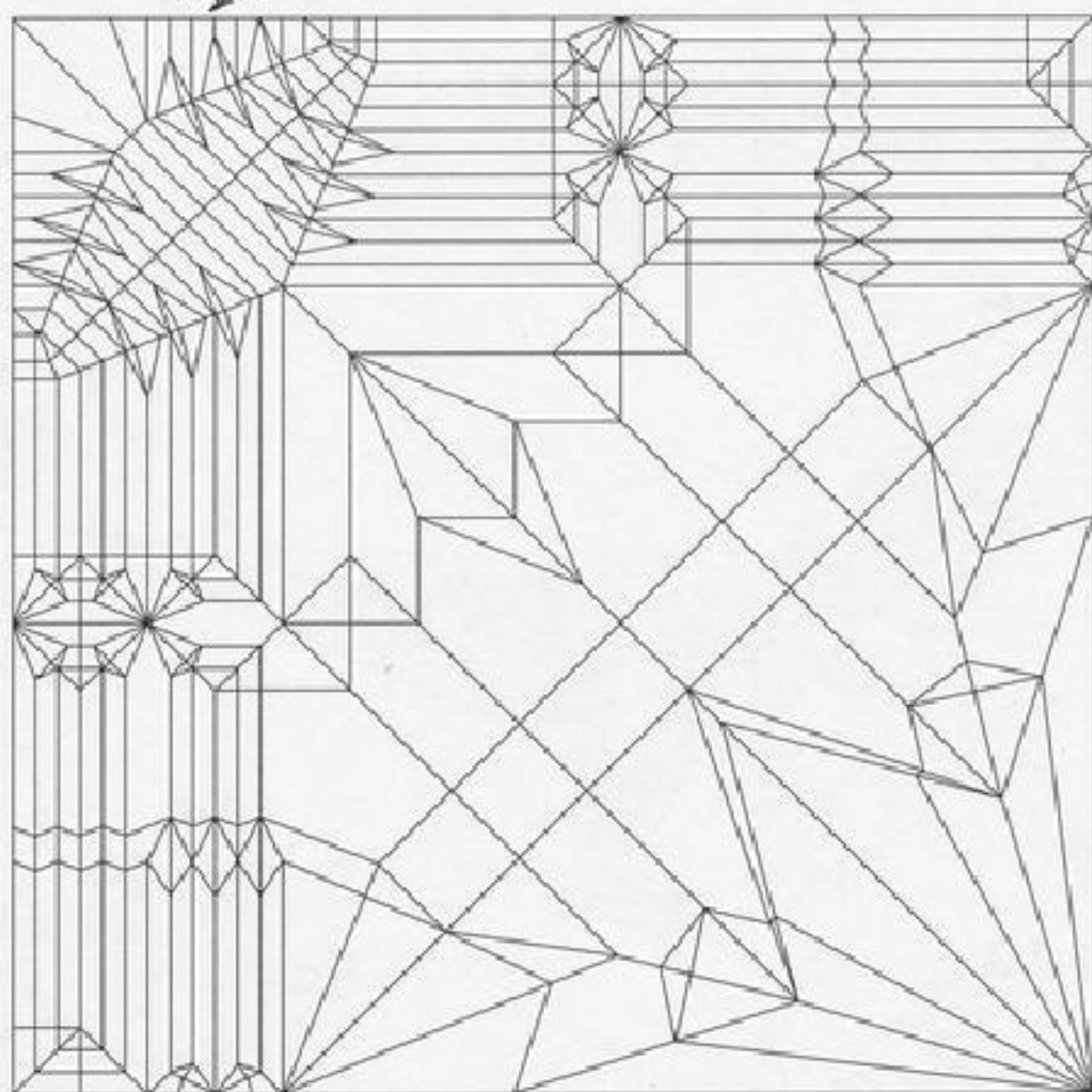
60 でつけた折りすじ

胴体・足の形を
仕上げる

163



できあがり



折り紙の 周辺

Origami and
Its Neighbors

第 69 回

中毒

Addicted

布施知子 Fuse Tomoko

世にはさまざまな中毒症、依存症がある。アルコール、薬物、パチンコ、競馬競輪などの賭け事、などなど。

筆者の折り紙の範疇は、ユニットを中心に、平織、一般的な動植物など、複雑系をのぞいてかなり広範囲に及んでいる。その中で最も中毒傾向が強いのは平織である。ひとつできると、もうひとつ作りたくなる。もっともっと作りたくなる。大きさを変えたり、組み合わせを変えたり、紙質や色を変えたり、いくら

でも作りたくなる。

なぜかわからないが、できあがったものがきれいだからだろう。折り紙作品への賛辞には「面白い」というものがあるが、平織は「きれい」という言葉が口をつく。そして自分が創作した創造した、というより、「できた」「きれいなものがここに現れた」という感覚。まあこれは折り紙全体に言えることだけれど。

平織を始めるとなかなか止められなくなるのは、パターンの魅力だろうか。文様の魔術だろうか。

植物にも葉序や枝分かれなど規則的に現れるパターンがあって、惹かれる。動物も体の模様や角など規則的に積み重なり並んでいるパターンを見つけると、嬉しい。イスラムの幾何学的文様は宇宙のようで吸い込まれるように見飽きない。動的なものと静的なものとを同時に感じる。棚田や街路樹や風景

の中にも、あるようなないようなパターンを感じるときがある。

平織をやり続け、そろそろ止めて、ちがう折り紙をしよう、と思う。いやもうひとつ、あのとおきおきの紙で折ってみようか。あそこをちょっと変えてみたらどうなるだろう。などと考え、なかなか平織と手を切れない。しかし、いつかへトヘトに疲れて止めることになるのだけれど。

周囲にも平織大好きの人々がいる。果たして中毒症状はどんなものだろうか？

筆者の場合は、禁断症状が出るものではなく、始めたら止まらなくなる「やめられない、とまらない」というなんとか菓子のようなもの。したがって、始めるときには体力と時間を計り「とまらない症候群」におちいるぞ、と言いつけて臨んでいる。

展開図折りに **挑戦**

Crease Pattern
Challenge!

第94回

カマドウマ

Camel Cricket

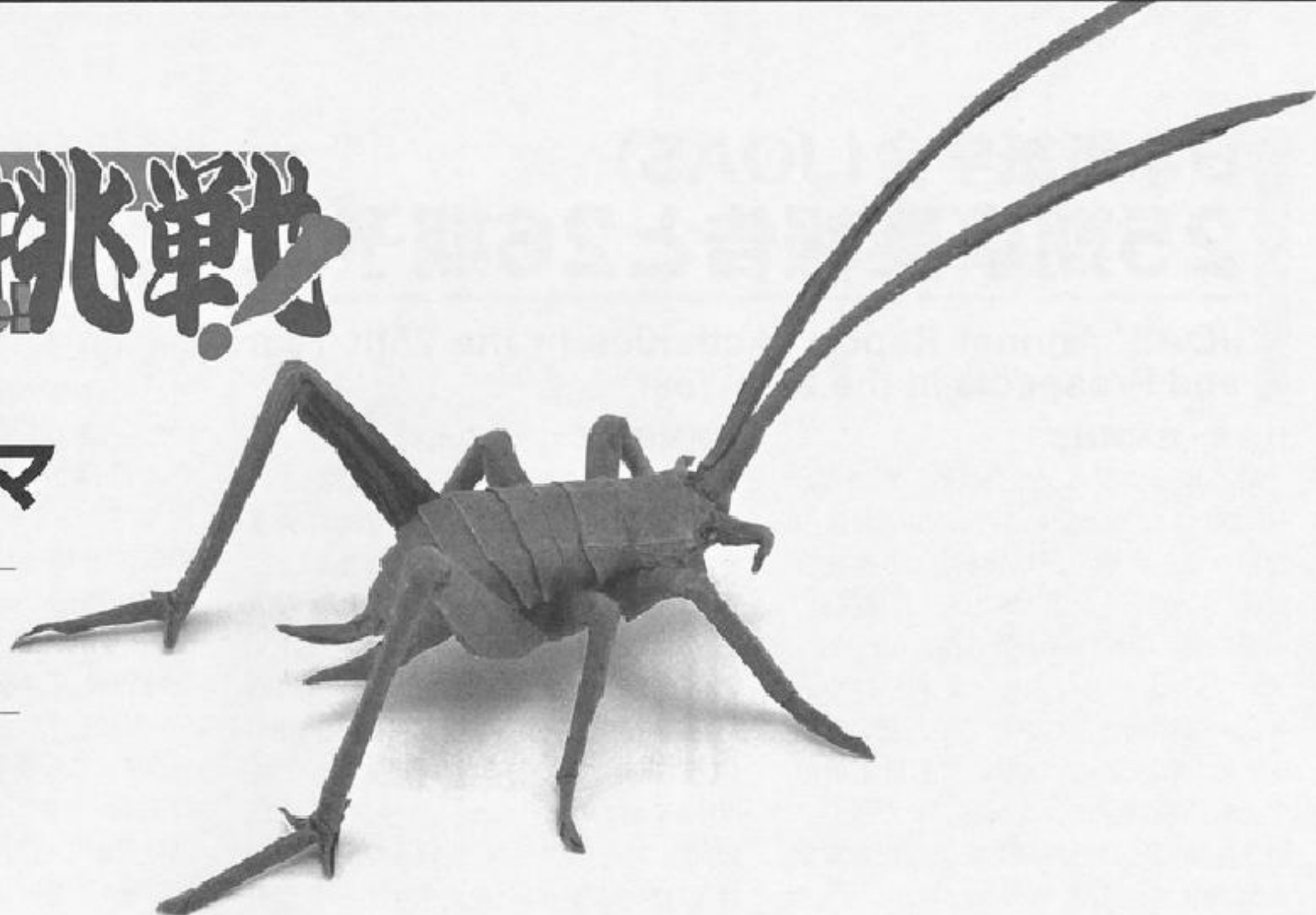
今井幸太

Imai Kota

Created: 2015/01/22

Paper Size: 48cm×48cm

Full Length: 18cm

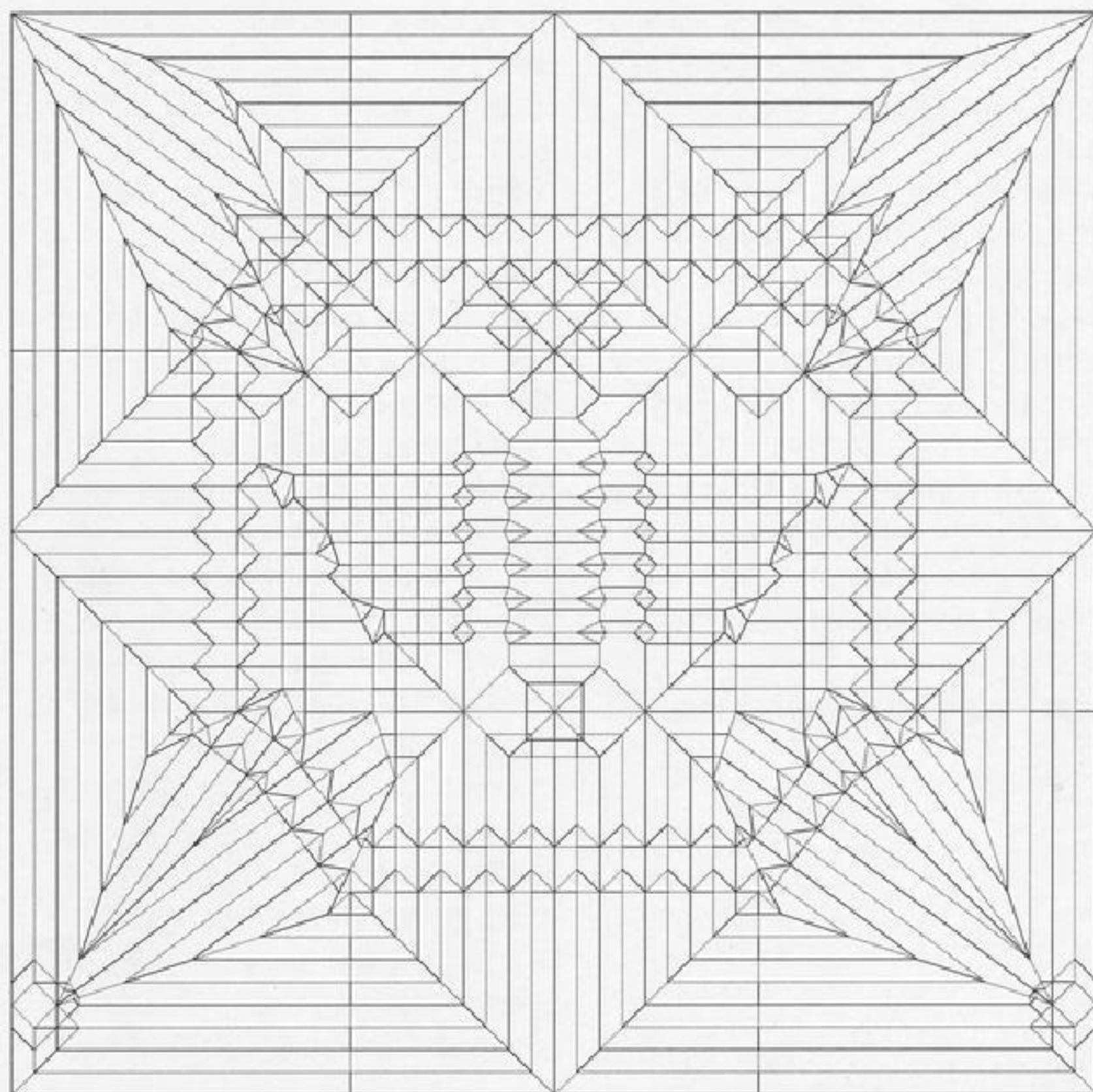


まずこの題材を折るにあたり、カド配置を決めることから始めました。細長いカドが必要となる触角や脚は紙の辺から、できれば特に長い触角と後ろ脚は紙の角から折りたいと考えていました。しかし、なかなかきれいに収まらず悩んでいたところ、伝承のアヤメと同じカド配置を思いつきました。後ろ脚と触角は角に、胴体は中央、前脚と中脚が上下左右に配置されるため、カドの出方は左右対称、使い方が左右非対称という作品になります。作品のポイントとしては、まず後ろ脚部分の神谷パターンがあります。45度の線を境に、傾きの違う神谷パターンがくっついた、不思議な形になっています。また、胴体となるカドの周りに帯領域を設けることで、体の厚みを出しカマドウマのずんぐりとした体型を表現しました。

この作品、48等分蛇腹がベースになっています。折るときの注意ですが、紙の薄さに頼りきっている作品のため、使用する紙はとにかく薄いもの方がいいです。写真の物はニューカラペを使用していますが、それでも足の根元などは厳しい折りになりました。折る順番としては、まず胴体を畳んで、その後に脚や触角という流れが良いと思います。胴体の節の幅

変換は、なかなか面倒ですが頑張ってください。畳み終えたらいよいよ仕上げですが、一番ややこしいと思われる前脚、中脚を折る手順の説明をします。まず、展開図上部と下部にあるカドを、胴体と垂直になるように折り下げます。これらのカドはそれぞれ右前脚、左中脚になるので、各々そ

の方向に折ります。ちょうど脚のカドが風車のような形になります。あとは細く、カマドウマらしい脚に仕上げてください。全体の仕上げはカラーページを参考に。自分は脚に針金を入れましたが、細さが若干犠牲になるので、ボンドやCMCで固めてしまうのも手かもしれません。



日本折紙学会(JOAS) 25期事業報告と26期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 25th Year and Prospects in the 26th Year

1) 会員・定期購読者

第25期は前期に比べ会員数、購読者ともに横ばいとなっています。25期会員の皆様へは、今期の配付資料として神谷哲史氏の折り図「トンボ」および、北條高史、小松英夫、中村楓、小菅章裕、ロバート・ラング、ジェイソン・クー、ジョセフ・ウー各氏の展開図を送付させていただいております。第26期につきましても日本折紙学会の活動理念にご理解をいただき引き続きご購読・会員継続していただきますようお願いいたします。

2) 吉野一生基金

2014年度も皆様のご寄付をいただき、改めてお礼申し上げます。「吉野一生基金」では8月にアレッシンドロ・ベバー氏(イタリア)を第20回記念折紙探偵団国際コンベンションに迎えることができました。ほかに、5月の九州コンベンションにジーン・バーデン＝ジレット氏(アメリカ)、11月の静岡コンベンションにベス・ジョンソン氏(アメリカ)の招待に対して助成を行いました。また、OrigamiUSAコンベンションへ参加する学生2名に助成金を支給しました。

「吉野一生基金」ではこれまで18年間にわたりのべ58名の海外折紙作家や活動的な愛好家を招待するとともに12名の日本人若手作家を海外コンベンションに送り出し、折り紙の国際交流の支援を続けてまいりましたが、ここ数年は年間のご寄付を上回るペースで支出してきております。一部有志の方から多額のご寄付をいただくことで、今期は基金残高が増加しておりますが、今後とも多くの方からのご理解を得て基金の維持発展を目指したいと存じます。

吉野一生基金2014年度収支報告

(2015年3月20日)

繰越金	952,907円
(2014年3月31日付)	
入金	610,400円
(振込みによる寄付金等)	
	157,550円
(オークション等)	
支出	460,000円
(海外招待3名、派遣2名、招待に関わる雑費)	
残金	1,260,857円

3) 折紙探偵団コンベンション

2014年8月15～17日に第20回記念折紙探偵団国際コンベンションを東洋大学で開催し、盛会に行うことができました。本大会は6OSMEと連携して進め、過去最高の約500名の参加、海外からも100名を超える参加者がありました。第21回折紙探偵団コンベンションは2015年8月14～16日に東洋大学にて開催予定です。2014年度の地方コンベンションでは第4回九州コンベンション(佐賀大学)、第8回静岡コンベンション(東海大学社会教育センター)、第15回関西コンベンション(神戸女学院大学)を開催することができました。2015年度も5月に第5回九州コンベンション、11月は第10回名古屋コンベンションを開催する予定です。世話役となつていただいております友の会の皆様にはこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

4) その他の事業報告・計画

◇折り紙資料の収集整理を目的とした折紙図書館事業では収集整理した資料の蔵書目録を増やしており、約2000点をウェブで検索できます。利用は会員の同席があればご友人や学校の折り紙サークル関係者など非会員の閲覧も、施設利用料(一般300円/回、購読者200円/回、会員は無料)をご負担いただくことで可能です。さらに活発なご利用をお待ちいたします。折紙図書館の利用時間はウェブページ等でご確認ください。

◇折紙指導員制度につきましては、2014年度は8名の方に新たに資格認定をさせていただきました。昨年度より開始いたしました折紙指導員に対する「折り紙講習等で使用可能な作品許諾リスト」の内容充実を進め、2015年度4月1日付からは新たに布施知子氏と小野友彰氏を加えたりストの公表準備を進めております。

◇2014年度もJOASホールでの例会、折り紙教室の運営を行っており、東京友の会例会、神谷哲史氏、布施知子氏、山口真氏など有名作家ならではの特色ある講習会、若手作家による研究会、ATC研究会が開催されています。更に2014年6月、12月には第16回、第17回折り紙の

科学・数学・教育研究集会を開催しました。講師を務める作家の皆様、話題提供いただいている研究者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。今後とも折り紙の様々な活動拠点として有効に運営してまいります。JOASホールの折り紙教室等への貸出基準は、ウェブページに記載いたしておりますのでご参照ください。

◇本誌147号でご報告したとおり「Web折紙アートミュージアム」を2014年8月の6OSME開催に合わせて開設いたしました(<http://www.origami-art-museum.com/>)。現在は、「秘伝千羽鶴折形の再現」を特別展として公開中です。多くのボランティアに支えられた充実した内容になっています。この場を借りて改めてお礼申し上げます。今後、さらにコンテンツの充実に向け企画を検討しております。

◇2014年度の学術誌『折り紙の科学』第4号を発刊する予定で編集作業を進めております。本誌への論文投稿をいただいた研究者の皆様に感謝申し上げます。

◇折り紙の知的財産権検討に関しまして、折り紙の科学・数学・教育研究集会での研究報告など研究を進めております。更に、日本折紙学会折紙指導員に対する作品許諾リストの公表も本研究に裏打ちされた活動となっています。これらの研究は専門の弁護士による調査やレビューを受けるようにしております。「折り紙の知的財産権検討基金」へも皆様のご寄付を多数いただきありがとうございます(<http://origami.gr.jp/IPrights/>に寄付要項を掲載しております)。今後も折り紙の知的財産権の研究を着実に推進いたしますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

「折り紙の知的財産権検討基金」

2014年度収支報告(2015年3月8日現在)

繰越金	136,950円
入金	20,000円
(個人寄付金2名分)	
支出	0円
(今期の支出はありませんでした)	
残金	156,950円

5) 2014年8月10～13日「The Sixth International Meeting on Origami in Science, Mathematics and Education (6OSME)」開催と日本折紙学会の取り組み

日本折紙学会は国内外の研究者と連携を取りながら6OSMEの会場選定、組織委員会・プログラム委員会の立ち上げ、本会議の成功に向け種々の運営に中心的に参画いたしました。既に本誌147号でご

報告したとおり、30カ国、280名を超える充実した国際会議を成功させることができました。今後とも国内外の研究者との連携を深め折り紙の学術的な発展へ貢献できるよう努力を続けてゆきます。

6) 総会・その他

◇日本折紙学会2014年度の会計報告につきましては、第21回折紙探偵団コンベンション開催期間中に予定しております総会においてご報告いたします。2015年6月30日までに第26期会員に登録いただきました皆様には追って総会のご案内をご送付申し上げます。

◇日本折紙学会の役員体制は、三浦公亮（東京大学名誉教授）会長以下、評議員として川崎敏和(7)、川村みゆき(1)、小松英夫(5)、館知宏(5)、立石浩一(3)、津田良夫(10*)、西川誠司(8)、羽鳥公士郎(6)、北條高史(7)、前川淳(6)、三谷純(8)の11名で運営を進めてまいります（カッコ内は評議員の勤続年数：最長任期9年（*ただし代表任期中は延長））。川畑文昭は評議員任期が満了したため退任となります。また、評議員代表は津田良夫が務める予定です。今後ともますますのご支援よろしくお願い申し上げます。

1) Membership and Subscribers

To the members in the 25th year, we distribute the special issue with diagrams of Kamiya Satoshi's "Dragonfly" and crease patterns of models by Hojyo Takashi, Komatsu Hideo, Nakamura Kaede, Kosuge Akihiro, Robert J. Lang, Jason Ku, and Joseph Wu. We expect all members and subscribers to renew for the 26th year as well.

2) The Yoshino Issei Fund

We would like to thank you for your support of the Yoshino Issei Fund this year. We have invited Alessandro Beber (Italy) to the 20th Origami Tanteidan International Convention. In May, we invited Jean Baden-Gillette (USA) to the Kyushu Convention, and we invited Beth Johnson (USA) to the Shizuoka Convention with aids from this fund. We also aided travel fees of two students who attend the OrigamiUSA Convention.

The Fund had contributed to support of international exchange in the world of origami, inviting fifty-eight origami artists to Japan and sending twelve young Japanese artists to origami conventions abroad in eighteen years. In recent years, we are having more

expenses than donations. Although the balance is in increase due to voluntary contributions in large amount recently, we would like to keep the balance stable by your kind contributions.

As of March 20th, 2015, the Fund has 1,260, 857 yen, with contributions from members (610,400 yen), the income at the auctions (157,550 yen) and expenses 460,000 yen (see above).

3) Origami Tanteidan Convention

We held the 20th Origami Tanteidan International Convention at Toyo University successfully. The Convention was linked to the 6OSME, and we had the most attendees ever, five-hundred registrations, and one-hundred participants from abroad. The next one, the 21st Origami Tanteidan Convention, will be held at Toyo University on August 14th-16th, 2015. We also had the 4th Kyushu Convention (Saga University), the 8th Shizuoka Convention (Social Education Center, Tokai University) and the 15th Kansai Convention (Kobe College). We plan to have the 5th Kyushu Convention in May and the 10th Nagoya Convention in November. We thank staff members of these conventions for their hard work.

4) Other Activities and Plans

The Origami Library have approximately 2,000 books and articles. Non-members can also use the archive with fees (subscribers 200 yen, non-subscribers 300 yen) given that they come to the Origami Library with our member. We are waiting for your active use of the Library. For the use of the Library, see the JOAS web site.

We had licensed eight people as new JOAS Origami Instructors in 2014. We JOAS made open the list of models that can be used without notification in origami classes to the Instructors last year. We will open the renewed list with Fuse Tomoko and Ono Tomoaki in.

The JOAS Hall are being used for regular meetings of Tokyo Tanteidan Group, occasional origami classes by Kamiya Satoshi, Fuse Tomoko, Yamaguchi Makoto, and so on. We also had held the 16th and 17th Workshop on Origami in Science, Mathematics and Education there in June and December, 2014. We are grateful to the participants of the meetings for various kinds of stimulus to us. The Hall will welcome any origami-related activities. The regulations are on the JOAS web site.

The "Origami Art Web Museum" had opened in August, 2014 when 6OSME was held ([\[museum.com/\]\(http://museum.com/\)\). At present, the Museum exhibits a thematic presentation of "Recreating Hiden Sembazuru Orikata". We appreciate hard work of volunteers who made this possible. The JOAS web site announces the future updates.](http://www.origami-art-</p></div><div data-bbox=)

We are now in the process of editing the 4th issue of Origami Sciences in 2014. We thank contributors for their serious interest in the magazine.

JOAS continues their work on copyrights and intellectual property rights pertaining to origami. The "List" of models above to the Instructors is based on our concerns on copyrights. Of course, we are regularly consulting professional lawyers to make searches for the analysis. We are still calling for the Fund for the Intellectual Rights and Copyrights on Origami, the regulations of which are described on the web site (<http://origami.gr.jp/IPrights/>). We recognize that the issue must always be on our agenda. We thank you for your understanding and cooperation.

5) The 6OSME (The Sixth International Meeting on Origami in Science, Mathematics and Education) on August 10-13, 2014 and JOAS

JOAS played the central role in the conference, contacting scholars worldwide and founding the Organizing and Program Committees. We had approximately 280 participants from thirty countries, and the conference was a huge success. We continue our efforts to contribute to the progress of academic research on origami.

6) General Meeting and the Board

The fiscal report of JOAS in 2014 will be reported in the General Meeting immediately preceding the 21st Origami Tanteidan Convention. Members will be notified of the meeting if they register their membership by June 30th, 2015.

The Board members for the 26th year will be: Kawasaki Toshikazu (7), Kawamura Miyuki (1), Komatsu Hideo (5), Tachi Tomohiro (5), Tateishi Koichi (3), Tsuda Yoshio (10), Nishikawa Seiji (8), Hatori Koshiro (6), Hojyo Takashi (7), Maekawa Jun (6), and Mitani Jun (8) (numbers indicate the years for which they have been the Board members consecutively). Kawahata Fumiaki's terms had ended, so he will not be the Board Member this year. The chair of the Board will be Tsuda Yoshio. The Chair of JOAS continues to be Miura Koryo (Prof. Emeritus, Tokyo University). We thank you again for your continuing support.

Rabbit Ear つまみおり Information

第21回折紙探偵団コンベンション 折り図集原稿大募集

夏のコンベンションに合わせて発行される折り図集への投稿作品を、広く募集しています。自慢の楽しい作品(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特にありません。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要もありません。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく『第21回折紙探偵団コンベンション折り図集』を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、未発表の自作折り図に限ります。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの原作者の了解を取った上で、名前も明記すること。)原稿はデジタルデータが基本となります。

●折り図投稿マニュアル入手方法

ダウンロード:折紙探偵団HPの「コンベンション特設ページ」より可能です。<http://origami.gr.jp/Convention/21st/>

◆応募締め切り:2015年6月末日

◆第5回折紙探偵団九州コンベンション参加者募集開始!

今年の九州コンベンションは5月の最後の土日に佐賀大学本庄キャンパスで開催されます。海外ゲストはブラジルのイサ・クラインさん。また昨年に引き続き折り紙を使ったアーティスト・トレーディング・カード(ATC)の交換会も開催する予定です。カードの大きさ(64×89mm)や、作品の作者名を裏面に明記といったルールを守っていただければどなたでもご参加いただけます。郵送でのご参加も大歓迎! 詳しい内容は九州友の会のブログに順次掲載予定です。土曜日の夜には毎年好評の懇親会もあります。ご家族やお友達でお誘い合わせの上ぜひお越しください。九州友の会スタッフ一同、皆様のご参加をお待ちしております!

●日程

2015年5月30日(土)・31日(日)

●会場

佐賀大学 文化教育学部

●参加費

・コンベンション

大人 4,000円/学生 3,000円

親子割引有り。詳しくは案内用紙参照。

・懇親会(@佐嘉神社記念館)

30日(土)18:00~20:00

4,500円(予定)

※コンベンション・懇親会とも、申し込み後にキャンセルされる場合は必ず事前に、なるべく早くご連絡ください。

●参加申し込み

5月15日必着。同封の申込書をご利用ください。ネットで申し込みができるフォームも導入予定。詳細は友の会ブログにて掲載いたします。

●ATC交換会について

・1つのデザインにつき1枚を受付で提出してください(会場展示用)。

▶今年のゲスト、イサ・クライン氏



・テーマは自由です。冬のモチーフでもかまいません。

・郵送での参加をご希望の方は、要領のまとめをお送りしますので川村までご連絡いただくか、友の会のブログでご確認ください。

●お問い合わせ先

川村みゆき メール: q-syu@plala.to

FAX: 0952-33-2246(10:00~19:00/常時留守電になっています)

九州友の会ブログ:

<http://q-syu.squares.net/blog.cgi>

◆OrigamiUSAコンベンション 2015年6月19~22日開催

2015年のOrigamiUSAコンベンションは開催場所が変わり、ニューヨーク市ブロンクス区リバーデイルのManhattan Collegeで行われます。緑が多いマンハッタンから地下鉄で移動できる位置にあります。駐車場は無料。新築の会場には最先端のオーディオ・ビデオ機器が設置されていて、Wi-Fiでのインターネット接続も全キャンパスで使用できます。希望者にはビュッフェスタイルの朝食、ランチ、ディナーの食事プランが用意されています。コンベンション・ディナーはマンハッ

タンに比べて安くなる予定です。

宿泊はキャンパス内の寮で、会場の近くで手頃な値段。各階に洗濯機と乾燥機が設置されていてとても便利です。談話室も各階にあってそこで“徹折り”もできます。

会場が変わってもできる限り、従来と同じように参加者が十分に楽しめるコンベンションになるように計画準備しています。広い展示会場で折り紙作品展示、3日間に渡って200以上あるシンプルからコンプレックスまで幅広い折り紙講

習、世界各地の折り紙愛好家とくつろぎながら交流できるホスピタリティ・ルーム、折り紙ATC交換、折り紙ピントレード、人気の巨大折り紙イベント、本やグッズの販売、オークションなど。さらにスペシャルゲストとして、ドイツからYouTubeの折り方動画で有名なサラ・アダムズ氏と、ベトナムから造形作品を得意としたホアン・ティン・クエット氏を迎えます。

日本の皆様もぜひご参加ください。

マルシオ・ノグチ(OUSAボードメンバー)

◆イスラエル折り紙コンベンション参加報告 三谷 純

12月18～20日の3日間に行われたイスラエル折り紙コンベンションに招待いただき、前後併せて9日間のイスラエル滞在を楽しんできました。イスラエル折り紙センターを運営している、ミリ・ゴランさんとポール・ジャクソンさんご夫妻の厚意で、滞在中は移動から食事まで行動をご一緒させていただきました。イスラエルというと安全を気にされる方が多いと思いますが、コンベンション前後はミリさんポールさんのご自宅に宿泊させていただき、11歳のジョナサン君と共に、平和であり、かつエキサイティングな日々を過ごさせていただきました。というのも、スケジュールが驚くほど過密で、まさに次から次へとワークショップと講演をこなす必要に迫られる毎日でした。

ミリさんとポールさんが、盛りだくさんの企画を立てており、コンベンションでの3回のワークショップと2回のトーク以外にも、Shenkar大学とHolon大学での講演とワークショップ、さらには小学校で算数を教えている先生120名を対象とした講演も行いました。ワークショップでは、予め準備しておいたテンプレートをを用いて、曲線を含む折り紙の体験をしてもらいました。伝統的な「正方形の紙を折る」というものと異なるので、多くの参加者が驚いていました。その分、準備の方は大変だったようで、ミリさんポールさ

んには大変なご苦勞をしていただきました。

また、在イスラエル日本大使館が間に入っの、パレスチナAl-Quds大学訪問も行いました。大きな壁で隔てられたイスラエルとパレスチナでは、街の風景がまったく異なりました。まさに敵対している2国間を訪問するという貴重な体験をさせていただき、中東の複雑な現状を肌で感じることができました。

唯一イベントの無い日には、エルサレムの旧市街と死海の弾丸旅行。なんとも密度の濃い日々でした。

さて、このようなイスラエルへの日本人の招待は、約10年前の布施知子さん、2年前の川村みゆきさんに続き、私で3人目とのことでした。そしてまた2年後には、日本人の誰かを招待したいとのことでした。次に声がかけられるのはどなたでしょうか。間違いなく充実した日々を送れることと思います。



▲ポール・ジャクソンさんとエルサレムにて

折り図集20冊が30万円

2015年2月6日(金)、一部の折り紙愛好家に衝撃が走った。ヤフーオークションに『折紙探偵団コンベンション折り図集』のVol. 1～20までの全巻と、『日本折紙協会シンポジウム折り図集』の2000～2003年版がセットで売り出されたのだ。それだけではない。同じ出品者から『季刊をる』16冊全巻と『をる別冊折り図集』の1と2のセットと、おりがみはうすガレージブックシリーズの10冊と『ビバ!おりがみ』のセットも同時に売り出されたのだ。

売り出されたことそのものよりも、「一体誰が手放したのか」が一部の折り紙愛好家の争点となった。初期の『折紙探偵団コンベンション折り図集』はごく少数しか印刷されていないので、所持者は限られている。そしてVol.20まで揃っているのだから、ごく最近まで折り紙をやっていた(そしてやめた?)人のはずだし、コンベンションの超常連者に違いないのだが、誰も心あたりが無い。

この「超」レア折り図集セット争奪戦は、予想通り熾烈を極め、結局1週間後に301,000円という高額で落札された。『季刊をる』のセットは、22,600円と案外お値打ち価格で、ガレージブックと『ビバ!おりがみ』のセットは74,000円で落札された。落札した人も気になるが、やはり出品した人が気になる。事情を知っている方がいたら、こっそり編集部を教えてほしい。

発表要旨や企画で折られた作品については、ブログ(<http://kiranai.sakura.ne.jp/yocs/>)で写真を含めた詳細を公開している。興味のある方は是非見ていただきたい。(若手作家勉強会)

◆若手作家勉強会活動報告

2015年最初の「若手作家勉強会」の活動を報告する。

第16回勉強会は1月25日に11名で実施した。個人発表は大内康治氏の「折り紙におけるヒューリスティックスの実例」と堀口直人氏の「シンプル作品創作練習法構築のための予備的考察」の2本立てであった。前者は報告者の具体的な創作経験から、創作プロセスの中で理論化されていない部分を考察したもの。後者は若手作家16名を2つのグループにわけ、それぞれに異なる課題を与えて創作してもらった実験の結果を報告したもの。作品のシンプル度を比較検証する部分では、「シンプルさ」とは何かについて一同で議論となった。発表後は自由時間とし、持ち寄った本や作品を元に参加者間で議論を行った。

第17回勉強会は2月22日、9名の参加があった。高村侑樹氏の「展開図加群」

と、井上俊介氏の「恐竜を折り紙でデザインする。」という2つの個人発表が行われた。高村氏の発表は展開図の集合を「加群」とみなすことで、将来的に創作支援システムへと発展させられないか検討するものだった。井上氏の報告は彼の新作を具体例として取り上げ、その創作プロセスを紹介しつつ、創作する際に意識していること、および普段使っている手法の明文化を試みるものだった。続いて、堀口氏より「素雲鶴」取材の報告があった(詳細は本誌18～19ページを参考のこと)。最後に企画として、折る回数を制限するルールで「シンプル作品創作練習」を行った。前回勉強会での議論を受けて実施したもので、全体としてシンプル作品を折り慣れていない傾向のある若手にとっては、こうした演習を通して、シンプル作品創りに必要な要素を考えるきっかけとなったようだ。

コミック雑誌の表紙に折り紙

隔週刊『ビッグコミックオリジナル』の表紙に、山口真氏の作品が登場した。男性向けの雑誌に、このようなシンプル作



品が使われるのは珍しい。

▲山口氏の「おひなさま」が使われた『ビッグコミックオリジナル』3月5日号の表紙

◆似ているけど…別の作品?!

やまぐち真

先月、U社から出版されたTさんの本に、私の考案した「シャツ」と同じものが掲載されているのを見つけた。すぐにU社に連絡すると、U社から著者Tさんに連絡がいき、Tさんから私へ電話がかかってきた。彼女曰く、「自分で考えたものだが、一緒に作品があるとは知らなかった」という。

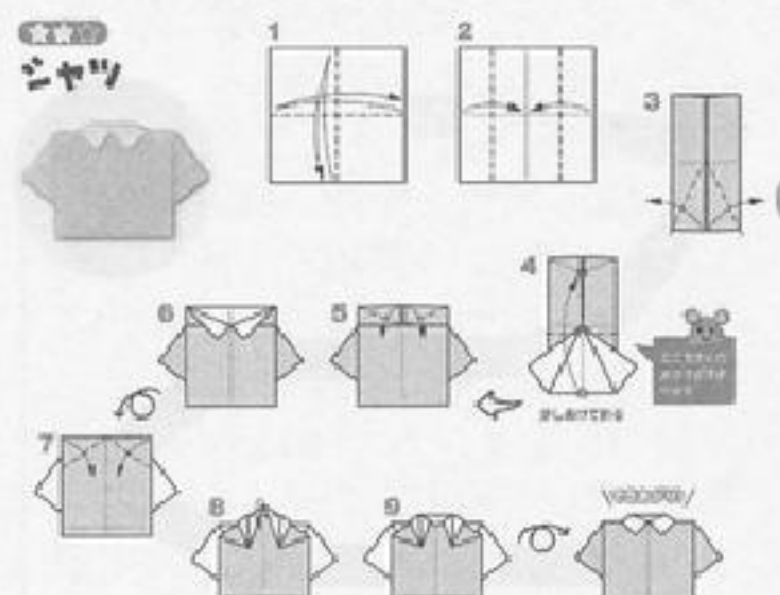
この「シャツ」は、私が折り紙を始めた初期に考案し、トヨーの折り紙商品にも沢山使ってきたもので、愛着がある作品のひとつだ。だから、拙著にもよく掲載してきた。長年易しい折り紙に親しんでいる人なら、一度は見ている作品だと自負している。

またこの折り図についても問題がある。折り紙作品の折り方は、易しいものであっても幾通りかの説明方法が存在する。しかしU社の折り図(図1)は、手順も表現方法も、私の発表してきたもの

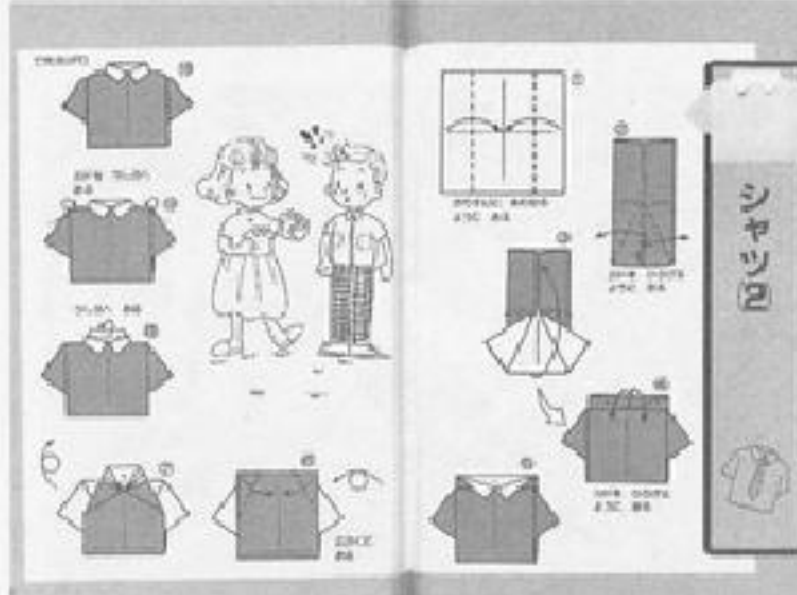
(図2)とそっくりだ。どちらがどう違うか、初心者だったら見分けがつかないのではないだろうか。

よく知られすぎて、伝承作品だと思われていたならまだしも、「作品を知らなかった」「自分の創作だと思っていた」とTさんは言う。しかし図がここまで似ていると、私の本を見ながら、ちょっとだけ変えて描いたのではないかと疑いたくなる。折り図を描いたのはA氏ということだ。A氏にも聞いてみたい。

数週間後、U社とTさん、それからこの本の編集をしたD社の代理人と名乗る弁護士から手紙が届いた。内容は「2つの折り図は相違点が沢山あるので、著作権侵害にはならない」というものであった。そこが一番の問題ではないのだが、折り紙界が発展するのは好ましいことだが、こういう問題は今後ますます増えていくだろう。



▲図1 U社から出版されている本の「シャツ」



▲図2 筆者の「シャツ」(1990年)

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=大人500円(中学生以下300円)/時間=14:00~16:00/研究会=16:00~(開場は13:45)
●4月4日(土)/講師:北條高史/作品:まかいのおにぎり他 ●5月9日(土)/講師:堀口直人/作品:ゾウ、日没
※開場は13:45です。会場満員(40人程度)の場合は、先着とします。
※5月はGWの連休を避けて、第2週目の土曜日になります。ご注意ください。

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=静岡の和紙処ますたけ(静岡市呉服町1-3-6 増武ビル3F)/参加費=500円(中学生以下200円)/時間=10:30~15:00 ※昼食は各自ご用意ください。スリッパ等上履きをご持参ください。
●4月5日(日)=講師:鈴木美恵子/作品:さくら・サクラソウ(山口真・作)/持ち物:のり

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~15:30
●4月18日(土)/講師:未定/作品:未定
●5月16日(土)/講師:未定/作品:未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

次回定例会は6月前後を予定しています。詳細が確定の際には、友の会公式サイト http://tatekoo.net/KT/fold_it_or_go/ と葉書にてご案内致します。

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ/参加費=500円(中学生以下は100円)/時間=13:00~16:00
●4月26日(日)会場=4階第2研修室B/講師:高辻美恵子/作品:ストラップ他
5月は第5回九州コンベンションのためお休みです。

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「Origami ATC研究会」

4月16日(木)/参加費=1,000円(材料費別)/11:00~16:00/講習内容=ATC交換会、ATC作り、折り紙講習、折り紙の情報交換等/講師=松浦英子/定員=20名/お茶を飲みながらの気軽な集まり。初心者歓迎。ATC交換会は、郵送参加も受け付けています。

◆「ある折り紙作家の教室」

5月17日(日)/講師=神谷哲史/講習作品=未定/参加費=3,000円(材料費別)/11:00~16:00/定員=28名

※対象は、小学校5年生以上です。
※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。
※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。
※「ある折り紙作家の教室」は、2週間前(今回は5月3日以降)からキャンセル料(受講費の半額)が発生しますので、ご注意ください。

参加のお申し込みはメール info@origamihouse.jp で氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

149号新刊プレゼントの当選者

『BUGS』/三浦京枝様(三重県)、若月美智子様(北海道)、久代一二様(滋賀県)
『ティーバッグの包み紙でゆかいな折り紙』/小迫明代様(大阪府)、佐藤由里子様(鹿児島県)、森本真代様(愛知県)

編集後記

今号はJOASの25周年に合わせ「山口真氏」の特集をお送りした。項をかえて少々残念なお知らせをなくてはならない。NOAは2014年の総会で山口氏の理事を不再任とした。折り紙界やNOAに対しても多大の貢献があった山口氏にこのような決定を下したことは、同じ折り紙団体として本当に残念に思う。(西川)

■皆さんが心配し、元気を与えてくれることに感謝。
■やっぱり私は良い人達に恵まれていると改めて感じる。■今号を編集していて、自分のことが特集のように書かれていて、とても気恥ずかしい気持ちで一杯だ。■読者の皆さんにはどうでもいいことばかりだったと思う。■ごめんなさい。■そろそろのかなー.....と思ったりもする。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2015年3月25日発行 第25巻6号 通巻150号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/津田良夫

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.150 / Published on 25, March 2015 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hokusai Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "T-Rex 2015" Produced by Kawahata Fumiaki / Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Tsuda Yoshio / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはいすべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第20回記念折紙探偵団国際コンベンション

折り図集vol.20 NEW!

日本折紙学会 編 / 2,480円 / 送料430円
B5判 / 全288頁 / 61作品収録

オルガネラ:川村みゆき / ニワトリBOX:山梨明子 / 超新星:川崎敏和 / カマキリ:神谷哲史 / うさぎ:霞 誠志 / ダーサスター:アレックス・ペーパー / ハムスター:ユ・テヨン / オコジョ:マヌエル・シルゴ / アメリカマナティ:クエンティン・トリップ等、国内外の61作品を収録。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円	国内一律 1冊 430円 (梱包込) 書籍2冊の送料は540円です 3冊以上の複数冊は本により異なります お問い合わせください	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成
神谷哲史作品集2 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録 折り紙界の最先端、神谷氏の約8年ぶりとなる作品集
小松英夫作品集 小松英夫 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録 折り図も1つの作品として捉える小松氏の初作品集
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,460円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,780円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,560円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル 山口 真 編著 —折り紙のマジシャン— 立石浩一 訳	5,180円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第19回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.19 日本折紙学会 編	2,480円		B5判 / 全288頁 国内・外から集まった秀作 53 作品を収録
第18回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.18 日本折紙学会 編	2,380円		B5判 / 全272頁 国内・外から集まった秀作 48 作品を収録
第17回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録
第16回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 47 作品を収録

書籍2冊の送料は540円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,080円	1～2セット 450円	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かなウロコ柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,300円		恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
「折紙探偵団マガジン」専用ファイル	810円	1冊285円 2冊330円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 「折紙探偵団マガジン」1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

おりがみはうす オンラインショップ

<http://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を
25%引きで販売中!

※創作専科・アウトレット商品等を除く / 発送は週1回木曜日

詳しくは
検索サイトで

おりがみはうす

検索

CLICK!

オンラインショップ限定価格で
一般店舗では取り扱いのない
大判折紙や単色折り紙等々、
700種類を超えるおりがみを
豊富に取り揃えています!



商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※PayPalによるお支払いも可能です。
詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。

※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



ギャラリー

おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail: info@origamihouse.jp

月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

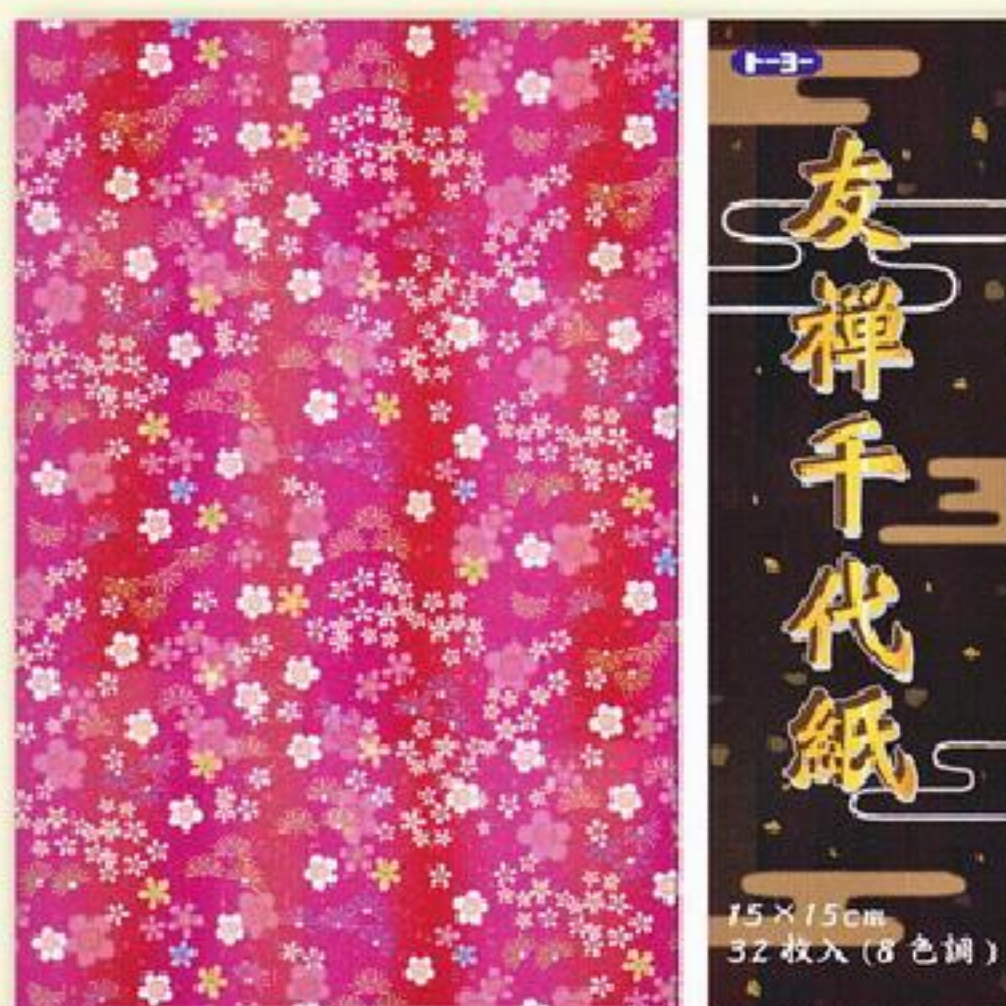
友禅千代紙

8色調

伝統ある友禅柄を現代風にアレンジしました。



¥200 (税抜き) 7.5cm 128枚入



¥200 (税抜き) 15.0cm 32枚入



●写真は印刷ですので実際の商品とは色が異なる場合があります。

※表示価格には消費税は含まれておりません。 ※内容・デザインは一部変更になることがあります。

 **株式会社トコイ**
http://www.kidstoyo.co.jp

本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所

JOAS Express Their Gratitude to Yamaguchi Makoto

Japan Origami Academic Society

Translation: Marcio Noguchi

INTRODUCTION

2014 was a milestone year for Japan Origami Society (JOAS) celebrating 25 years of the establishment of Origami Tanteidan. During the same summer, after a gap of 3 years, the successful 6OSME also took place. And following it, the 20 years celebration Origami Tanteidan convention counted with a record number of participants. Also, new activities sprouted, including the Web Museum and Young Creator Study Group, demonstrating renewed determination for further future developments. None of that would have been possible if it was not for Yamaguchi Makoto, a person who provided strong support since the foundation of JOAS, and the current advisor and secretary general. In the 25 years milestone year, JOAS would like to present a letter of appreciation to Yamaguchi Makoto, and feature his various contributions in this issue.

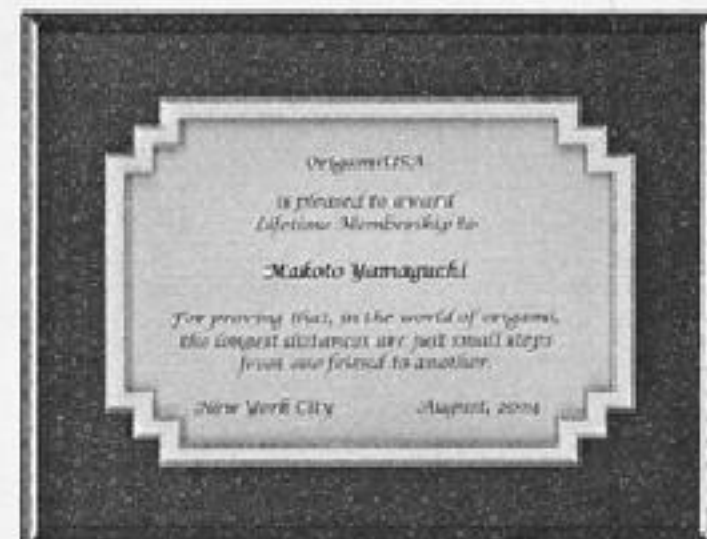
ENCOUNTER WITH ORIGAMI

Yamaguchi Makoto was born in 1944, at the neighborhood of Minato-ku Tokyo, as the eldest brother of a family in the automotive glass industry in Sumida-ku. He was a very shy boy. After graduating university, in 1968, he embarked on an adventure to Europe. So, to date, he still maintains contact

with very good friends in Denmark with whom he shared joys and sorrows. Then, he returned to Japan and met Abe Hisashi when going to a photography school during the process of becoming a cameraman. And through the invitation from Abe Hisashi, he started working at Nippon Origami Association (NOA) office. At the same time that he became responsible for the monthly magazine "Origami", he also started creating his own origami designs. The famous Christmas Tree (photo) was created around that period. And even after becoming an independent origami artist, he continued to actively contribute, by selecting models for the NOA magazine and world exhibition, eventually being nominated as director of NOA.

INDEPENDENT ORIGAMI ARTIST

Yamaguchi Makoto left NOA office in 1979 to become the chief editor of Hobby Japan magazine. This magazine was specialized in military action figures, so, the unique experience of being able to see the world of origami from the outside was probably very impactful. He became an independent artist, and after trying to determine what to do next, he eventually created Origamihouse in 1989, a permanent origami gallery, at Bunkyo-ku, Tokyo. This location soon became



▲Lifetime Membership award from OrigamiUSA

a place where young origami artists and enthusiasts could meet and share experiences. And at the same time, more active publishing activities started. Kimura Yoshihisa, Nishikawa Seiji, and the late Yoshino Issei were among the main young origami artists that got together at Origamihouse, who created in 1990, a group for origami enthusiasts called "Origami Tanteidan". That group became in 1999 what is known today as JOAS, where Yamaguchi Makoto had been a board member, and currently holding the position of advisor and Executive Director as well as chief editor for Origami Tanteidan magazine.

GALLERY ORIGAMIHOUSE

Origamihouse was a world pioneer in creating a space for permanent origami exhibition. It all started with a simple question: "why there isn't a permanent origami exhibition in Japan?" During the early days, information of origami was disseminated by growing projects like "Dinosaur exhibition by young origami artists", "Hina-matsuri for boys", "Takahama Rie Exhibition", and "Dogs Exhibition" by Sano Yasuhiro (chairman of NOA at that time). Currently, the space is used to display fine art origami which can be seen anytime and for free, including the works of Eric Joisel's that were personally acquired for the collection.

INTERNATIONAL EXCHANGE

In 1994, Yamaguchi Makoto attended for the first time the OrigamiUSA



▲Beginning of Origami Tanteidan. Nishikawa Seiji, Yoshino Issei, Kimura Yoshihisa and Yamaguchi Makoto



▲The first participation at OrigamiUSA convention, in 1994



▲At OrigamiUSA convention reception



▲With Tony Cheng. This "Origami" banner was presented to Origami USA.



▲At MFPP convention in Paris



▲At Korean convention. wearing origami caravan T-shirt



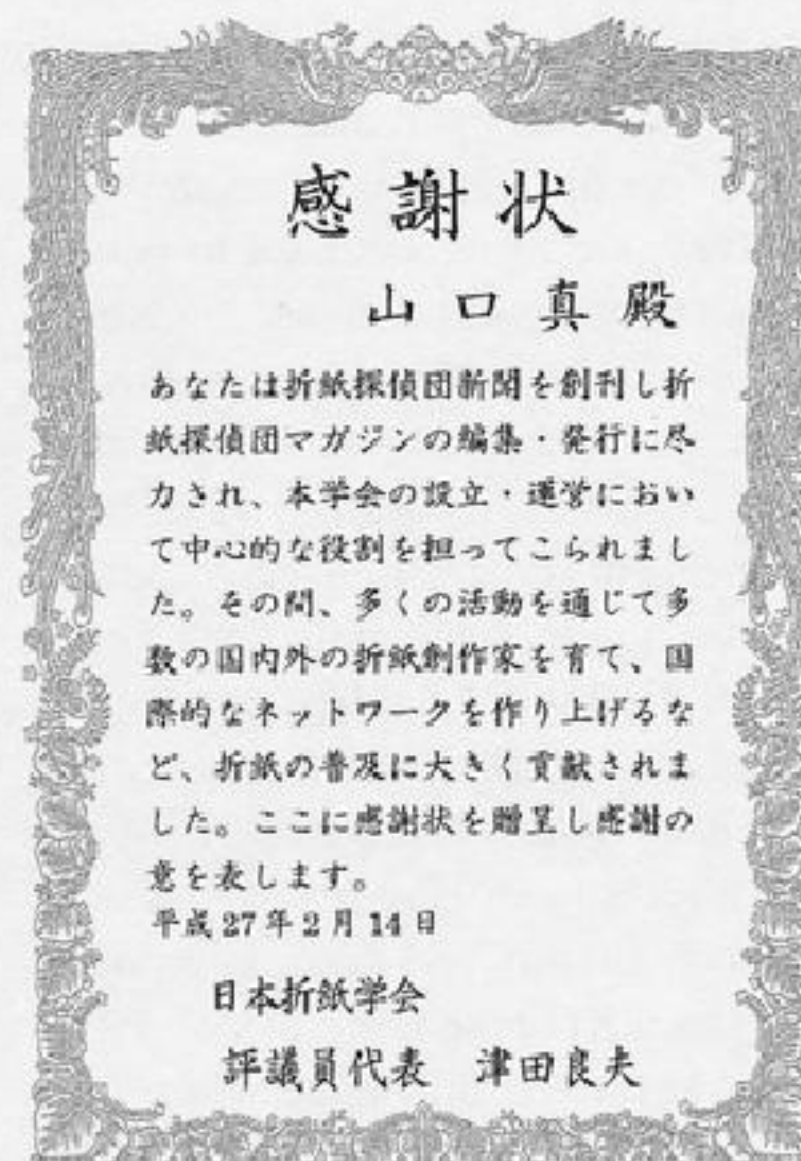
▲Donation to Origami caravan from MFPP

(OUSA) Convention in New York. Deeply impressed by the volunteer based event, he created a similar program a year after, becoming the first Origami Tanteidan convention. Since then, Yamaguchi Makoto participated at all OrigamiUSA conventions for 21 consecutive years, being recognized by OrigamiUSA in 2014. At the convention in New York, Yamaguchi Makoto established an active interchange of information with a network of foreign origami creators and organizers of origami organizations around the world. He also proposed the creation of the Yoshino Issei fund and took the initiative to promote activities to promote young Japanese and foreign origami creators. He was also the one to make sure that the foreign guests would feel welcome when in Japan. Yamaguchi Makoto also started an interchange with OrigamiUSA for a period spanning about 5 years by sending volunteers for the office, starting with Kamiya Satoshi. Such active contributions and exchange activities was recognized by OrigamiUSA, granting life membership, a prestigious recognition only given to very few in the world, like David Brill. Activities above and beyond the work with JOAS include participation to several international conventions and becoming an ambassador of origami to

more than 15 countries as part of Japan Foundation program.

In 2005, a discussion was initiated proposing the celebration of October 24th, the birthday of Lilian Oppenheimer, founder of OrigamiUSA, as the "World Origami Day". Yamaguchi Makoto suggested the idea to also consider November 11th, the "Origami Day" conceived by NOA, and make the period from October 24th until November 11th as the "World Origami Days". Based on that proposal, the World Origami Days (also known as WOD) had been celebrated since 2009, with origami events and individual activities around the globe. OrigamiUSA and JOAS had also collaborated to promote the period by collecting and communicating the activities related to the celebrations. This kind of collaboration also demonstrates the benefits of the exchange of information and support between a Japanese and international organization.

In 2008, recognizing the increasing importance of the emerging topic of origami copyright, Yamaguchi Makoto sponsored the participation of 10 international creators to come to Japan, to start discussions and share information about their own experiences. Yamaguchi Makoto himself described a case in Korea involving his



own works. Now, one positive outcome of the Korean case was the beginning of a long lasting relation with the Korean Origami Association, which can be seen today in the form of the collaboration of the summer conventions in Japan and Korea.

ARCHIVAL COLLECTION / YOUTH TRAINING

It is essential to collect archival to preserve the history of origami. Efforts were made together with the origami historian Okamura Masao in Kyushu Kodama Archives, in order to avoid the materials dissipating into private collections. Yamaguchi Makoto donated many materials and documents that he collected when he was working as an active creator, originating the JOAS library. Currently, he is passionate in supporting the establishment of the Web Museum as well as a research center for young artist and creators.

CREATIVE AND PUBLISHING ACTIVITIES

"Complete Origami Fun" (1980,



▲"Origami is for anyone, anywhere, any time!" With Michael shall, during his visit to Japan



▲Recognition by OrigamiUSA



▲Wearing the vest presented by Peru origami association during assignment with Japan Foundation



▲Origami caravan activity: visit to elementary school and shelters after Great East Japan earthquake



Yamaguchi's Favorite models:
Christmas tree, Shirt And
Renjishi



Kodansha publishing) was the first book published by Yamaguchi Makoto. But, since the creation of Origamihouse in 1989, the focus had been to publish books from various creators. Since then, more than 100 titles were published over a period of 25 years. Innovation and high quality had always been elements of the intense pace to publish 4 titles a year, being among the first to adopt digital publishing systems for origami diagrams, and implementing efficient production processes.

Another noteworthy activity was as planner, advisor, and diagram producer for the ORU magazine (1993-1996, Sojusha). ORU magazine was a high quality magazine for adults interested in origami, which was well received not only among the Japanese readers but also from enthusiasts from the whole world. Japanese creators like Yoshizawa Akira, Kawai Toyoaki, Kasahara Kunihiro, Sano Yasuhiro (NOA director at the time), young creators from Origami Tanteidan, and several international creators were featured in the ORU magazine. This world view was reflected by the advice of Yamaguchi Makoto and sense balance that is essential between origami matters and personalities.

Additionally, the "Garage Book Series" had been expanded based on books of diagrams with large number of steps which were generally more difficult to establish commercially. Most of the books follows the format of the content featuring works of a creator, bound in "cool" black cover. Currently counting 12 titles published, this type of publication of origami model collections had a tremendous impact in empowering the creative origami as well as providing a big contribution for

the development of creators. This style had also been adopted by Nicolas Terry from France, publishing his own series of collections of origami creators.

Of course, this sense of professionalism and high quality from Yamaguchi Makoto is present in the Origami Tanteidan magazine.

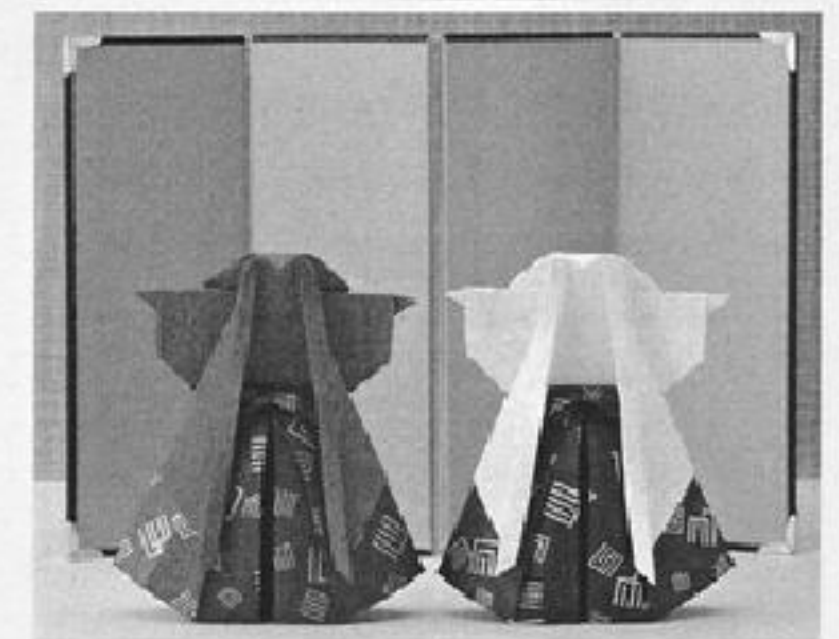
CONCLUSION

The breadth and depth of the results achieved by the many contributions of Yamaguchi Makoto had been described in this article. But of course, due to space limitations, there are omissions. All such activities had been viewed from the top, in anticipation of the future and way of origami. The benefits are beyond JOAS or NOA with impact and reassurance to the large community of origami enthusiasts. I would like to express our appreciation for Yamaguchi Makoto, and will be looking forward for further future activities and contributions.

(Nishikawa Seiji, board member of Japan Origami Academic Society, responsible for the article)

By reading this article, it is easy to understand some of the contributions that Yamaguchi Makoto provided to all of us. However, above and beyond all the material results, I personally have tremendous respect to the warm feelings in all activities for origami. I also sincerely appreciate the support to the young origami folders by providing a meeting place, and then becoming a space for inspiration and creativity. (Tsuda Yoshio, board chair)

Reflecting back, I can see that I started without much thinking and also that I had been a lucky man. Everything a result of always being surrounded by



great people. Of course there were a few sad situations, but what really matters are the many happy moments. And this continues today. There are still a lot of things that I would like to accomplish while I am still healthy. However, I do not worry. And that is because the young generation is now ready. Anyway, this is all a secret :-). I hope it will become successful so that it will increase the recognition of the world of origami, and at the same time a project that I believe should be originated in Japan.

In the beginning, I started creating models hoping that some of them would become traditional over time. However, things does not work in that way. Among the many creations, I can only think of 2 or perhaps 3 such models. The Christmas Tree, the Renjishi (Kabuki dance), and the simple Shirt. Because I created many models, I don't remember them all. So, it is embarrassing that at workshops, I have to refer to the diagrams of my own books.

(Yamaguchi Makoto)